

小樽市

忍路土場遺跡・忍路5遺跡

——北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内
埋蔵文化財発掘調査報告書——

第5分冊

XI 忍路5遺跡

昭和60・61・62・63年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

XI 忍路5遺跡



写真図版 調査状況の気球写真

目 次

1	はじめに	1
2	地 形	1
3	発掘区の設定	1
4	層 序	5
5	遺 構	10
6	遺 物	12
	(1) 土 器	13
	(2) 石器等	20
	(3) 木製品等	31
7	まとめ	59
	写真図版	

凡 例

実測図の縮小は、土器が3分の1。石器は、接合資料、石鏃、石槍、石錐、楔形石器、削・搔器、R・F、U・F、石製品、石核が2分の1。石斧、たたき石が3分の1。石皿が4分の1である。木製品等は、木製品、板材、弓状枝、縦割材が2分の1、杭状材が10分の1である。

土器拓本図の縮小は3分の1である。

図中のスクリーントーン（ドット）表示は、本文中に特に記述がない限り、アスファルトの付着している部分を示す。

XI 忍路5遺跡

1 はじめに

忍路5遺跡は第I章でも触れたとおり、当初は段丘面上の遺跡として捉えられていた。しかし、先行する忍路土場遺跡の調査が進むにつれ、本遺跡の低湿地部分にも包蔵地が広がっている可能性が強まり、発掘調査に先だって低湿地部分に試掘トレンチを掘開した。その結果、忍路土場遺跡ほどの規模ではないが、黒色腐植泥と思われる層の存在が確認され、加工痕のある木も出土したため、急拠発掘調査範囲に含まれることとなった。このため、当初計画していた日程・人員で調査を実施することは不可能となった。

広域農道事業は、三年間にわたる忍路土場遺跡発掘調査のため既に大幅に遅れており、なんととしても十月中に調査を終えて欲しいとの強い原因者側の要望を受けた道教委は、調査体制の増強をはかるべく、文化課の文化財保護主事を調査員として現場に派遣させることとした。また、調査中に各所で壁面の崩落がみられ、土嚢を積み上げながら掘り進める状態となった。殊に82区北側部分では、かなりの量の土砂が崩れたため、調査の続行は無理との判断が下され、82区北側（図XI-3でコンターがしるされていない部分）は、基層までの調査を終えないまま工事側に引き渡さざるを得なかった。

なお、木製品類などに出土地点不明の遺物があるが、これは、台風による冠水で浮き流されてしまったもので、土器・石器類にもグリッド・レベルなどを計測し得なかったものがある。

2 地 形

立地・環境その他の概要については、既に第II章で述べられているので、ここでは今回の調査区にかかる詳細についてのみ記す。

本遺跡は、蘭島川と種吉沢川との合流点下手、丁度、海岸砂丘の後背湿地への変換点に所在する（図XI-1）。従って、忍路土場遺跡以上に河川の影響を強く受けている。調査区内にも大きく二つの湾曲部（図XI-2・3）がみられるが、いずれも蘭島川の蛇行の痕跡である。また、調査区東側には北流して蘭島川に注ぐ無名沢があり、地形と土層を更に複雑なものにしている。忍路土場遺跡に比して、砂礫層が多く黒色腐植泥の堆積が悪いのは、こうした河川の度重なる流路変更や氾濫の結果であろう。

本遺跡の主体部は、無名沢の右岸、市道土場通り線を挟んだ緩斜面にあると思われる。西流する蘭島川を正面北に、ストーンサークルのある地鎮山を東側背後にした位置関係は、種吉沢川と忍路環状列石（三笠山ストーンサークル）に対する忍路土場遺跡のそれと同様である。

標高は、忍路土場遺跡の生活面が14m前後であるのに対し、本遺跡の遺構確認面は9.5m前後である。

3 発掘区の設定

発掘区は、計画道路のセンターラインを基線とし、4,900m地点をX=5、Y=2とし、X軸の正方向を東側とし、Y軸の正方向を北側とする座標を設定した（図XI-4）。

グリッドは（X、Y）で表示する10m×10mの大グリッドを基本とし、各々の大グリッドを100個の1m×1mの小グリッド（x、y）に分割した。各グリッドの表示は、大グリッドの場合00区、51区、10・1区などとし、小グリッドを指す場合には、00-99区、12-50区、10・1-05区などとした。また、個々の遺物の出土地点計測は、小グリッド内においてcm単位で実施し、一覧表などでは（x'、y'）で表示している。

なお、X軸の方位は、N-46°20'Eである。

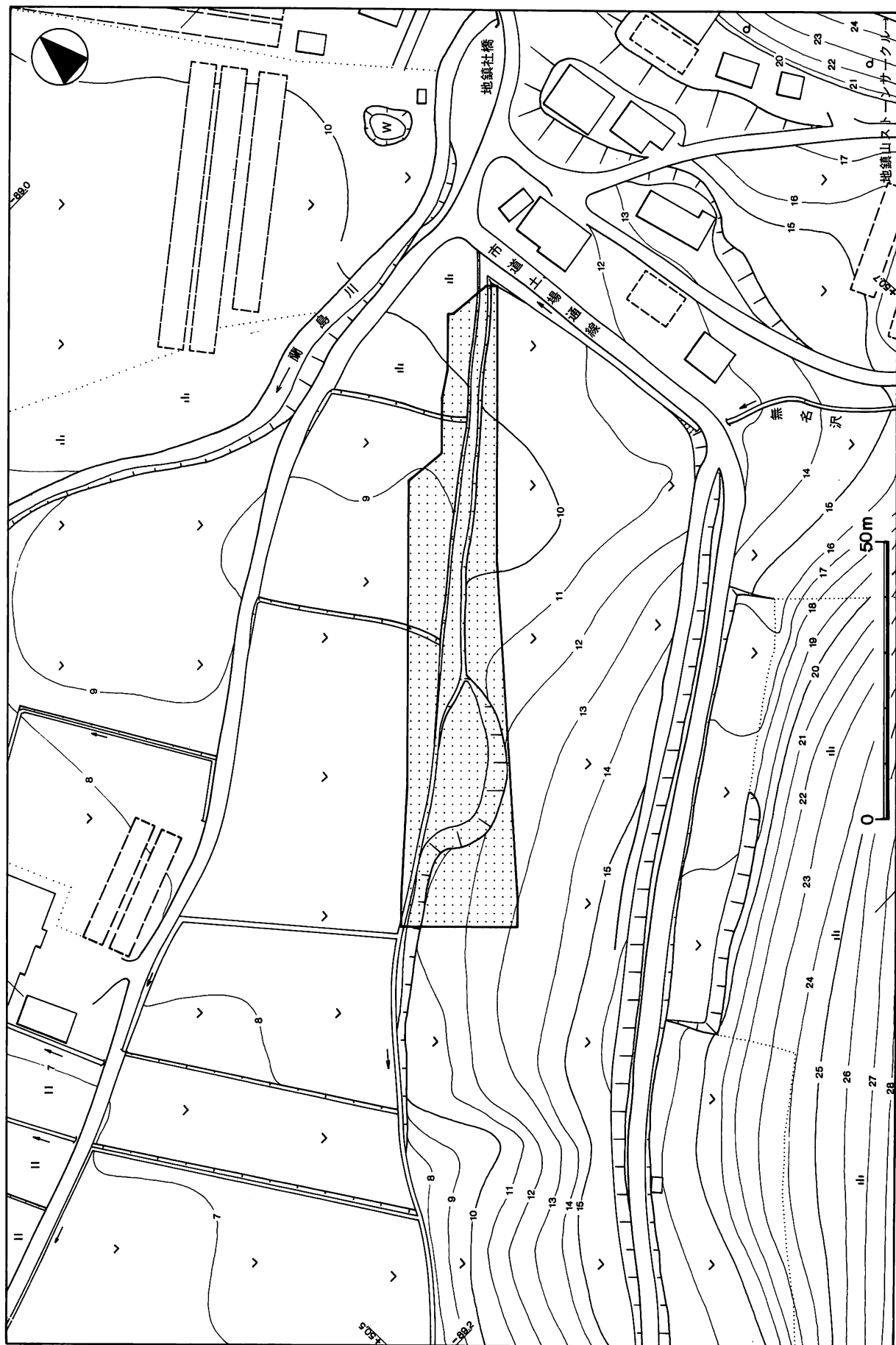
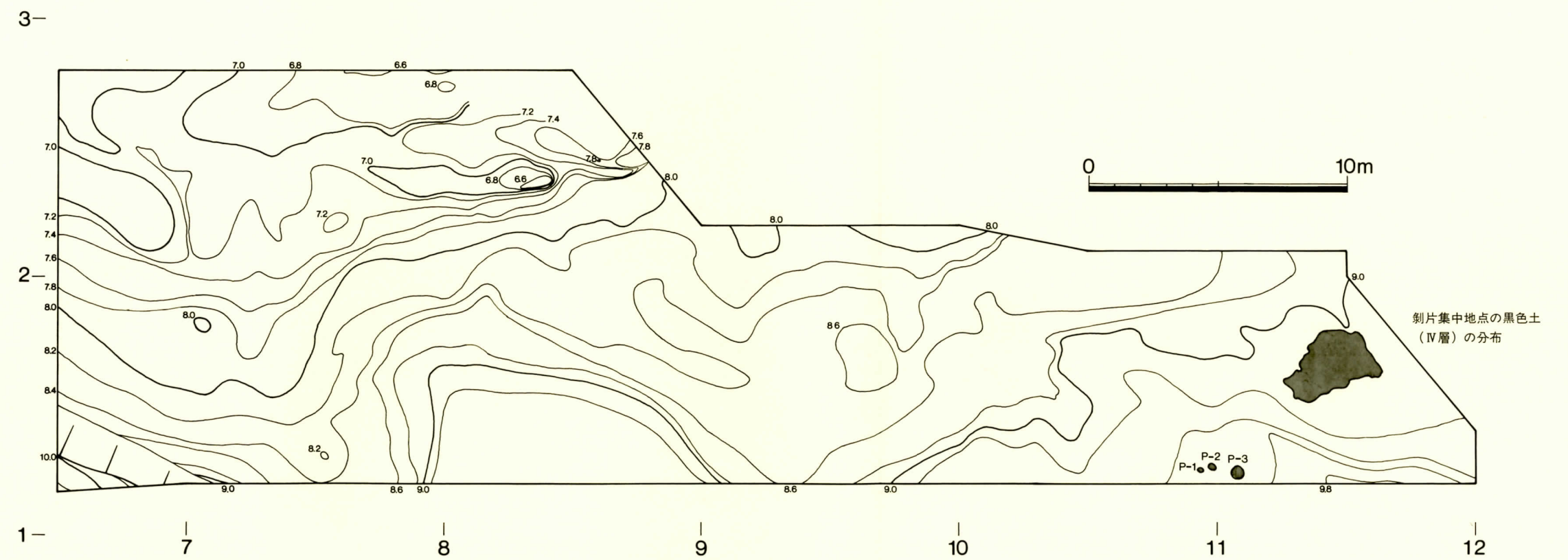
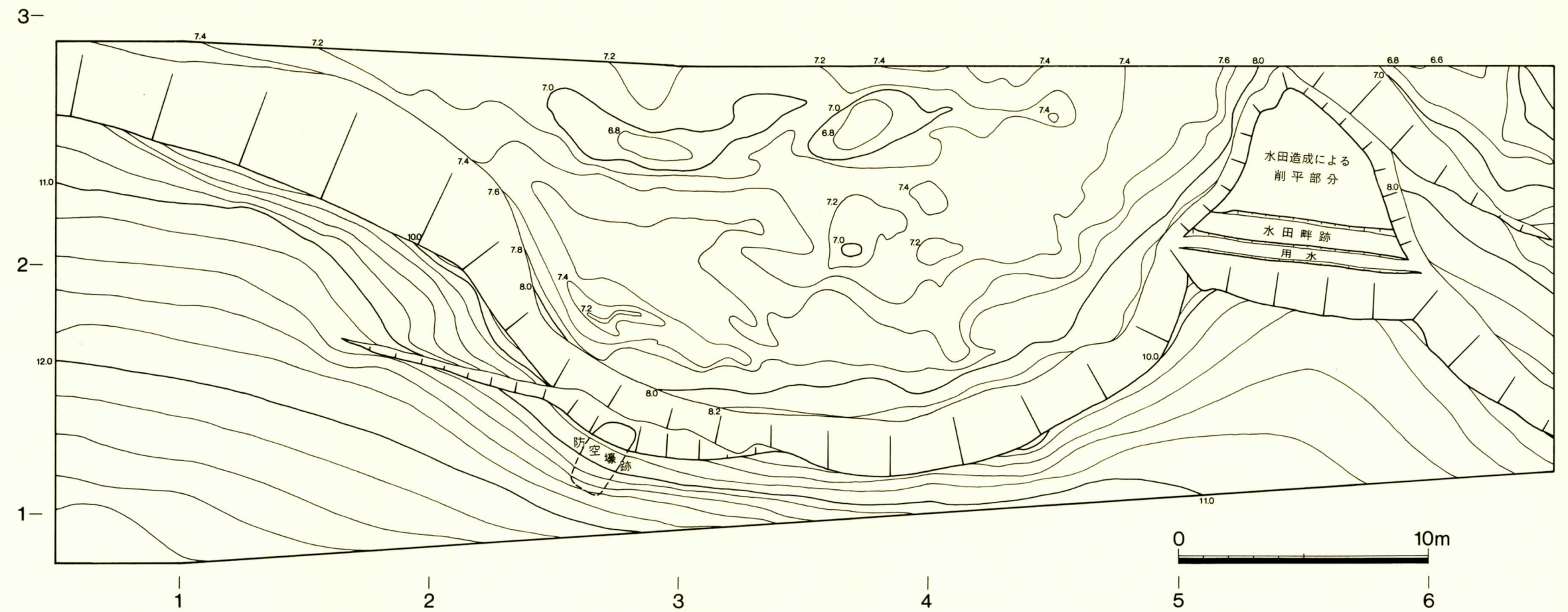


図 XI-2 発掘調査区と周辺の地形

発掘調査区 (座標系は、昭和43年建設省告示 第3059号の規定の第Ⅱ座標系)



図XI-3 発掘区コンター及び遺構位置

4 層 序

土層観察用のベルトはX軸方向に3本、Y軸方向に4本設定した（図XI-5～8）。

基本層序は以下のとおりである。

I 層 表土（耕作土・盛土）。層厚10～95cm。黒褐色を呈す。

II 層 黒色腐植土（忍路土場遺跡のII a 層上部に対比する遺物包含層）。層厚1～20cm。黒色～暗褐色を呈す。段丘状の部分においては、耕作による攪乱と流失によって、11・1区の一部を除いて完全に失われている。段丘斜面には流れ込みによって比較的厚く堆積しているが、近・現代の遺物も含まれている。低湿地部分では、III層の上部に位置する黒色～暗褐色土を指すが、大半は流れ込みによる二次堆積である。

a₁ 層 赤褐色砂層。層厚1～30cm。a 層は、X 9 ラインを南から北へ流れる無名沢の運搬堆積物と考えている。

a₂ 層 赤褐色砂礫層。層厚1～30cm。

b 層 乳白色細砂層。層厚1～30cm。III層の砂よりも細かいシルト質。分布は82-00区から92-50区周辺である。a 層同様に無名沢の運搬堆積物と思われるが、前後関係は不明である。

a 層及びb 層の堆積時期は、続縄文時代半ば以降である。

III 層 灰色砂層。層厚10～100cm。部分的に赤褐色を呈す。比較的新しい時期に蘭島川がもたらした運搬堆積物と考えている。基本的には無遺物層であるが、陶磁器片・加工木などが混入している。

III' 層 IV層土の薄い帯を含むIII層。

IV 層 黒色腐植土（忍路土場遺跡のII a 層下部に相当する遺物包含層）。層厚1～50cm。黒色～暗褐色を呈す。91区～11・1区の標高9 m 以上の地点に良好にみられる。なお、この地点ではa 層を境にII層と区分したが、河川堆積物の入らない段丘上では忍路土場遺跡A地区・B地区と同様に区分できない。なお、二つの湾曲部（以下、西湾・東湾と呼ぶ）においては、III層中にみられる黒色～暗褐色土を指すが、二次堆積であり、近・現代の遺物の混入がみられる。

IV' 層 漆黒色土。10・1区の段丘縁辺部にみられる。IV層及びIII層との境は分明ではなく、漸移的に移行する。常に水付き状態にあった部分と考えられる。

V 層 砂礫層。層厚1～160cm。蘭島川の運搬堆積物と考えている。珪岩の転石を多く含む。この石は、石器の原材としても使用されている。本来の遺物包含層ではないが、土砂と共に移動し、そのために多くは摩耗した遺物が、かなりの量挟在する。遺物の時期は、縄文時代中期から擦文時代までであり、VII層の一部からII層までの包含層を攪乱していることがわかる。

VI 層 遺物包含層。層厚1～25cm。V・VII層中にみられる黒色～暗褐色土を指す。なお、V層中にみられる黒色土は、91区～11・1区の標高9 m 以上の段丘面にみられるIV層土（黒色腐植土）の、流れ込みによる二次堆積である。また、VII層中にみられる黒色土は、より古い時期に形成された黒色腐植泥層の可能性もあるが、現時点では判然としない。

VI' 層 VII a 層の砂を含むVI層。

VII a 層 青灰色砂層。層厚1～100cm 以上。標高8 m 以下の低地に存在する。殊に72区、82区の深みに顕著にみられる。残念ながら前述した崩落事故のために基盤層まで調査する事ができず、全容は不明である。縄文時代後期以前の遺物を含んでいる。

VII a' 層 VI層土の薄い帯を含むVII a 層。

VII b 層 青灰色砂礫層。層厚1～50cm 以上。VII a 層同様に全体は把握できていない。遺物を含む。

VII b'層 VI層土の薄い帯を含むVII b層。

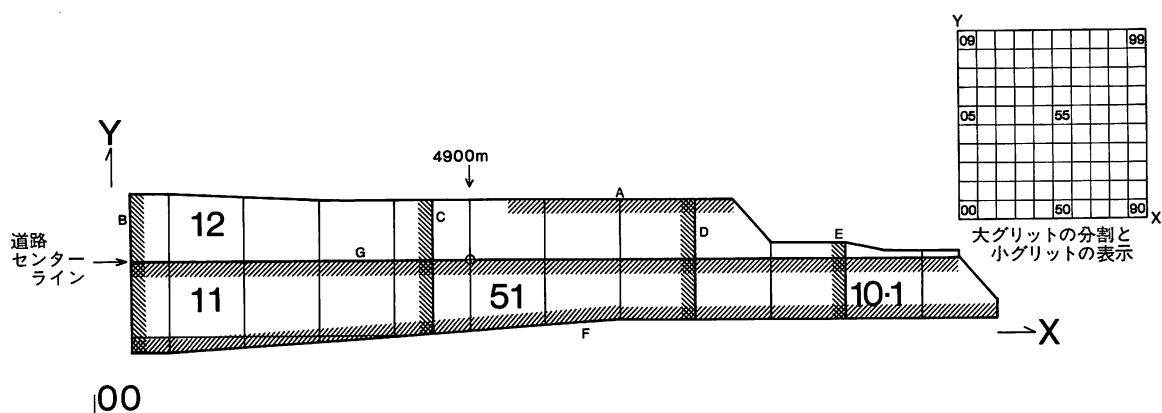
VIII層 基盤層。黄褐色を呈す。

VIII'層 漸移層。暗黄褐色を呈す。

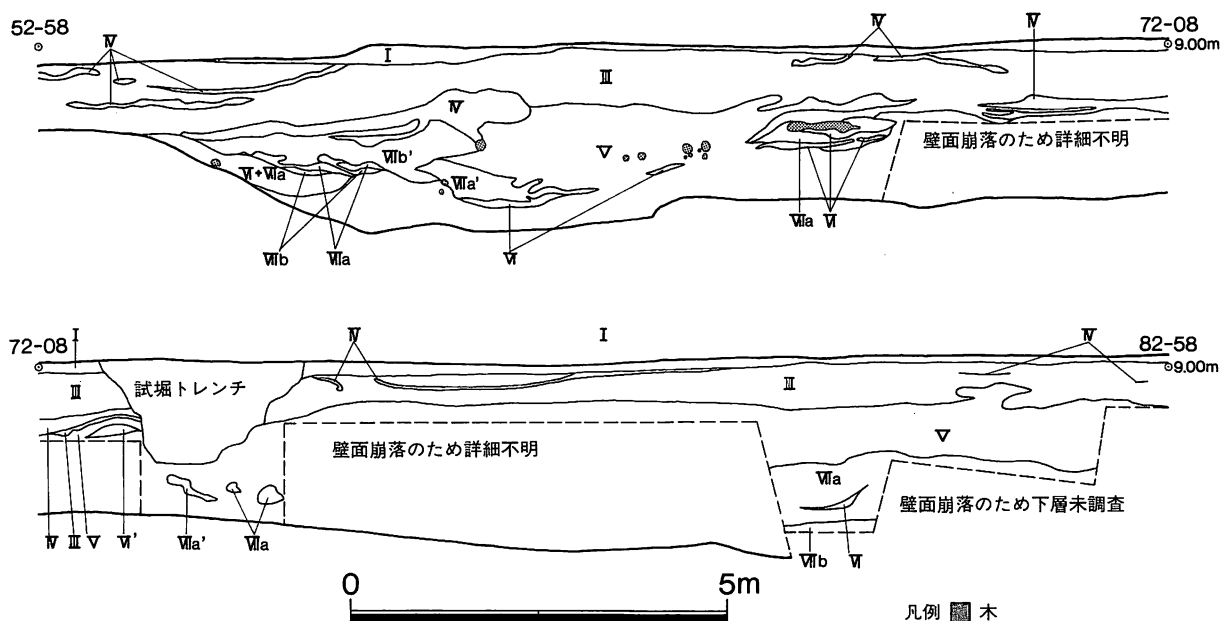
VIII''層 漸移層。暗黄褐色を呈し、角礫を多く含む。

本遺跡では、低湿地部分において忍路土場遺跡のような安定した生活面は捉えられていないが、両者の堆積状況や遺物の在り方から推察すると、本遺跡でVII a層としたものが、忍路土場遺跡のIV層に相当すると考えられる。忍路土場遺跡では、これ以降の段階でかなり安定した状況が生まれた訳であるが、本遺跡の場合には、その後に蘭島川の流路変更や氾濫の影響を大きく受けたために、生活面が形成され得なかったか、あるいは一時的に形成されたとしても、その後の河川の影響によって押し流されてしまっている。また、VII a層自体も段丘縁辺の澱み部分や、72区、82区の標高7 m以下の範囲にしか残されていない。

今回の調査区において生活面として捉え得たのは、わずかに10・1区、11・1区の標高9 m以上の地点に残されたIV層中の遺構面だけである。



図XI-4 発掘区の設定と表示（斜線と記号は土層断面図の位置と記号を示す）



図XI-5 土層断面 (A)

02-59
○13.00m

00-58

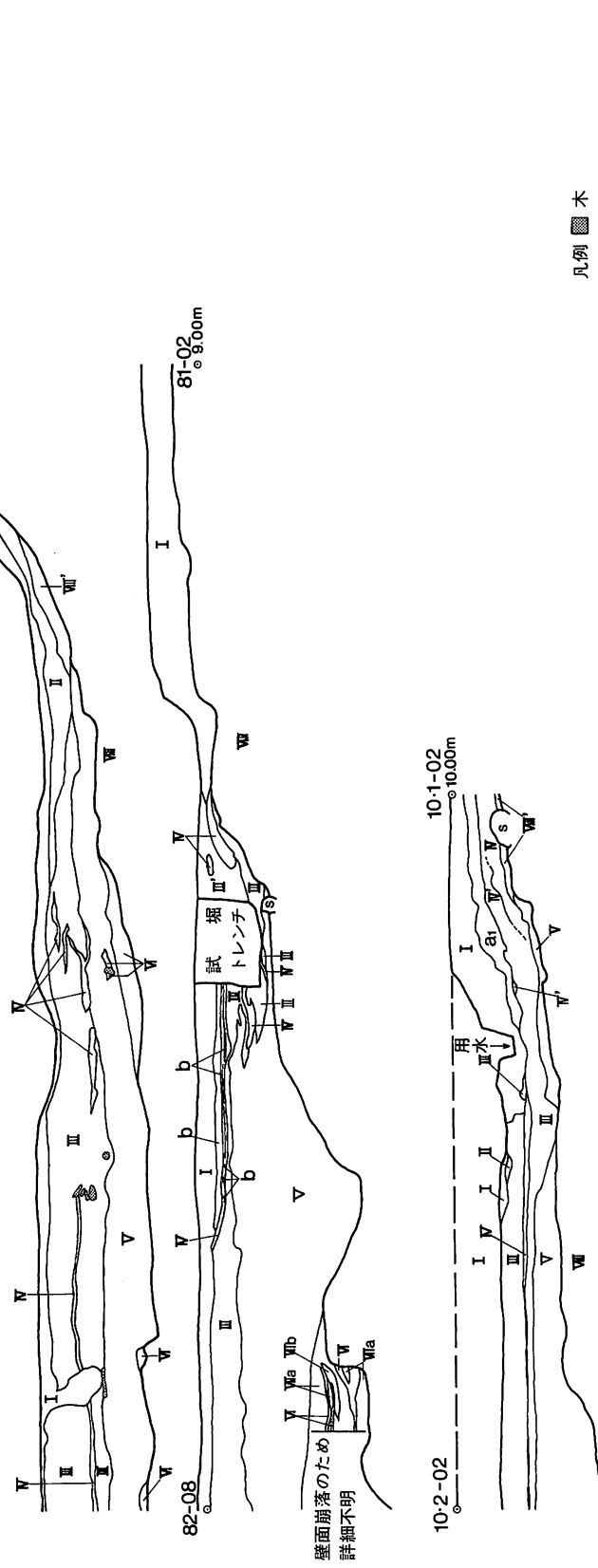
42-58
○

41-50
○10.00

81-02
○9.00m

10-1-02
○10.00m

10-2-02



凡例 木 礫
(S)

0 5m

図XI-6 土層断面 (B~E)

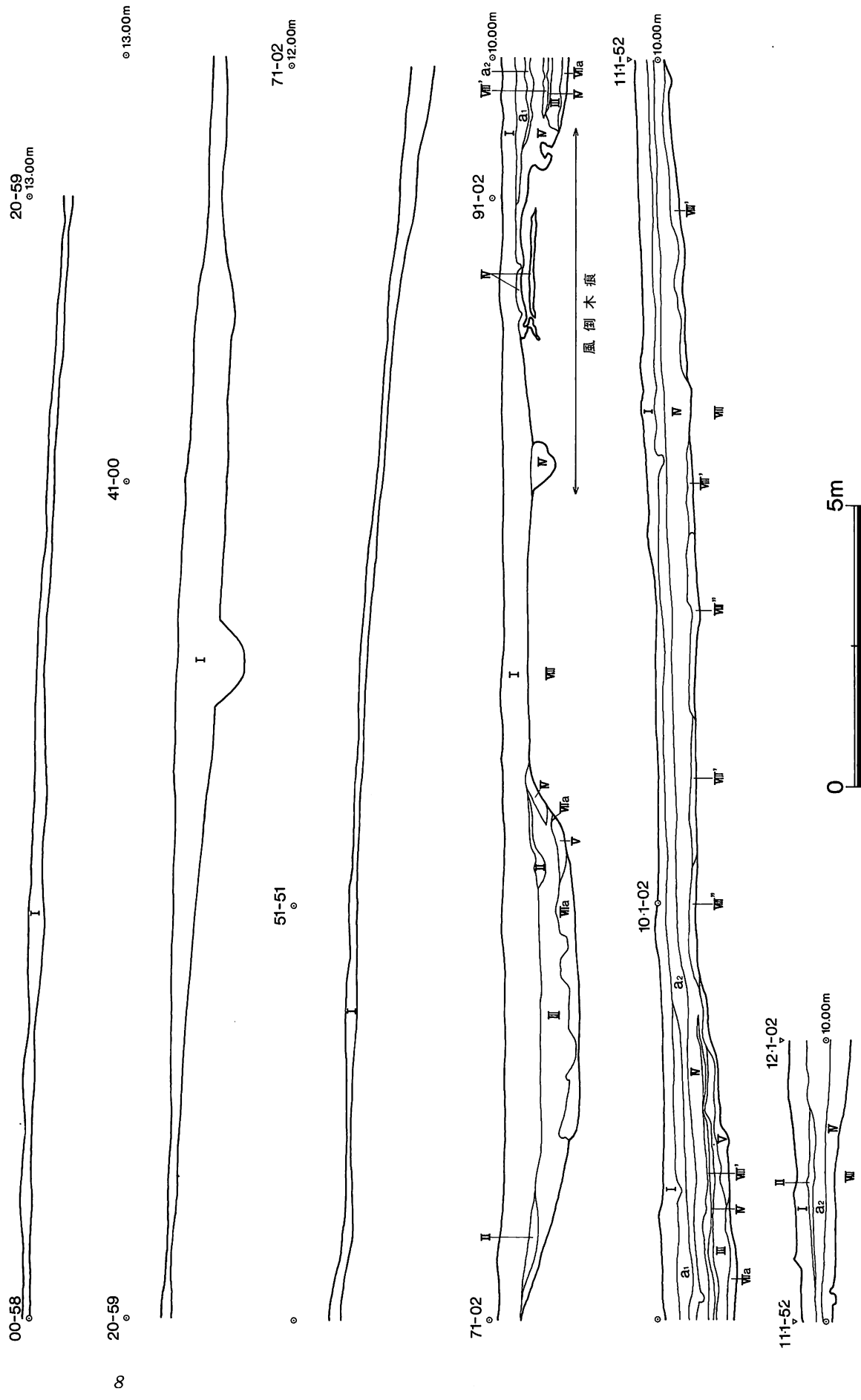


図 XI-7 土層断面 (F)

02-50
○ 12.00m

22-50
○ 12.00m

0 5m

22-50
○

42-70
○ 9.00m

52-00
○

72-00
○ 9.00m

72-00
○

92-20
○ 9.00m

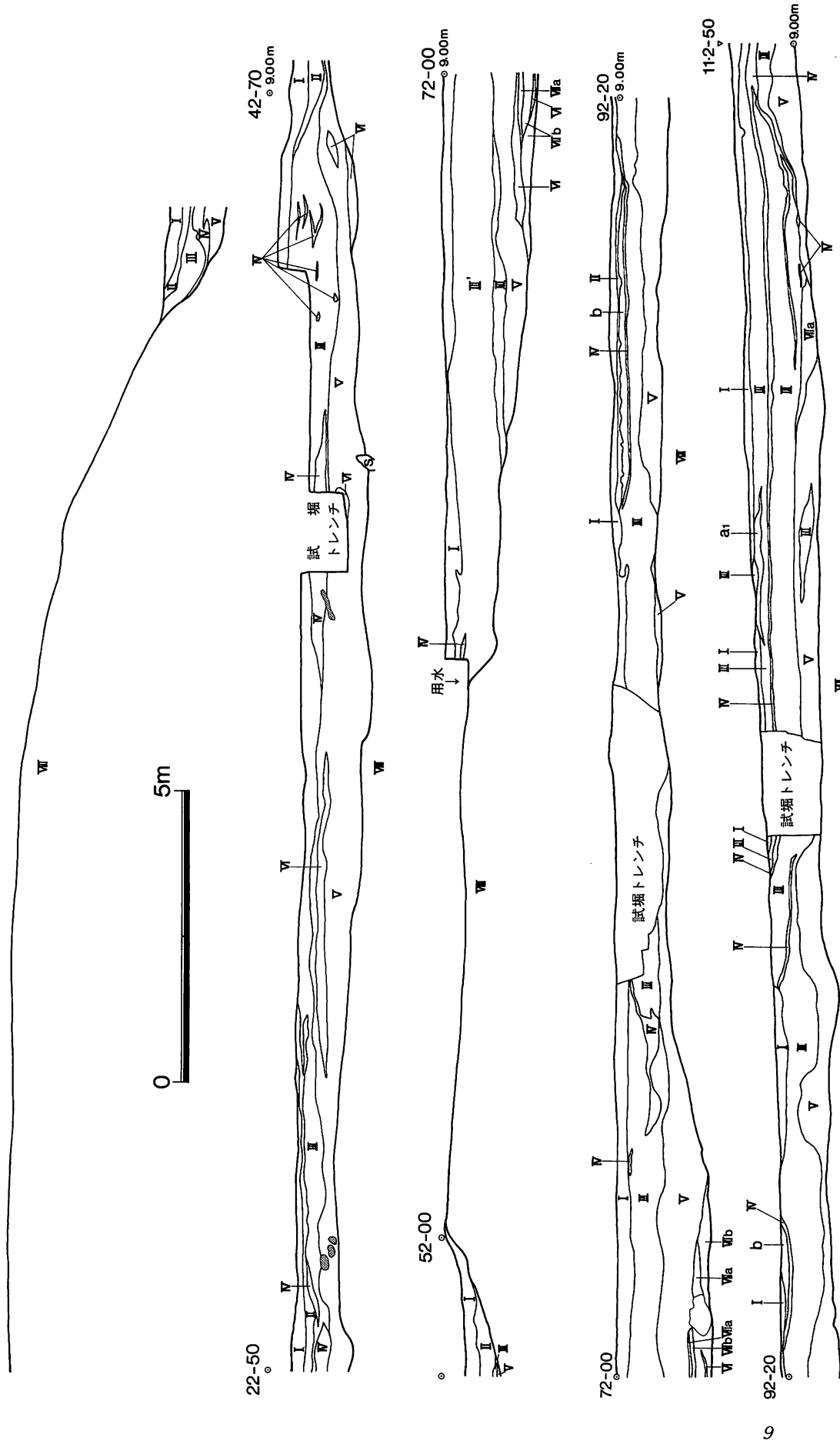
○

92-20
○

112-50
○ 9.00m

図XI-8 土層断面 (G)

XI 忍路5遺跡



5 遺 構

今回の調査で確認した遺構は、小ピット 3 基である。また、11・1区IV層中に剥片の集中出土がみられたので、併せて記載する。

(1) 小ピット (図XI-9)

ピット 1 大きさは、確認面 $27 \times 20\text{cm}$ ・墳底面 $14 \times 9\text{cm}$ ・深さ 17cm 。半ば水付きの状態を確認した。

ピット 2 大きさは、確認面 $32 \times 28\text{cm}$ ・墳底面 $20 \times 10\text{cm}$ ・深さ 14cm 。掘開と同時に湧水がみられる。

ピット 3 大きさは、確認面 $54 \times 52\text{cm}$ ・墳底面 $47 \times 39\text{cm}$ ・深さ 9cm 。墳底付近で湧水がみられた。

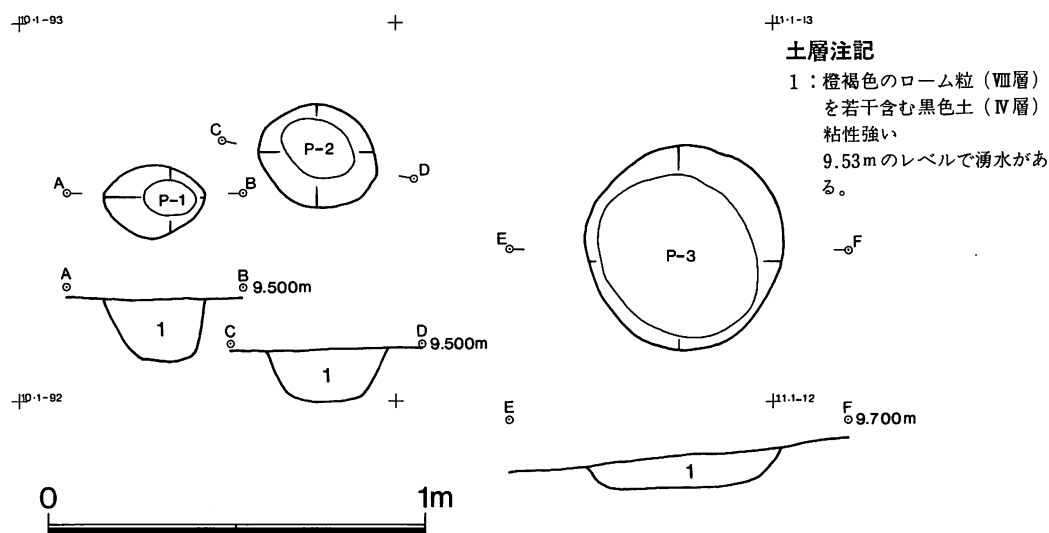
これら3つのピットの覆土は、いずれも確認面から墳底面間でほぼ一様にVIII層土を斑状に含むIV層土である。掘り込み面はIV層中にあり、埋め戻されていた可能性が強い。ピット内からの遺物の出土はない。

なお、図XII-25(図番70)の石製品は、ピット3から2m足らずの地点から出土しており、レベルも同一で、同時期の遺物と思われる。

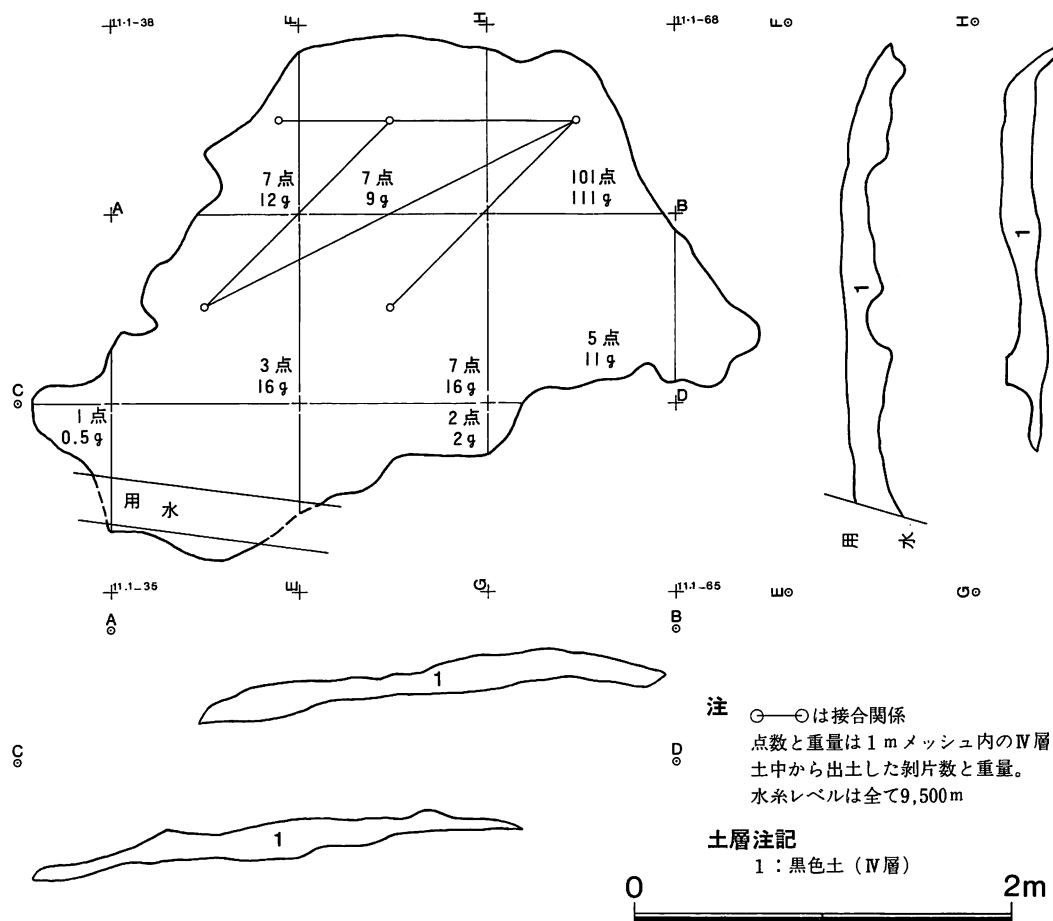
これらピット周辺のIV層土中からは、縄文時代晩期及び続縄文時代恵山期の遺物が出土しており、ピット自体もいずれの時期の所産であるかは判然としない。

(2) 剥片集中地点 (図XI-10)

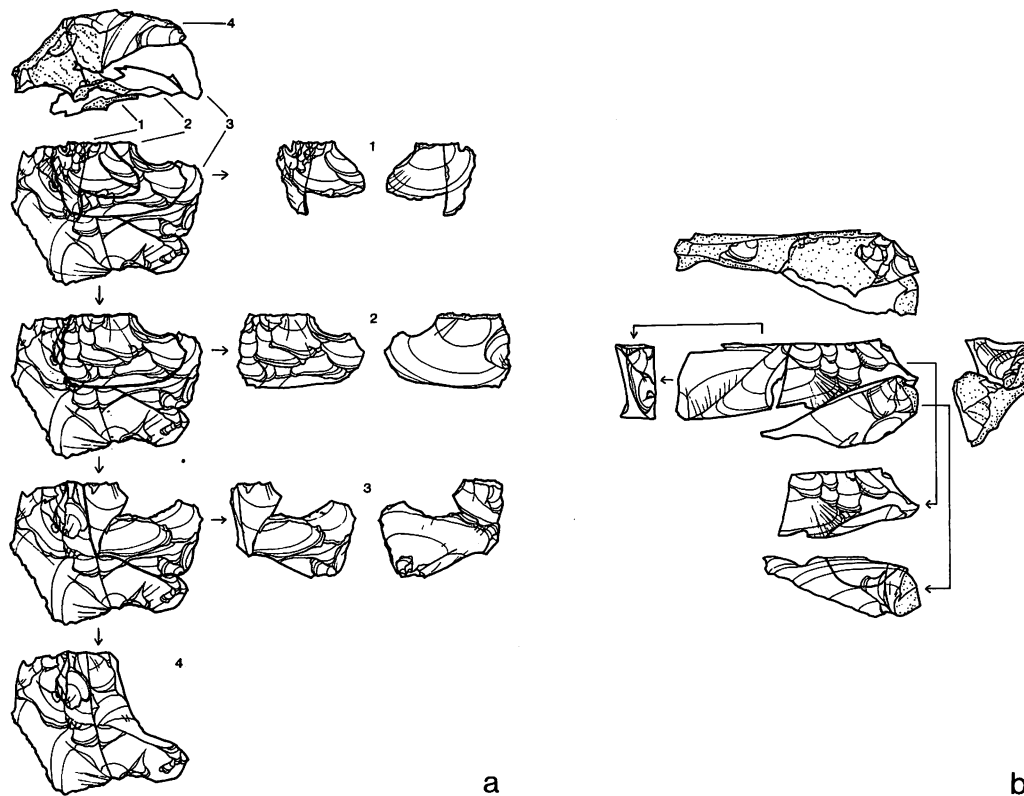
11・1-57区を中心に、黒曜石の剥片が集中して出土している。この部分は、IV層が比較的厚く堆積しており、その上半部に剥片がみられた。出土点数と重量は図10に示したとおりで、11・1-57区の出土量が際立っている。これは、元来この地点にあったものが、周辺に流れて散在したことを示唆しているものと考えられる。接合の結果、原石は図11に示した二個体が中心で、他の原石の剥片が若干ある。図示した二個体の接合資料は、いずれも相当数の剥片が抜けている。従って、目的剥片を得た後に廃棄された剥片類と考えられる。



図XI-9 ピット平面及び断面



図XI-10 剥片集中地点の黒色土 (VI層) の分布平面及び断面



図XI-11 剥片集中地点接合資料

遺物は、各層にわたって総計5,559点が出土している。しかし第4節(層序)で述べたように、今回の調査区は河川の氾濫などの影響を強く受けており、各層出土の遺物が必ずしもその層順どりのタイムスケール足り得るとは限らない。その中であって、10・1区、11・1区のⅣ層は比較的安定した様相を呈しており、かつ小ピットや剥片の集中などがみられる点に、生活面の存在が強く窺われる。また、72区、82区のⅦa層については、土器に摩耗がさほどみられない点や出土状態などから、比較的安定した時期が存在したものと思われる。

表Ⅺ-1 出土土器(縄文時代中期)層・グリッド別一覧

[illegible]

Figure 1 illustrates the arrangement of 1730 points across six layers (I to VI) in a 3D coordinate system. The layers are represented by 3x11 grids. The points are distributed as follows:

- Layer I (246 points):** Points are located at (1,1)=4, (1,2)=29, (1,3)=104, (1,4)=70, (1,5)=32, (1,6)=270, (1,7)=224, (1,8)=154, (1,9)=58, (1,10)=22, (1,11)=3.
- Layer II (125 points):** Points are located at (2,3)=3, (2,4)=3, (2,5)=2, (2,6)=2, (2,7)=3, (2,10)=15, (2,11)=4.
- Layer III (222 points):** Points are located at (3,2)=2, (3,3)=11, (3,4)=2, (3,5)=19, (3,6)=19, (3,7)=8, (3,8)=11, (3,9)=11, (3,10)=1.
- Layer IV (222 points):** Points are located at (4,2)=1, (4,3)=23, (4,4)=92, (4,5)=57, (4,6)=9, (4,7)=230, (4,8)=202, (4,9)=128, (4,10)=47, (4,11)=3.
- Layer V (1102 points):** Points are located at (5,3)=14, (5,4)=29, (5,6)=31, (5,7)=58, (5,8)=31, (5,9)=76, (5,10)=16, (5,11)=44.
- Layer VI (28 points):** Points are located at (6,5)=1, (6,6)=17, (6,7)=7, (6,8)=3.

The total number of points is 1730.

表 XI-3 出土土器(縄文時代晩期)層・グリッド別一覧

[illegible]

表Ⅺ-4 出土土器(続縄文時代)層・グリッド別一覧

[illegible]

表Ⅺ-5 出土土器(擦文時代)層・グリッド別一覧

表Ⅺ-6 出土土器(全体)周・グリッド別一覧

[illegible]

(1) 土 器

前頁の表に示すとおり、出土遺物のおよそ二分の一は土器であり、量的に中心となるのは縄文時代後期から晩期のものである。

I 層出土の土器 (図XI-12, 1~12)

523点が出土している。興味深いのは段丘面上に位置する51区で、ここは耕作によって包含層が失われているため、遺物は全てI層からの出土であるが、全点が縄文時代晩期のものである。このことは、本来この地点にも10・1区、11・1区のIV層に相当する包含層が存在していたことを示唆するものであろう。

拓本1は後期初頭余市式相当のものである。地文はLR縦位回転の斜縄文で、地文施文後に付された二本の貼付帯と垂下する貼付帯上にも、同一原体とみられる縄文の押圧がある。2は口縁部で後期中葉手稻式以降のものである。摩耗が顕著であるが、器面は丁寧に磨かれていたであろう。3は底部破片で、横位の磨き痕がみられる。摩耗が著しいが後期中葉のものか。4は手稻式あるいは縄澗式土器の突起である。やや内傾する口唇上に大きな渦巻状の突起が貼り付く。5・6は縄澗式土器の口縁部で、6は肥厚した口唇を有し、横走する二条の沈線と刻目列がある。7はLR斜縄文を地文とし、肩部に横走沈線が廻るもの、8は口唇上に押圧を加え波状にしたもので、内側から外側への突瘤文が施される。いずれも後期後葉のものである。9~11は口縁部の破片で、二段の爪形文がみられる。晩期初頭の上ノ国式に相当するものである。12は縦位の細かな縄文がみられる胴下部片で、続縄文時代の後北C式土器である。

II 層出土の土器 (図XI-12, 13~20)

340点が出土している。時期別には、縄文時代晩期が211点とほぼ三分の二を占めている。

拓本13・14は口唇直下に横走する貼付帯をもち、14は外から内への突瘤文が施される。余市式併行のものであろうか。15は肩部の破片で、一条の沈線によって無文帯と文様帯とが画されるもので、沈線下には刻目列がある。後期中葉の縄澗式であろう。16・17は爪形文が施されるもので、17の口唇直下には突起が付されている。晩期初頭の上ノ国式併行のものであろうか。18は口縁部近くの破片で、刺突文がみられる。摩耗が著しく判然としないが、晩期のものであろうか。19は口縁部片で、三条の沈線を廻らせ、小突起をもつ。大洞式併行のものであろうか。20は上げ底状を呈する底部片で、晩期のものと思われる。

IV 層出土の土器 (図XI-12, 21~52)

499点が出土している。10・1区、11・1区の段丘面に縄文時代晩期、続縄文時代恵山期の土器が集中することは既に述べたが、他の時期のものもその段丘面に近い部分に多くみられる。

拓本21~23は中期後葉に相当するもの。21は肩部片で、斜縄文を地文に一条の沈線がみられる。22は口縁部片で、羽状縄文が施されている。23は頸部片で、斜縄文が施されている。24・25は後期前葉の土器である。24は薄手で細い平行沈線が施される。25にはカギの手状の沈線が施されている。26~33は縄澗式土器である。26・27は磨消縄文で、27の沈線下には刻目列がみられる。28以降は縄澗式の中でも比較的新しいタイプのものである。34は口唇に押圧を加えて小波状にしたもので、後期後葉の土器であろうか。35~39は、いずれも口縁部に一・二段の爪形文あるいは円形刺突文が配されるもので、晩期の上ノ国式に相当する40・41は大洞式に相当する口縁部片と肩部片である。42・43はいずれも上げ底状を呈する底部片で、晩期のものと思われる。44・45は沈線と刺突文をもつ口縁近くの破片、46~48は口縁部片で、いずれも続縄文時代の恵山式に相当するものである。また、49の底部片も同じく恵山期のものと思われる。なお、遺構の項で述べたように、これらの土器は小ピット周辺の10・1区、11・1

区から出土している。50～52は縄文時代後北C式土器である。

V層出土の土器（図Ⅺ-13, 53～220, 図Ⅺ-17, 1）

1,352点が出土している。地区的には62区, 72区に集中しており, 本来IV層中にあったものが動かされて溜った様子を示している。

拓本53～60は縄文時代中期のもので, 53～56は天神山式に相当する。57は, 口唇から垂下する貼付帯を基準に縄線文が付され, 貼付帯上には刺突文が施されている。円筒上層式に相当するものであろうか。61～66は縄文時代後期の余市式併行のものである。61は羽状縄文を地文とし, 口唇に貼付帯を廻らせたもので, その上に刺突が施されている。67～69はいずれも後期の土器かと思われるが, 判然とはしない。なお, 68の胎土には海綿骨針が含まれているのが目につく。70・71はいずれも口縁近くの破片で, 大津式に相当するものであろう。72は胴上部片で, カギの手状の沈線が三条みられる。ウサクマイC式相当であらうか。73～76は船泊上層式相当の土器である。77～86は後期中葉の手稻式土器, 87～139は鯔澗式土器で, 112以降は比較的新しいタイプのものである。

後期中葉（手稻式から鯔澗式）の土器には, ①沈線と刻目列の組み合わせ, ②磨消縄文のもの, ③横走沈線と円弧文の組み合わせ, ④口唇に押圧が加えられその下を沈線が廻るもの, ⑤羽状縄文と④の文様の組み合わせ, ⑥縄文だけのものなどがある。なお, ①の沈線と刻目列の組み合わせのものは, 口唇の断面が切り出しナイフ状を呈するものが多い。140～142は注口をもつ鯔澗式土器である。143～158は手稻式もしくは鯔澗式土器である。159～162は後期末葉の堂林式に相当する。163～206は縄文時代晩期の土器である。後期末葉から晩期前葉にかけての土器は, ①突瘤文, ②波状口縁, ③爪形文, ④列点文, ⑤円形刺突文, ⑥横走沈線文などの文様構成のものがある。163～199は上ノ国式, 200～207は大洞A式に相当する。208～219, 実測図1は縄文時代の土器である。208は, 貼付帯を基準に左右に沈線を配すもので, 地文には細かい縄文が施されており, 縄文時代初頭の大狩部式土器に相当するものと思われる。実測図1は恵山式土器の口縁近くから同上半部で, IV層の遺構周辺から出土したものと同時期のものである。209は後北A式, 210～217は同C式土器である。215・216は, 帯状縄文で文様を描き, 微隆起線で縁取りし, 三角形の刺突文をその間に配するものである。なお, 218・219は縦走する帯状縄文をもち, 上げ底を呈する底部で, 恵山式もしくは後北式のものであろう。220は外面は斜め方向, 内面は横方向にナデ整形されたもので, 土師器の杯の底部から立ち上がり部分の破片と思われる。221は擦文土器の胴部片で内面に縦方向のハケ目がみえる。土師器・擦文土器は, 本層からはいずれも1点のみの出土である。

VI層出土の土器（図Ⅺ-16, 222～236）

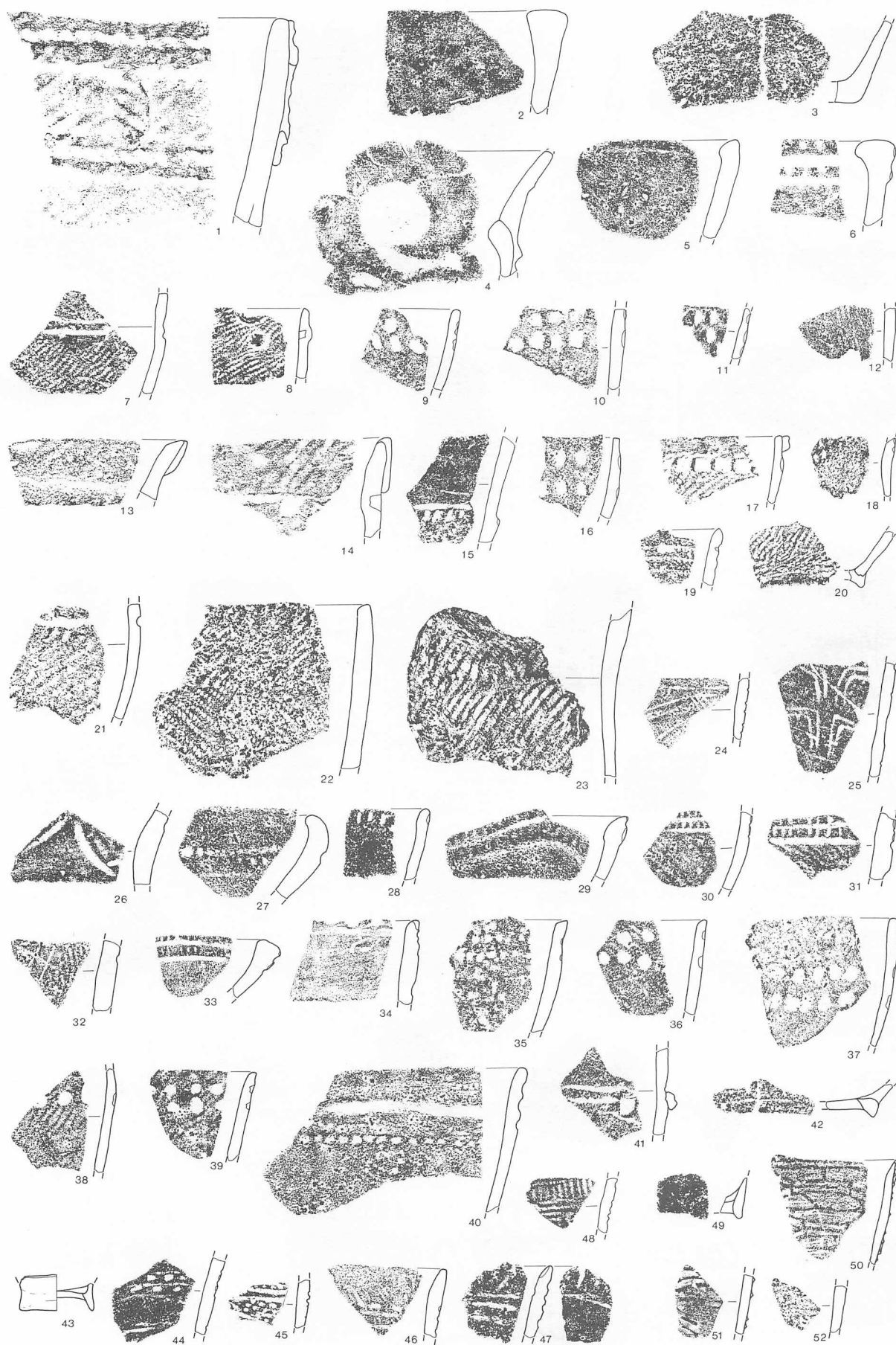
35点の出土である。出土地点は52区から82区の間に限られている。拓本222・223は縄文時代中期のもので, 222は天神山式併行のものである。224～227は後期の土器で, 224は手稻式, 225～227は鯔澗式である。228・229は晩期のもので, 228は初頭のもの, 229は大洞C₂～A式相当である。230は縄文時代恵山期のものである。

VII a層出土の土器（図Ⅺ-16, 231～233, 図Ⅺ-17, 2）

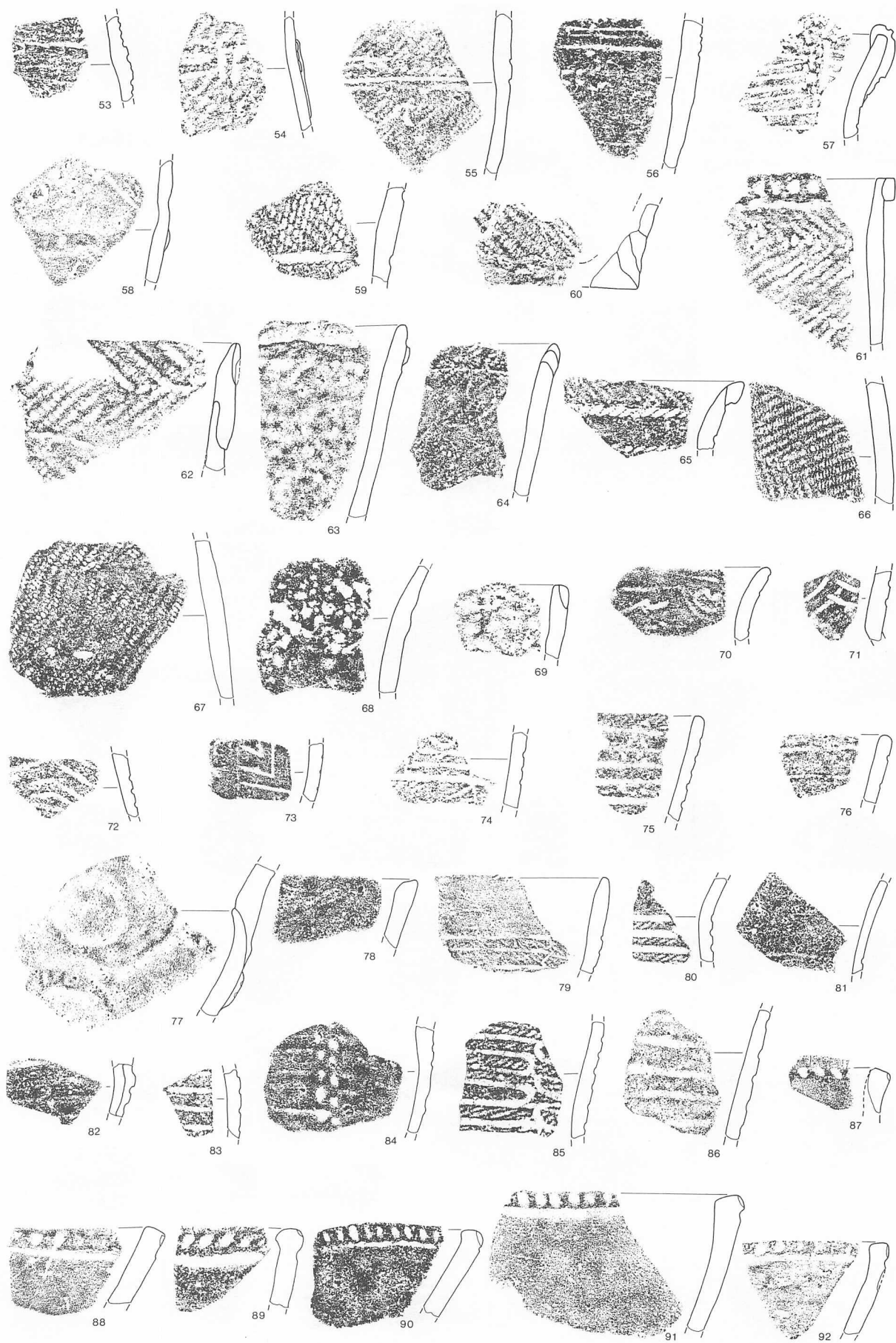
5点が出土している。出土地点は72区, 82区である。実測図2は, 72～96区から倒立した状態で出土した円筒土器上層式d併行のもので, さほど摩耗は受けていない。拓本231は縄文時代中期の天神山式, 232・233は鯔澗式土器である。

VII b層出土の土器（図Ⅺ-16, 234～236）

62区から2点, 82区から1点の計3点が出土している。234は手稻式, 235は鯔澗式土器で, 236はそのいずれか判然としないものである。



図XI-12 出土土器拓本 (1)



图XI-13 出土土器拓本 (2)



図XI-14 出土土器拓本(3)

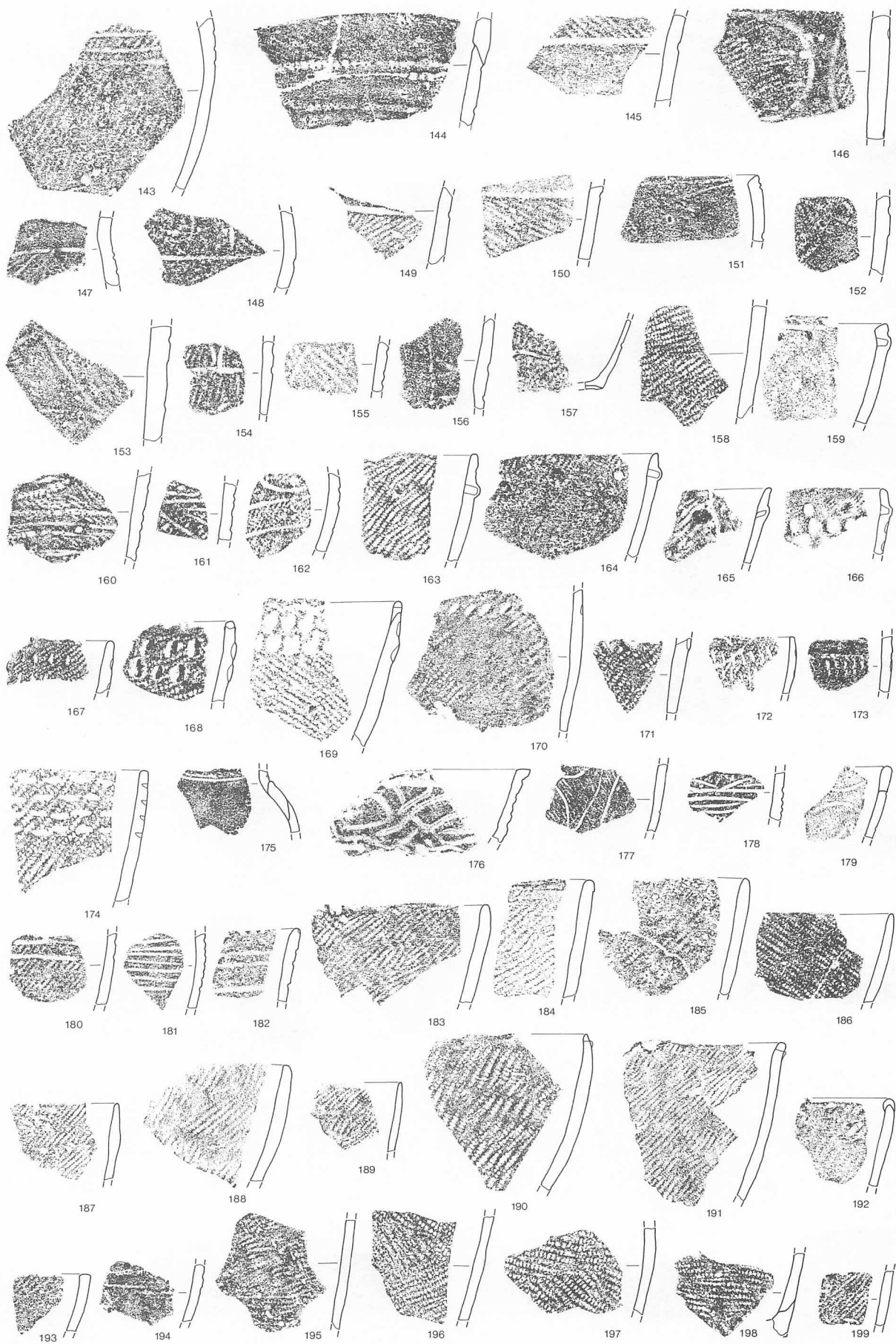
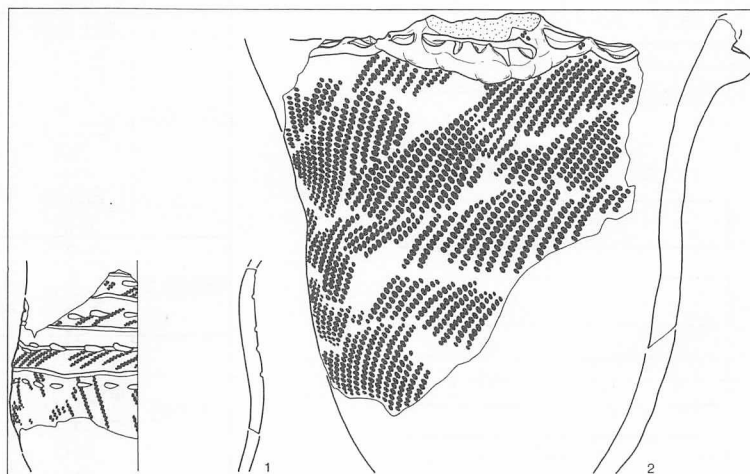


图 XI-15 出土土器拓本 (4)



図XI-16 出土土器拓本(5)



図XI-17 出土土器実測図

今回の調査で得た石器等は2,243点で、器種・出土層位別の内訳は下表のとおりであり、Ⅲ層からの出土はない。

3
2
1
全体 42点 (表採3点を含む)

3
2
1
I層 21点 (表採3点を含む)

3
2
1
II層 1点

3
2
1
IV層 6点

3
2
1
V層 14点

3
2
1
VI層 0点

3
2
1
VII層 0点

3
2
1
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
IX層 0点

The figure consists of four horizontal bar charts, each representing a different building type. Each chart has a vertical axis labeled 1, 2, 3 from bottom to top, corresponding to floors I, II, III, and IV. The horizontal axis represents the number of points, ranging from 0 to 11.

- 全体 (表採1点を含む)**: This chart shows the total point distribution. The values are: Floor I: 1; Floor II: 2; Floor III: 2; Floor IV: 5. There are also individual '1' marks above the bars for Floors II and IV.
- I層 5点 (表採1点を含む)**: This chart shows the point distribution for the first floor. The value is 5 at Floor I.
- II層 1点**: This chart shows the point distribution for the second floor. The value is 1 at Floor II.
- IV層 3点**: This chart shows the point distribution for the fourth floor. The value is 3 at Floor IV.
- V層 10点**: This chart shows the point distribution for the fifth floor. The value is 10 at Floor V.
- III層 0点**: This chart shows the point distribution for the third floor. The value is 0 at Floor III.
- IV層 0点**: This chart shows the point distribution for the fourth floor. The value is 0 at Floor IV.

[illegible]

3		3	50	57	105	32	143	143	108	24	7	3	
2		5	21	21	58	131	35	103	264	168	162	67	197
1		1	2	3									
0	全体2068点（表採155点を含む）												
3		2	11			34	14	5	1	7			3
2		5	21	3	20	40	35	66	200	129	33	18	15
1		1	2	3									
0	I層 823点（表採155点を含む）												
3				2		12	6						
2				4	5	52		13	16	24	22	12	
1	II層 168点												
3				5	7	8	6	22	2	9	5	2	
2				9	13	4		10	33	3	51	21	140
1	IV層 350点												
3			1	32	50	51	5	107	136	89	19	5	
2				5	20	35		14	15	12	56	16	42
1	V層 710点												
3								1	9	4			
2													
1	VI層 14点												
3											3		
2													
1	VII層 3点												
3													
2													
1													
0	VIII層 0点												

用途	器 種 別	I 層	II 層	IV 層	V 層	VI 層	VII 層	VIII 層	計
猟具	石鏃	20	1	5	11				37
	石槍	1		1	3				5
	石錘								0
	小計	21	1	6	14	0	0	0	42
工具	石錐	4			1				5
	挟入石器								0
	楔形石器	1		1					2
	石斧		1	2	9				12
	砥石								0
	すり石類								0
	小計	5	1	3	10	0	0	0	19
生活用具	削・搔器	10	1	5	20				36
	R・F	10	5	1	16	1			33
	U・F	1	1	1	2				5
	石冠								0
	たたき石	3	6	8	3	1			21
	石皿		2	3	2				7
	台石	3	1	2	1			1	8
	板状礫	2	1	1					4
	小計	29	17	21	44	2	0	1	114
祭飾用具	石棒等								0
	玉								0
	石製品			1					1
	小計	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	石核	3			2				5
	焼けた剥片	11	3		6				20
	黒曜石剥片	780	161	327	588	11	3		1,870
	その他剥片	24	4	21	105	3			157
	原石	5		1	9				15
計	小計	878	185	382	778	16	3	1	2,243

獵具

42点の出土であるが、石錘はない。忍路土場遺跡でも石錘は3点しか出土しておらず、「忍路」という地域であることを考えると、少ない気がする。

石鏃は37点、内17点がⅡ層以下からの出土である。この内8点が、明らかに製作後に摩耗しており、河川の影響で動かされたことを物語っている。形態としては、23点が有柄鏃で、無柄2点、菱形3点、柳葉形2点、未製品・破損品等不明7点である。有柄鏃の内平基は9点、凸基が14点で、凹基は出土していない。なお、忍路土場遺跡と同様に、習作ともいえる剥離の浅い例、及び剥離が届かずに腹背面に凸状部を残した例がみられる。

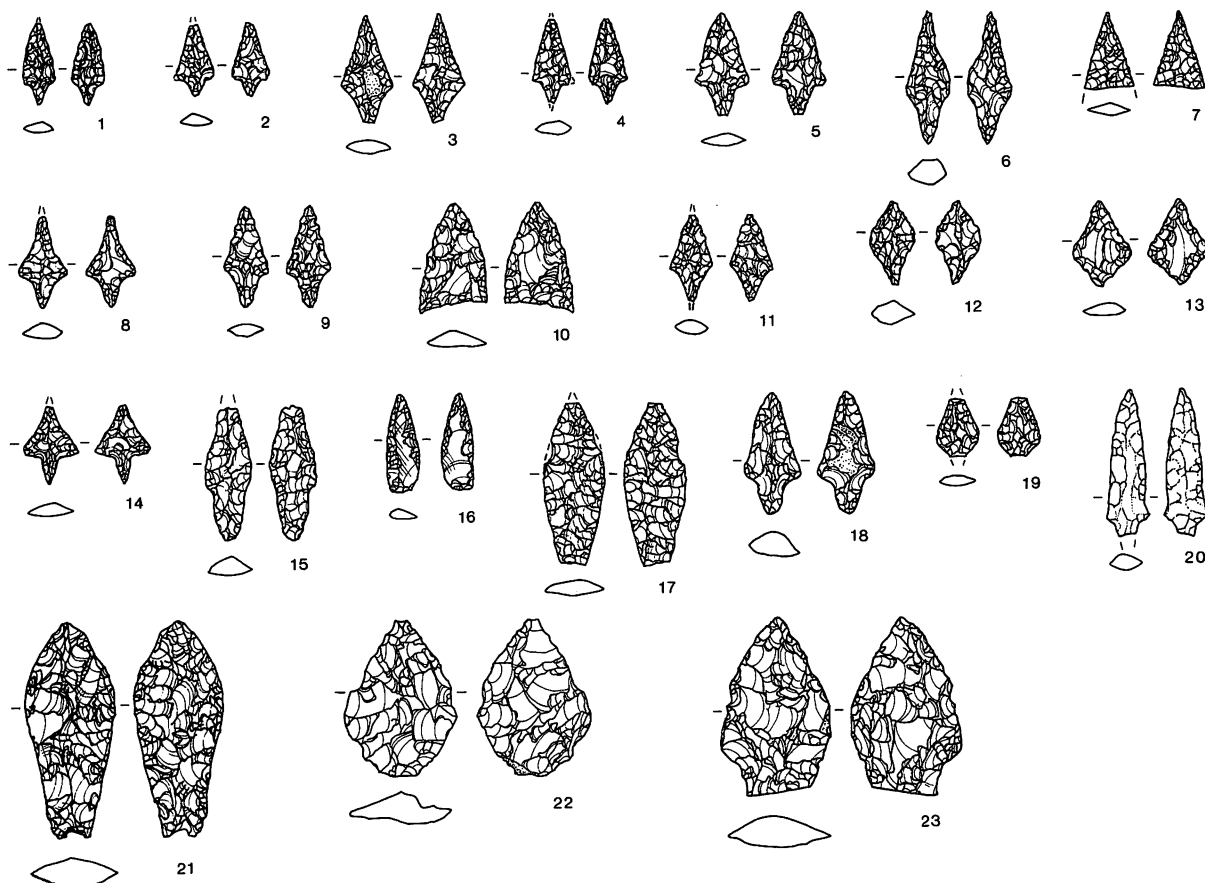
石槍は5点の出土で、内2点は未製品である。また、摩耗したものも2点ある。図番21は、基部に調整を加えず原石面をそのまま残して凹基としたもので、両面には丁寧な剥離が施されている。図番22は菱形、同23は有柄で、いずれも凸状部を残している。なお、23は側縁部に未調整の原石面を残しており、未製破損品の可能性がある。

表 XI-12 石鏃一覧

層	X Y	xy	x' y'	Z	長さ(■)	幅(■)	厚さ(■)	重量(g)	石質	No	図番	形態	備考
I	表採				21.9	10.4	2.4	0.6	黒曜石	43			先端・基部欠損
I	表採				23.9	14.9	4.1	1.4	黒曜石	44			未製品、先端欠損
I	表採				17.2	13.6	3.8	0.8	黒曜石	45			基部過平欠損
I	4 1				21.0	8.7	2.8	0.4	黒曜石	1	1	有柄平基	先端わずかに欠損
I	5 1				21.8	14.6	4.8	1.2	黒曜石	2		有柄凸基	先端欠損
I	5 1				23.4	10.4	4.0	0.9	黒曜石	3		有柄凸基	先端わずかに欠損、基部欠損
I	6 1				18.8	9.8	2.6	0.3	黒曜石	4	2	有柄平基	先端・側縁わずかに欠損
I	6 1				27.8	13.5	3.5	0.8	黒曜石	5	3	有柄凸基	片面に原石面を残す
I	6 1				22.9	14.6	5.0	1.2	黒曜石	6		有柄凸基	未製品
I	6 1				21.6	9.9	3.4	0.5	黒曜石	7	4	有柄平基	先端・側縁わずかに欠損
I	7 1				19.4	15.0	4.3	1.1	黒曜石	8		有柄凸基	先端・基部欠損、片面に原石面を残す
I	7 1				26.6	14.5	3.6	0.9	黒曜石	9	5	有柄平基	若干反っている
I	7 1				34.4	11.6	6.0	1.4	黒曜石	10	6	有柄凸基	肉厚、凸状部あり
I	7 1				18.6	7.2	3.6	0.4	黒曜石	11			側縁部のみ残存
I	7 1				19.4	13.0	2.8	0.4	黒曜石	31	7		基部欠損
I	7 2				23.8	13.3	3.7	0.6	黒曜石	103	8	有柄平基	先端部わずかに欠損、若干反っている
I	8 1				18.8	10.9	3.0	0.4	黒曜石	12		有柄凸基	基部欠損
I	8 1				18.6	12.6	2.9	0.4	黒曜石	13		有柄凸基	基部欠損、若干反っている
I	11・1				26.2	11.4	3.9	0.7	黒曜石	84	9	有柄平基	側縁つぶれ、凸状部あり
I	11・1				26.5	18.4	3.9	1.6	黒曜石	85	10	無柄凹基	凸状部あり
II	8 1	26	38 90	8.86	22.6	11.0	3.3	0.5	黒曜石	41	11	有柄凸基	先端わずかに欠損
IV	4 2	92	40 30	7.99	21.9	12.0	5.2	1.0	珪質頁岩	83	12	菱形	肉厚、石鏃の可能性あり
IV	5 2	76	18 56	7.87	22.7	15.5	3.8	1.1	黒曜石	75	13	菱形	習作か、摩耗
IV	7 1	86	7 91	8.76	20.6	14.7	3.1	0.5	黒曜石	42	14	有柄平基	先端わずかに欠損
IV	9 1	16	72 1	9.03	26.7	13.7	3.1	1.1	黒曜石	53		有柄凸基	習作未製品か、摩耗顯著、焼けている
IV	10・1	44	21 45	9.41	35.1	12.2	4.9	1.6	黒曜石	87	15	有柄凸基	未製品、先端部未調整
V	2 2	85	64 17	7.60	14.5	12.9	2.6	0.4	黒曜石	38		無柄平基	未製品か、凸状部あり、摩耗
V	4 1	37	5 12	7.84	18.5	7.9	3.1	0.4	黒曜石	66		有柄凸基	基部欠損、側縁つぶれ
V	4 2	03	63 98	7.78	25.5	8.8	2.7	0.6	黒曜石	74	16	柳葉形	未製品か、薄手、摩耗
V	5 2	13	64 28	8.02	31.0	13.2	6.3	2.3	黒曜石	79		有柄凸基	肉厚、基部欠損、側縁つぶれ
V	6 2	56	90 52	7.48	41.9	16.4	4.2	2.5	黒曜石	94	17	柳葉形	先端・側縁わずかに欠損
V	6 2	83	60 64	7.78	31.9	14.9	6.0	1.9	黒曜石	104	18	有柄平基	肉厚、摩耗顯著、焼けている
V	7 2	02	79 27	7.60	14.9	11.5	2.8	0.5	珪質頁岩	113	19	有柄凸基	先端・基部欠損
V	7 2	12	14 95	7.76	30.6	14.2	7.1	2.4	黒曜石	112			未製品、肉厚、摩耗顯著
V	7 2	34			29.2	13.5	4.6	1.8	黒曜石	109			極度に摩耗、未製品か
V	7 2	45	14 52	7.59	38.3	11.2	5.1	2.0	玄武岩	108	20	有柄平基	凸状部あり
V	10・1	77	76 67	8.95	22.4	13.7	4.0	1.0	黒曜石	99		菱形	未製品、摩耗

表XI-13 石槍一覧

層	X	Y	xy	x'	y'	Z	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	石質	No	図番	備考
I	4	1					45.6	53.6	13.6	33.4	黒曜石	58		未製破損品、流紋岩球顆部分で割れ、基部片
IV	5	2	84	28	40	8.60	54.6	23.8	7.7	9.3	黒曜石	69	21	基部に原石面を残す
V	3	2	44	80	62	7.64	59.2	28.9	15.1	23.6	珪質頁岩	57		未製品、摩耗
V	7	1	98	10	91	8.40	40.2	29.5	9.5	8.5	黒曜石	63	22	菱形、凸状部あり、摩耗
V	8	1	68	68	67	8.25	44.8	28.7	9.2	9.6	黒曜石	78	23	基部欠損、未製品か、凸状部あり



図XI-18 石鏃・石槍

工具

計19点の出土である。忍路土場遺跡に比して器種が少なく、抉入石器・砥石・すり石を欠いている。石鏃は5点出土しているが、内4点がI層出土である。いずれも基部をもつもので、棒状のものはない。図番26は、背面が両側縁からの調整剥離で、腹面は一側縁側からしか調整されていない。刃部には使用痕と思われるつぶれがみられる。図番27は、基部にも丁寧な調整を加えハート形に作出しているが、使用された痕跡はみられない。

楔形石器は2点のみの出土である。図番28は四辺を使用されたものと思われるが、一辺を欠いている。残った三辺には、いずれもつぶれが顕著にみられる。

石斧は12点出土している。忍路土場遺跡の石斧は大半が泥岩製で、すり切りによって製作されているが、本遺跡の場合、点数が圧倒的に少ないにもかかわらず石材・製作技法ともに多彩である。製作技法としては、剥離調整の後、腹背面を磨いているものが6点と多く、すり切りと全面磨きによるものは1点に過ぎない。

表XI-14 石錐一覧

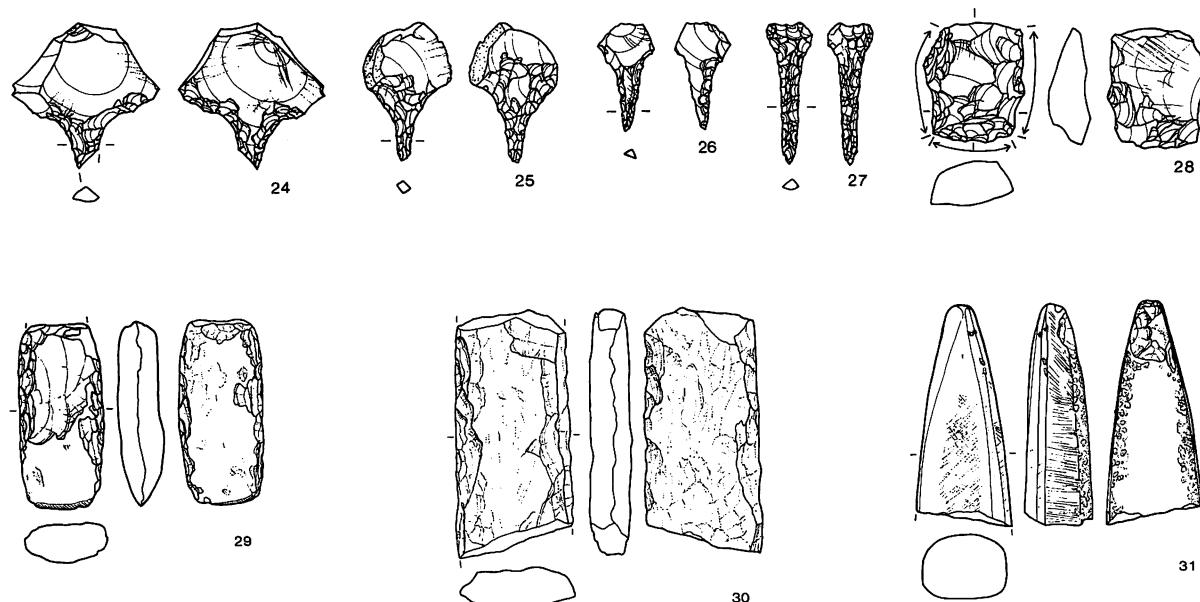
層	X Y	xy	x' y'	Z	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	石質	No	図番	備考
I	4 2				37.3	38.6	7.1	8.8	珪質頁岩	80	24	先端部欠損
I	4 2				34.7	23.9	8.5	5.6	珪質頁岩	82	25	先端部わずかに欠損、焼けている
I	6 1				28.1	15.2	4.5	1.1	黒曜石	19	26	二股状石製品の破損品か、刃部つぶれ、若干摩耗
I	9 1				20.7	20.8	7.1	2.4	黒曜石	20		刃部欠損、刃基部つぶれ、若干摩耗
V	7 2	04			37.0	12.0	4.9	1.4	珪質頁岩	107	27	刃部が若干反っている

表XI-15 楔形石器

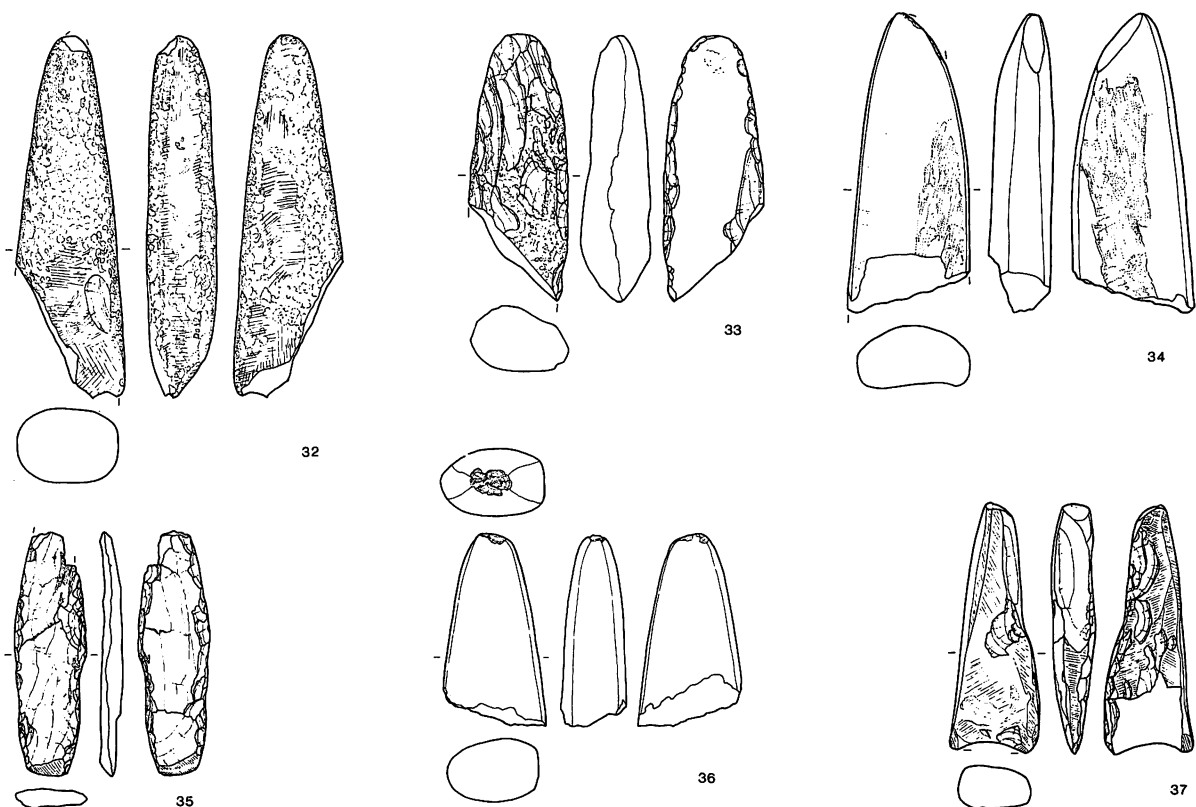
層	X Y	xy	x' y'	Z	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	石質	No	図番	備考
I	表採				21.8	21.3	9.7	3.6	黒曜石	49		両端のつぶれ顕著
IV	10・1	94	76 78	9.26	32.1	26.5	11.0	10.7	黒曜石	121	28	三辺つぶれ、一辺欠損

表XI-16 石斧一覧

層	X Y	xy	x' y'	Z	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	石質	No	図番	刃部幅(㎜)	備考
II	2 1	94			68.4	17.6	14.7	29.4	粘板岩	54			側縁部片、利鈍調整、腹背面磨き
IV	6 1	96	95 8	8.94	74.0	33.6	16.2	76.2	片岩	8	29	28.8	基部欠損か? 利鈍調整、腹背面磨き
IV	10・1	04	31 16	8.80	92.2	46.2	16.1	136.9	片岩	27	30		刃・基部欠損、利鈍調整
V	2 2	15			33.8	19.8	7.0	8.8	粘板岩	48			背部片、利鈍調整、背面磨き
V	2 2	94	88 95	6.87	85.6	37.9	26.1	130.6	泥岩	24	31		刃部側欠損、すり切り痕あり、全面磨き
V	6 2	02	11 11	8.06	141.7	41.4	28.2	275	輝緑岩	31	32		刃部欠損、敲打調整、腹背面・側縁磨き
V	6 2	04	15 24	7.25	90.1	39.2	27.3	140.9	泥岩	30	33		刃部側欠損、利鈍・敲打調整、摩耗
V	6 2	14	26 42	7.22	114.9	47.5	23.5	232	片岩	29	34		刃部側欠損、全面磨き
V	6 2	62	6 45	7.40	96.7	28.5	8.4	30.0	片岩	40	35	16.1	基部欠損、利鈍調整、腹・背面欠落、磨き
V	6 2	62	63 44	7.42	73.4	39.0	25.6	112.4	カンラン岩	41	36		刃部側欠損、敲打調整、全面に軽い磨き
V	7 2	13	47 60	7.34	94.7	34.8	17.5	78.2	泥岩	42	37		刃部欠損、利鈍調整、摩耗、全面磨き
V	8 2	05	79 98	7.64	56.8	48.2	17.9	69.2	粘板岩	47			背部片、利鈍調整、摩耗、背面磨き



図XI-19 石錐・石斧



図XI-20 石斧

生活用具

石器総点数の約65%, 113点が含まれる。このうち74点が、切る・削るなどを目的としたもので、21点が、たたく・つぶす等を目的とした道具、18点がこれらの作業をする際の台となるべきものである。

削・搔器は35点の出土である。その内つまみ付きのものは未製品を含めて11点あり、切り出し状のものが、つまみ付きとのダブリを含めて11点ある。図番38は、三辺に刃部をもつものであるが、図の右側縁の刃部にはつぶれが、左側縁の刃部には脂染みと思われる曇りがみられる。図番39は、つまみの挟り部分に紐を結んだ痕跡としてアスファルトが付着している。図番45は、図の左上部分の刃部両側に、ベニガラと思われる赤色顔料が付着しており、38同様の曇りがみられる。なお、45は図の右上端をわずかに欠いており、図番52のように、この部分につまみが付いていた可能性もある。

R・Fは34点出土した。大半は一側縁に二次加工を施したものであるが、両側縁あるいは先端に刃部をもつものもある。図番55は、削・搔器の破損品を再利用したものと思われる。図番56は、切り出し状の削・搔器とも考えられるが、刃部加工が粗く、他の部分にも何等の調整がみられないこともあり、R・Fに含めた。

U・Fは5点ある。肉眼での判別であり、細かな使用痕をもつものについては抽出しきれてはいない。また、摩耗した剥片の中にも、側縁部に刃こぼれ状の剥離がみられるものは相当数あるが、傷と使用痕との区別がつきにくいため全て除外した。

たたき石は、敲打痕の不明瞭なものも含めて21点出土しているが、素材は全て安山岩である。腹背面を使用しているものが11点、側縁使用が4点(うち1点は一面も使用)、端部使用が7点である。素材の形と使用面とは密接な関係があり、偏平礫・長楕円礫は腹背面を、楕円礫は端部もしくは側縁部を、円礫は端部もしくは腹背面となっている。なお、トチむき石状に使い込まれた例はない。

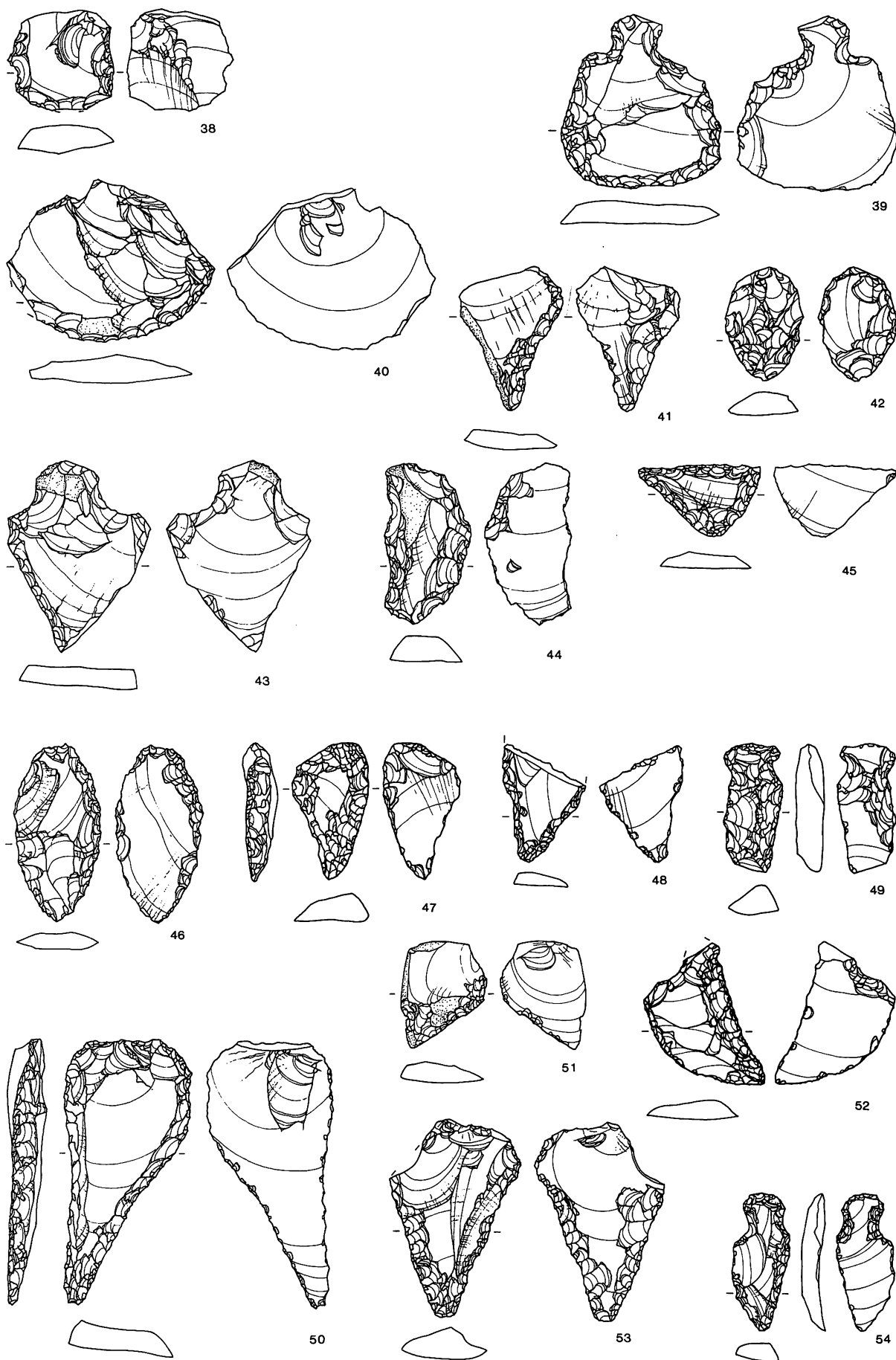
石皿は7点出土しており、石材は全て安山岩である。偏平な礫を使用したものは5点で、図番67は敲打による凹痕が、同69はすりくぼんだ中に敲打による凹痕が残されている。図番68は四つ足付きの例であるが、熔結凝灰岩製ではなく安山岩製である。忍路土場遺跡の場合、足付きの10点全てが熔結凝灰岩製であり、それ以外の石材を用いた例はない。

台石としたものは8点で、石材は安山岩と泥岩がある。板状礫使用のものは4点あるが、それらは全て一面が磨かれており、いずれも破損している。更にその内3点が焼けており、忍路土場遺跡の台石の項でも述べたように、石皿とは明らかに異なった用途をもつものと考えられる。Na33は、忍路環状列石（三笠山ストーンサークル）に立て並べられているものと同種の大型礫である。

板状礫は4点の出土で、内2点が焼けている。

表XI-17 削・搔器一覧

層	X	Y	xy	x'	y'	Z	長さ(■)	幅(■)	厚さ(■)	重量(g)	石質	No	図番	備考
I	表採						14.6	15.2	4.5	1.4	黒曜石	46		つまみ付き、つまみ部のみ残存
I	表採						28.7	30.2	9.3	16.0	黒曜石	48		横長剥片使用、エンド・スクレイパー、半分欠損
I	4 2						33.6	31.4	10.3	16.1	黒曜石	18	38	三辺面加工、一辺つぶれ、一辺磨り
I	6 1						61.8	56.6	7.2	26.2	珪質頁岩	14	39	つまみ付き、三辺面加工、つまみ部に鉄の痕
I	6 1						33.9	20.2	8.4	4.2	黒曜石	15		一側縁背面加工、礫皮片を使用
I	6 2						52.1	32.8	9.3	16.0	黒曜石	86		三辺面加工、一側縁欠損、摩耗
I	6 2						74.2	57.0	14.3	50.1	頁岩	90	40	横長剥片使用、先端部背面加工
I	7 1						43.1	15.4	8.4	4.7	黒曜石	16		一側縁背面・一部背面加工、礫皮片を使用
I	8 1						41.9	21.3	6.5	6.8	黒曜石	47		つまみ付き未製品か、両側縁背面加工
I	11・1						42.5	34.3	10.9	9.2	黒曜石	100		両側縁背面加工、切り出し状、摩耗
II	8 1	26		32	76	8.90	51.2	36.8	7.6	9.4	黒曜石	40	41	腹面の一側縁背面加工、切り出し状
IV	2 1	58					40.1	26.6	8.7	9.0	黒曜石	36	42	玉子型、全周背面加工、摩耗
IV	5 2	67		55	44	7.80	61.5	20.7	5.0	8.2	珪質頁岩	76		つまみ付き未製品、両側縁背面加工
IV	6 2	00		58	40	8.05	67.5	32.5	8.4	15.4	珪質頁岩	89		つまみ付き未製品、つまみ部のみ作出
IV	9 1	62		68	10	8.87	68.2	50.6	12.2	31.2	流紋岩	54	43	つまみ付き、一側縁背面加工、切り出し状
IV	11・1	64		76	60	9.71	54.3	30.3	11.5	22.5	黒曜石	91	44	くの字型、全周背面加工、若干摩耗
V	2 2	87		60	12	7.26	53.3	32.8	4.4	9.0	黒曜石	71		つまみ付き、両側縁背面加工、摩耗顯著
V	3 1	88		68	32	7.50	25.7	43.1	7.0	6.2	黒曜石	39	45	全周背面加工、刃部つぶれ・曇り、赤色顔料付着
V	3 2	66		88	0	7.52	62.4	31.4	8.6	15.5	珪質頁岩	56	46	木葉形、一側縁背面・一側縁背面加工
V	4 2	01		16	53	7.96	64.4	45.1	11.9	33.1	黒曜石	72		一側縁背面加工、若干摩耗
V	4 2	62					37.8	25.8	8.0	7.3	黒曜石	119		先端背面加工、一側縁刃こぼれ状、一側縁つぶれ
V	6 2	44		95	56	7.67	48.5	27.4	11.3	13.5	黒曜石	106	47	両側縁背面加工、切り出し状、極度に摩耗
V	6 2	46					41.3	29.6	6.2	7.3	黒曜石	102	48	両側縁背面加工、切り出し状、摩耗顯著
V	6 2	51		84	60	7.50	46.0	21.1	10.0	10.9	珪質頁岩	95	49	つまみ付き、一側縁背面・一側縁背面加工
V	6 2	57		60	29	7.49	94.0	44.8	12.8	45.8	珪質頁岩	93	50	両側縁背面加工、切り出し状
V	6 2	72					39.4	31.0	8.7	9.1	黒曜石	105	51	一側縁背面加工、切り出し状
V	6 2	81		2	87	7.76	46.8	31.2	8.8	13.4	珪質頁岩	92	52	つまみ部欠損、両側縁背面加工、切り出し状
V	7 1	98		10	91	8.40	52.6	22.5	7.4	9.8	黒曜石	64		両側縁背面加工、摩耗
V	7 2	12		14	95	7.76	48.9	21.6	5.1	7.5	黒曜石	111		両側縁背面加工、極度に摩耗
V	7 2	14					34.0	28.8	7.2	10.4	黒曜石	110		一側縁背面加工、摩耗顯著、先端部欠損
V	7 2	74		24.42		7.04	69.7	24.1	6.8	10.3	珪質頁岩	124		先端・一側縁背面加工、一側縁欠損
V	7 2	94		21	16	7.88	38.4	55.7	13.3	30.5	珪質頁岩	114		一側縁背面・一側縁背面加工
V	8 2	06		9	6	7.30	70.0	46.5	13.0	30.5	珪質頁岩	120	53	両側縁背面加工、切り出し状
V	8 2	44		15	16	7.64	49.2	20.2	8.0	6.6	珪質頁岩	123	54	つまみ付き、両側縁背面加工、切り出し状、摩耗
V	8 2	65		16	32	7.53	32.8	16.6	6.1	4.1	黒曜石	127		両側縁背面加工、切り出し状、摩耗顯著
V	11・1	13		7	26	9.31	79.8	24.3	10.6	22.0	黒曜石	98		つまみ付き、一側縁刃こぼれ状



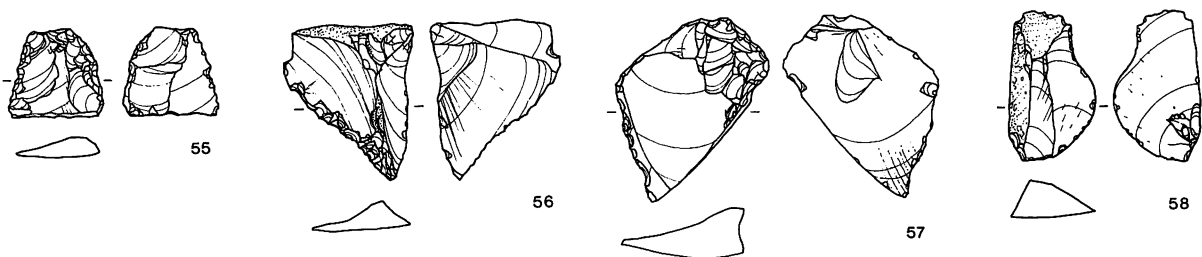
图XI-21 削·搔器

表XI-18 R・F一覧

層	XY	xy	x' y'	Z	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	No	国番	備考
I	表採				60.4	26.5	10.3	18.4	黒曜石	126		板状原石を使用、一側縁背面加工、摩耗
I	表採				21.3	30.1	4.6	3.5	珪質頁岩	129		基部・両側縁背面加工、先端過半欠損
I	表採				81.9	65.6	18.5	107.6	珪質頁岩	130		両側縁一部背面加工、先端欠損
I	1 0				46.6	21.0	11.8	15.1	珪質頁岩	22		両端を欠く剥片使用、一側縁腹面 一部背面加工
I	1 1				21.3	19.5	4.4	2.9	黒曜石	23		基部・先端欠損、一側縁つぶれ
I	4 2				26.4	34.9	6.6	4.2	黒曜石	81		両側縁背面加工、焼けている
I	5 1				53.5	27.6	10.0	16.3	黒曜石	25		板状原石使用、一側縁背面加工
I	5 1				52.6	32.8	19.7	25.6	黒曜石	26		一側縁背面加工
I	7 1				23.1	25.5	6.0	3.0	黒曜石	27	55	両側縁背面加工、先端つぶれ、削・接器再生か
I	7 1				38.1	14.6	6.0	2.4	黒曜石	28		一側縁腹面加工か、若干摩耗
II	2 1	59	21 96	8.05	29.7	33.2	5.5	4.0	黒曜石	33		摩耗顯著な礫皮片を使用、一側縁背面加工
II	5 2	25	18 67	8.37	37.7	45.7	5.2	10.4	珪質頁岩	67		一側縁背面加工、基部欠損、削・接器片か
II	5 2	25	50 56	8.42	42.0	32.7	10.9	9.0	黒曜石	68	56	先端背面加工、切り出し状、削器未製品か
II	7 1	97			41.7	14.0	9.2	4.4	黒曜石	32		横長剥片使用、先端背面加工
II	8 1	06			34.9	43.3	13.1	15.0	黒曜石	52		先端一部腹面加工
IV	9 1	02			24.8	17.0	3.8	1.6	黒曜石	60		一側縁背面加工・つぶれ
V	2 2	15	70 11	7.34	48.7	28.3	10.8	13.2	黒曜石	65		礫皮片を使用、両側縁背面加工、摩耗顯著
V	2 2	32			30.2	26.2	7.7	3.4	黒曜石	51		一側縁背面加工、背面にリモナイト付着
V	3 1	58	14 80	7.64	75.0	26.5	7.4	11.4	珪質頁岩	37		一側縁一部背面加工
V	3 2	22	78 22	7.52	54.0	27.7	11.7	15.6	珪岩	55		若干摩耗した河床礫を使用、一側縁片面加工
V	3 2	93			42.2	27.6	10.2	10.2	黒曜石	59		先端背面加工、摩耗顯著
V	4 2	01	35 34	7.79	49.0	29.9	7.2	9.3	黒曜石	73		一側縁背面加工、切り出し状、摩耗顯著
V	4 2	66	50 50	7.45	23.5	24.3	8.0	4.2	黒曜石	70		一側縁背面加工、摩耗顯著
V	6 2	64	26 59	7.03	89.6	39.0	15.5	34.2	頁岩	116		一側縁一部背面加工、他側縁一部腹面加工
V	6 2	82	57 62	7.63	55.3	31.5	11.2	17.9	黒曜石	97		礫皮片使用、一側縁背面加工
V	7 2	03	20 39	7.40	51.8	34.6	12.4	17.8	珪質頁岩	115	57	一側縁背面加工
V	7 2	84			43.6	36.9	8.2	15.1	頁岩	117		基部・一側縁背面加工、若干摩耗
V	7 2	93	91 69	7.08	31.0	36.6	8.6	10.6	珪質頁岩	118		先端背面加工、摩耗
V	7 2	93			70.2	29.7	8.6	24.6	珪質頁岩	125		一側縁腹面加工、摩耗顯著
V	8 2	64	99 38	7.92	25.6	16.1	5.2	2.9	黒曜石	128		一側縁背面加工、削・接器再生か、摩耗
V	9 1	13			27.1	24.2	6.2	3.1	黒曜石	62		礫皮片を使用、先端背面加工
V	9 1	68	30 42	8.74	41.2	23.9	6.5	7.4	黒曜石	77		一側縁腹面加工、摩耗顯著
VI	6 2	85	40 21	7.45	54.2	31.4	8.1	14.6	黒曜石	96		一側縁背面加工、摩耗顯著

表XI-19 U・F一覧

層	XY	xy	x' y'	Z	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	No	国番	備考
I	4 1				25.7	32.5	6.7	5.2	黒曜石	29		一側縁刃こぼれ状
II	6 1	87	10 12		30.2	16.4	7.1	4.8	黒曜石	30		礫皮片使用、一側縁刃こぼれ状、他側縁つぶれ
IV	9 1	06			39.0	23.0	10.0	7.0	黒曜石	61	58	一側縁から先端刃こぼれ状
V	7 2	94	2 49	7.38	26.9	19.1	2.1	1.3	珪岩	122		三辺刃こぼれ状
V	11・1	64			25.1	28.8	8.2	4.6	珪質頁岩	101		一側縁から先端刃こぼれ状



図XI-22 R・F, U・F

表 XI-20 たたき石一覧

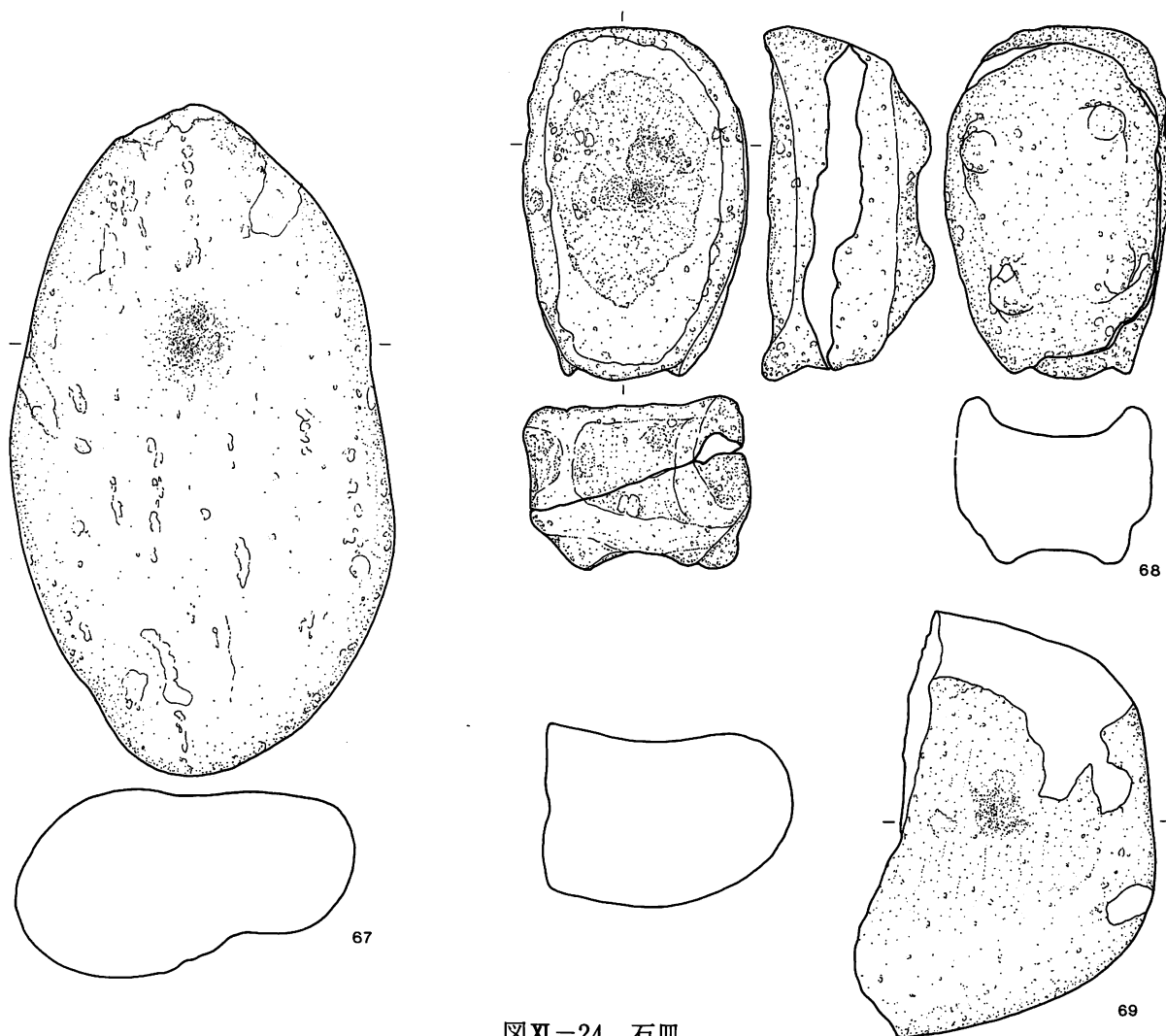
層	X Y	xy	x' y'	Z	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	No	図番	備考
試観	4 1				71.4	58.8	52.6	313	安山岩	50	59	円礫使用、一面に浅い敲打痕
I	5 2				126.9	75.8	35.6	456	安山岩	18	60	楕円扁平礫使用、一面に凹痕
I	6 1				111.1	72.8	50.8	606	安山岩	58		楕円礫使用、一面・一側縁に敲打痕
II	2 1	49	74 98	8.08	111.9	88.0	59.8	804	安山岩	6		楕円礫、一端に敲打痕 ?
II	2 1	95	27 71	8.22	79.7	45.1	25.4	143	安山岩	5		長楕円礫使用、一端欠損、一面に敲打痕
II	3 1	04	93 75	8.46	119.3	70.7	28.9	328	安山岩	4	61	楕円扁平礫使用、両面に凹痕
II	3 1	45	3 34	8.28	119.0	73.1	46.0	526	安山岩	2		楕円礫使用、一端に敲打痕 ?
II	4 1	25	55 20	8.43	91.2	78.4	62.0	640	安山岩	13	62	円礫使用、一面に深い凹痕
II	4 1	76	64 30	8.55	144.5	100.8	34.0	706	安山岩	15		楕円扁平礫使用、一面に浅い凹痕
IV	3 1				79.4	76.1	64.0	544	安山岩	51		円礫使用、一端に敲打痕
IV	5 2	66	98 33	7.92	99.2	60.6	47.5	440	安山岩	16		楕円礫使用、一側縁に敲打痕
IV	5 2	67	54 66	7.78	56.8	56.6	51.8	244	安山岩	17	63	円礫使用、一端に敲打痕
IV	6 1	87	42 48	8.89	91.1	75.8	58.0	543	安山岩	7		楕円礫、一端に敲打痕 ?
IV	6 2	11	90 18	8.15	158.0	69.4	32.0	509	安山岩	22		長楕円扁平礫使用、一端に敲打痕 ?
IV	6 2				113.2	70.8	36.5	398	安山岩	23		楕円礫使用、一側縁に敲打剥離痕
IV	7 1	15	46 64	8.76	159.0	66.3	47.3	596	安山岩	11	64	長楕円礫使用、一面に凹痕
IV	8 2	64	48 92	8.46	223.0	64.4	31.2	584	安山岩	45		長三角扁平礫使用、一面に凹痕
V	3 2	75	30 45	6.96	104.6	73.7	36.4	364	安山岩	25	65	楕円扁平礫使用、一面に凹痕
V	4 1	67	41 79	7.99	96.7	81.9	63.4	684	安山岩	19		円礫、両端に敲打痕 ?
V	11・1	28	94 64	9.20	107.4	87.2	21.0	228	安山岩	35		楕円扁平礫使用、一面に浅い凹痕
VI	6 2	85	60 66	7.34	84.1	73.2	40.5	341	安山岩	32	66	楕円扁平礫使用、一側縁に敲打痕



図 XI-23 たたき石

表XI-21 石皿一覧

層	X	Y	xy	x'	y'	Z	長さ(㎢)	幅(㎢)	厚さ(㎢)	重量(g)	石質	No	図番	備 考
II	2	2					365	201	97	9200	安山岩	10	67	楕円扁平礫使用、一面に凹痕
II	3	1					206	97.4	31.4	1038	安山岩		49	長楕円扁平礫使用、一面に凹痕
IV	3	1					161	172	47.2	1617	安山岩		52	扁平礫使用、一面に凹痕
IV	3	2					192	121	80.0	1491	安山岩	12	68	四つ足付き、上下二つに割れて出土
IV	4	2					133.5	230	104.2	4860	安山岩	21	69	扁平礫使用、一面すりくぼみ、一部凹痕、過半欠損
V	4	1	59	51	62	8.03	197.0	137.1	73.0	2658	安山岩		20	楕円扁平礫使用、一面に敲打痕か
V	6	2	60	42	78	7.64	167.0	108.2	25.6	678	安山岩	36		板状礫使用、一面に凹痕



図XI-24 石皿

表XI-22 台石一覧

層	X	Y	xy	x'	y'	Z	長さ(㎢)	幅(㎢)	厚さ(㎢)	重量(g)	石質	No	図番	備 考
I	6	1					231	110	38.9	1603	安山岩	62		板状礫使用、一面磨き、割れている、焼けている
I	6	2					255	231	51.4	4413	安山岩	28		板状礫使用、一面磨き、割れている
I	11	1					19.5	17.5	6.1	3.0	泥岩	55		板状礫使用、一面磨き、破片、焼けている
II	6	1	65	20	50	8.88	355	150	115	10500	安山岩	1		枕石状
IV	2	2					183	172	44.9	2022	安山岩	61		楕円礫を薄く割って平坦面を作出したものか
IV	10	1	43				42.9	32.3	22.2	35	泥岩	57		板状礫使用、一面磨き、破片、焼けている
V	4	2	76	80	80	7.95	710	250	145	30600	安山岩	33		塚状列石の石と同種、縦に割れている
VIII	6	2	76	99	79	7.00	412	170	140	14000	安山岩	34		枕石状

表 XI-23 板状礫一覧

層	X Y	xy	x' y'	Z	長さ(㎢)	幅(㎢)	厚さ(㎢)	重量(g)	石質	No	図番	備 考
I	6 1				149	109	26.0	382	玄武岩	60		焼けている
I	7 1				107.0	100.2	24.2	274	砂質泥岩	59		焼けている
II	3 1	35			138.2	95.2	16.4	311	安山岩	3		
IV	3 1				152.7	125.7	22.1	650	安山岩	53		

祭飾用具

図番70の石製品が1点得られている。これは遺構の項でも触れたように、11・1-22区のIV層、P-3から2 m 足らずの地点から出土したもので、遺構と同時期のものと考えられる。

表 XI-24 石製品

層	X Y	xy	x' y'	Z	長さ(㎢)	幅(㎢)	厚さ(㎢)	重量(g)	石質	No	図番	備 考
IV	11・1	22	53 94	9.71	13.6	16.2	3.3	0.6	黒曜石	88	70	先端部わずかに欠損

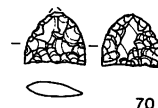


図 XI-25 石製品

その他

石核は5点が出土している。いずれも黒曜石で、原石面を残している。

表 XI-25 石核一覧

層	X Y	xy	x' y'	Z	長さ(㎢)	幅(㎢)	厚さ(㎢)	重量(g)	石質	No	図番	備 考
I	表採				22.1	25.4	15.3	11.5	黒曜石	50	71	三面に原石面を残す
I	表採				40.8	45.4	19.3	37.4	黒曜石	21		四面に原石面を残す
I	1 1				30.1	36.5	11.5	11.5	黒曜石	17		二面に原石面を残す
V	2 1	67	9 23	7.78	28.1	22.1	7.7	5.8	黒曜石	35		四面に原石面を残す、両端つぶれ、楔形石器か
V	2 2	36	10 14	7.50	27.9	42.0	20.1	18.7	黒曜石	34		二面に原石面を残す

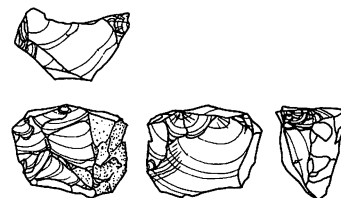


図 XI-26 石核

(3) 木製品等

今回の調査で出土した木製品等は551点で、器種、出土層位別の内訳と、樹種鑑定で判明した樹種の属性は、それぞれ下表のとおりである。なお、樹種、部位などの鑑定は清水雅男氏による。

表 XI-26 出土木製品等一覧

列ノド	樑		板 材							張板		縦割材					杭状材					炭化材				その他				自然木			合計
	Ⅳ	Ⅵ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	ト	Ⅲ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	ト	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅶ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ				
1 2																										1				26	27		
2 1			2												1		2										8		3	16			
2 2					15								3			4	4				5	1			2				96	126			
3 1	1		2		1				1		1			2	7	3	2	1	2					2		19		8	50				
3 2		1			1								2				1	1			1				1				51	59			
4 1															4			1										12		3	20		
4 2	2		1								2	1	2		7	2			2	1					2	38	8	25	93				
5 2									1												1								14	16			
6 1																1								1					1	3			
6 2	1				1	1							4								5				2			56	70				
7 1				2								1					1			1			1	1			1			8			
7 2				2				1													1				1		3	48	56				
8 1																1														1			
8 2								1																			1			2			
合計	4	1	5	2	20	1	1	1	1	1	3	2	11	2	19	8	9	3	4	2	13	1	1	2	11	1	81	8	329	547			
地点不明	1																											3	551				

属性は、主に普及版北海道主要樹木図譜(宮部金吾・工藤裕舜, 1986)による。
ヤナギ科は種名が不明のためドロノキの属性を代表例として記載。科・種名の順は原色日本植物図鑑(北村四郎・村田源, 1984)による。

表 XI-27 出土樹種属性一覧

No	科 名	種 名	材の特徴	幹 (m)		生 育 環 境	混 交 する 樹 種 No
				高さ	直径		
1	スイカズラ	エノハトコ		6	0.1	山野に普通	3, 13, 18, 25
2	モクセイ	ヤチダモ	強く弾力に富む	30	1.0	肥沃な湿潤地	23, 25
3	ウコギ	ハリギリ	木目粗く加工しやすい	23	1.0	肥沃な湿潤地	1, 5~8, 12, 18, 19, 21, 25, 29
4	ミズキ	ミズキ	軽く軟らか	20	0.6	河岸または肥沃な林地の良く排水された湿気のある土地	21
5	シナノキ	シナノキ	軽く軟らか	20	0.6	肥沃な湿潤地	3, 6, 9, 15, 18, 21, 22
6	カエデ	イタヤカエデ	重く堅い、木目緻密	20	1.0	肥沃な洪積土および山地斜面	3, 5, 7, 11, 18, 21
7	ウルシ	ヤマウルシ	強靱	10	0.2	平地、山腹の日当たりのよい肥沃地	3, 6, 18, 23
8	ミカン	キハダ	重く強靱で緻密	25	1.0	肥沃な林地	3, 15, 16, 19, 23, 24
9	マメ	イヌエンジュ	重く堅い、木目緻密	13	0.6	平原ならび丘陵	5, 24
10	バラ	エノヤマザクラ	堅く緻密	25	0.9	肥沃、湿潤な林地	16
11		ナナカマド	重く強靱で緻密	13	0.3	林地に普通	6, 12
12		アズキナシ	重く堅い、木目緻密	18	0.6	林地に普通	3, 11, 18
13	ユキノシタ	ハルウツギ	堅く緻密	6	0.1	樹林内灌木層の優勢種	1
14		ツルアジサイ		15	0.1	山中の高木や岩上	
15	カツラ	カツラ	軽く軟らか、木目緻密	25	1.5	肥沃な平原、丘陵の傾斜地	
16	モクレン	ホウノキ	柔軟で緻密	30	0.9	肥沃な土壌の平地から山林	8, 10, 21
17	クワ	ヤマグワ	重く堅い	13	0.6	林地に普通	多数の広葉樹
18	ニレ	ハルニレ	重く堅い、加工は困難	30	1.5	肥沃な洪積土平原、湿潤な浅い溪谷の谷底平原、沼澤原	1, 3, 5~7, 12, 19, 24, 29
19		オヒョウ	重く堅い	25	0.8	各地に良く生育	3, 8, 18, 21
20	ナ	カンナ	重く強靱	40	1.0	高燥平地、開けた谷	しばしば雑林
21		ミズナラ	堅いが加工容易	30	1.5	肥沃な土壌の平地から山林	3, 4~6, 15, 16, 19, 22, 24
22		クリ	重く極めて堅い	20	1.0	肥沃な土壌の平地から山林	5, 21
23	カバノキ	ハンノキ	軟らかく緻密	30	0.9	湿地、河岸	2, 7, 8
24		ケヤマハンノキ	軽く軟らかで緻密	20	1.0	河岸、肥沃な平地、山地斜面	8, 9, 18, 21, 25
25	ヤナギ	(ドロノキ)	優良でない	30	1.5	河岸の肥沃土	1~3, 24, 29
26	クルミ	オニグルミ	割れにくく堅いゆない	25	1.0	河岸、平地の湿潤な肥沃土	多数の広葉樹
27	マツ	エゾマツ	軽く軟らか	45	1.5	各地に良く生育	多数の広葉樹、28, 29
28		トドマツ	軽く軟らか	30	1.0	各地に良く生育	多数の広葉樹、27, 29
29	イチイ	イチイ	緻密	20	0.8	各地に良く生育	3, 18, 25, 27, 28

木製品（図Ⅺ-27, 1～5）

5点が出土している。図番1は建築材の一部であろう。加工はいずれもナタ状の金属器でなされたものと思われる。素材は針葉樹（エゾマツ？）の芯持材である。図番2は人形（ヒトガタ）状の木製品である。両端部を薄く削り出した針葉樹の柾目板材を素材とし、くびれ部分を作出することにより頭部と胴部を区分している。なお、裏面にはノコ引き状の加工痕が残されている。図番3・4は一括の出土で、鋤状の木製品とその柄と考えられる。C¹⁴年代の中間報告では25±80の数値が出されているが、開拓期の遺物かと思われる。道内には他に出土例がなく、また民俗資料にも同形態のものはみられない。3は一側縁を欠くが、中央部に柄を装着するためと思われる穴が斜めに穿たれ、その頭部寄りにも同一角度をもつ切り込みがある。中央部から頭部に向けて斜めに細くなり、幅3.5cmの頸部を経て丸みを帯びた頭部に至る。先端部から側縁部にかけては使用によると思われる摩耗がみられる。素材はクリの板材で、木取りは板目である。4はヤナギ科の芯持材を素材とする柄で、最先端部を欠いているが、3の穴に装着するための切り込みと面取りがなされている。3に対する装着角度は約15度である。また、3の頸部に対応する部分にも斜めの切り込みがある。これは、両者の結合をより強めるために紐などを結んだ箇所であろう。なお、基端部に径0.5cm、深さ3.5cmほどの穴が穿たれている。図番5は茎（ナカゴ）をもつ刀子状の木製品で、ミズナラの柾目材を素材としている。C¹⁴年代では20±120の数値が出ている。加工単位が摩耗によって不明瞭なため、加工に用いられた工具も不明である。

板材（図Ⅺ-28～30, 6～26）

30点が出土している。そのうち柾目が7点、板目が11点、いずれか判然としないものが12点ある。Ⅲ層出土のものは3点とも異なった樹種であるが、Ⅴ層出土のものの樹種はヤチダモとミズナラに限定されており、樹種の選定に明確な意図が窺える。図番6は桶の側板状に湾曲した板材である。図番7は幹を斜めに輪切りにしたのち切断したと思われるもので、一面には加工の痕跡がみられる。図番8～10・15・17・22・23・26はいずれも板材の剥落片と思われるものである。図番11は板目の木取りで一端を斜めに切断しているもの、図番13・19・20は柾目の木取りで一端を斜めに切断しているものである。なお、19は一覧表・分布図にあるとおり、出土時には43cmの長さがあったが、取り上げ時までに破損してしまい、実測図の大きさになってしまったものである。図番24は本遺跡から出土した板材の中では最大のもので、樹種はヤチダモである。一面に弧を描くように6個の刺突痕がみられる。作業台として用いられたものであろうか。図番25は24に次ぐ大きさをもつ板材で、やはり作業台的に使用されたものと考えられるが、明瞭な使用痕はみられない。

弓状枝（図Ⅺ-30, 27・28）

2点が出土している。いずれも樹種は針葉樹で一端を欠いており、残りの端部も弓筈の加工はみられない。忍路土場遺跡の弓は全てハイイヌガヤ製であり、針葉樹を使用する例はない。従って図番27・28の2点は、偶発的に弓状の形態を持つものである可能性が強いが、一応弓状の枝として分類しておく。

縦割材（図Ⅺ-30～33, 29～42）

16点が出土している。内訳は、半割材1点、四分の一割材2点、偏半割材6点、偏割材7点である。図番29は扇状に木取りされた芯持材で、一端を斜めに切断している。また、湾曲とねじれがみられるが、これは土圧のために変形したものと思われる。図番30は、両端にノコ引き状の加工痕がみられる偏半割材で、樹皮を残している。図番32は、図番4・5（鋤状木製品・柄）と一括で出土したもので、幹の枝分かれ部を四分割している。切断面は平坦でなく、緩い凹凸がみられる。加工単位は明瞭でな

い。図番34は、かなり太い幹を細分して得られた偏割材で、切断面は32同様平坦ではない。図番39は断面三角形を呈す偏割材で、最先端部を欠いているが、五方向から削り出して尖らせたものと思われる。この部分の加工に使用されたものはナタ状の工具であろう。

杭状材（図XI-33～35, 43～79）

41点が出土している。内訳は、一端を斜めに切断したものが16点、一端を二方向から切断したものが20点、一端の周囲を削り出したものが1点、切断部の加工痕が不明瞭なもの4点である。二方向から切断したもののうち断面が三角形を呈するものが4点ある。全体の形状は図番43・54の2点が大きく湾曲しているほかは概ね真直である。また、樹皮を残したままのことが多い。先端部の加工はナタ状の工具によるものと思われるが、図番45・54・57等の加工痕の大きさをみると、マサカリ状の、より大型の工具が使用されている可能性がある。57は出土した加工材の中で最大のもので、二股の枝を切断しているが、長さは328cmを数える。幹に近い方は二方向から、二股の枝先は斜めに切断されている。途中の小枝はいずれも切断された様子はない。図番63は一端が二方向から切断され、他端にはノコ引き状の加工痕が残されている。図番72は、一端の周囲を削り出しているが尖ってはいない。図番75・76は、31-06区の基層に3本並んで突き刺さっていたうちの2本であり、この3本の杭に掛かって加工木47が横たわっていた。これらは何らかの施設の可能性もあるが、現状では特定し得ない。

舟型木製品（図XI-35, 80）

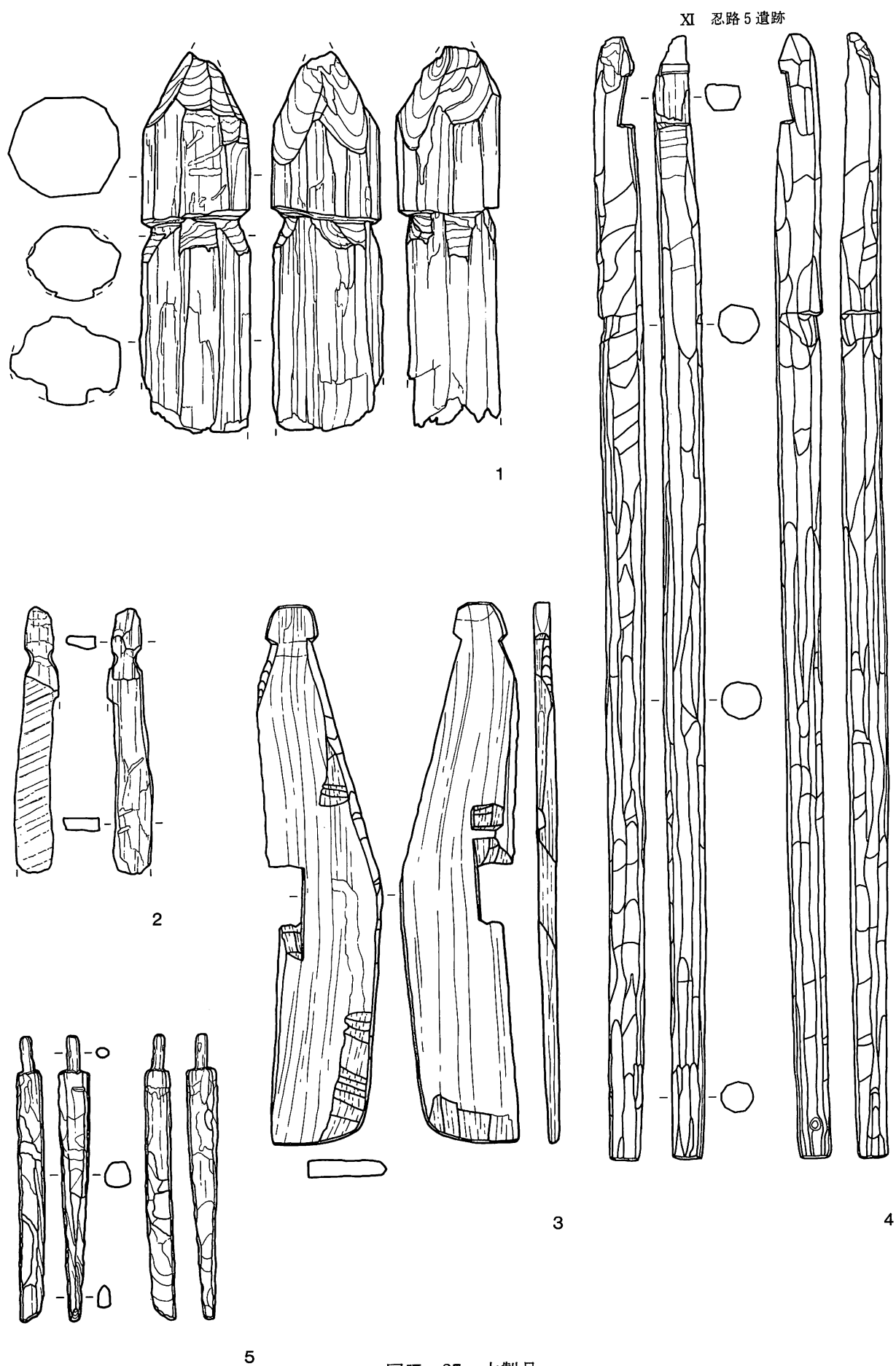
これは重機で表土を除去中に出土されたもので、底面中央に溝を切り、鉄製の重りを入れたものである。上面中央やや舳先寄りには径・深さとも1.5cmの穴が穿たれている。

表XI-28 実測木製品類一覧(1)

図番	XY	x	y	層位	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	樹種	No	備考
1	3 1	9	7	IV	木製品	345	101	91	エゾマツ?	15	建築材か、芯持材
2	6 2	7	0	IV	木製品	240	33	14	針葉樹	98	両側に挟り込み(人形状)
3	4 2	8	7	IV	木製品	495	90	15	クリ	53	鋤板状、板目
4	4 2	8	7	IV	木製品	1,025	38	35	ヤナギ	54	鋤柄状、芯持材
5	3 2	9	1	VI	木製品	257	27	23	ミズナラ	1	小刀状
6	2 1	5	8	III	板材	315	125	10	トドマツ?	12	桶の側板状に湾曲、板目
7	3 1	3	8	III	板材	170	130	55	ハリギリ	22	破片か、板目、斜めに木取
8	4 2	7	2	III	板材	199	82	25	ミズナラ	78	剥落片、板目、焼跡あり
9	7 1	4	7	IV	板材	63	40	7	針葉樹	5	剥落片か
10	2 2	2	6	V	板材	110	30	10	トドマツ	19	炭化、剥落片か
11	2 2	5	3	V	板材	260	215	45	ヤチダモ	41	板目
12	2 2	5	3	V	板材	255	140	55	ヤチダモ	40	板目
13	2 2	5	4	V	板材	220	130	40	ヤチダモ	39	板目
14	2 2	5	6	V	板材	186	102	43	ヤチダモ	35	板目、加工痕不明瞭
15	2 2	5	7	V	板材	168	89	21		36	剥落片か
16	2 2	5	7	V	板材	250	175	30	ヤチダモ	37	板目、加工痕不明瞭
17	2 2	6	2	V	板材	143	77	22		44	剥落片か
18	2 2	6	2	V	板材	245	160	40	ヤチダモ	52	板目
19	2 2	6	2	V	板材	430	225	40	ヤチダモ	50	板目
20	2 2	6	3	V	板材	230	120	35	ヤチダモ	42	板目
21	2 2	6	4	V	板材	224	160	30	ミズナラ?	34	板目
22	2 2	9	5	V	板材	251	114	13	ミズナラ	86	剥落片か、板目、湾曲
23	3 2	8	2	V	板材	175	140	15	ミズナラ	67	剥落片か、板目
24	2 2	5	7	VI	板材	523	289	72	ヤチダモ	57	一面に刺突痕あり、板目
25	6 2	7	5	VI	板材	395	300	117	広葉樹	89	まな板状、板目
26	7 2	トリチ		—	板材	112	39	20	広葉樹	101	剥落片か、板目
27	3 1	7	7	III	弓状枝	390	20	10	針葉樹	31	
28	5 2	6	6	IV	弓状枝	625	18	16	針葉樹	60	

表 XI-29 実測木製品類一覧 (2)

図番	X Y	x y	層位	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	樹 種	No	備 考
29	3 1	7 7	Ⅲ	縦割材	365	45	30	ハルニレ	30	融れ材、一端の断
30	4 2	7 6	Ⅲ	縦割材	355	50	20	ハウノキ	69	偏半割材
31	4 2	8 2	Ⅲ	縦割材	757	161	113	イタヤカエデ	70	半割材
32	4 2	9 7	Ⅳ	縦割材	635	194	192	ミズキ	55	四分の一割材
33	7 1	4 7	Ⅳ	縦割材	177	29	27	ミズナラ	6	偏割材、角柱状に加工
34	2 2	5 2	V	縦割材	415	115	70	ヤチダモ	43	偏割材
35	2 2	6 2	V	縦割材	189	113	57	ヤチダモ	51	偏割材
36	2 2	6 6	V	縦割材	290	98	52	ミズナラ	79	偏半割材、加工痕不明瞭
37	3 2	9 4	V	縦割材	323	178	146	ヤナギsp.	8	四分の一割材
38	4 2	3 4	V	縦割材	350	130	54	ハリギリ ?	83	偏半割材、炭化
39	4 2	5 6	V	縦割材	812	62	42	ヤチダモ	61	偏割材、断面三角、一端方向から削り出し
40	6 2	2 7	V	縦割材	426	124	58	ミズナラ ?	75	偏半割材、加工痕不明瞭
41	6 2	6 1	V	縦割材	516	130	73	広葉樹	74	偏半割材、一端に加工痕
42	6 2	6 5	V	縦割材	569	144	77	ハンノキ	76	偏半割材、加工痕不明瞭
43	3 1	3 6	Ⅱ	杭状材	1,616	94	79	イヌエンジュ	20	一端二方向から切断
44	3 1	3 6	Ⅱ	杭状材	2,280	30	25	ヤナギsp. ?	21	一端二方向から切断
45	2 1	8 9	Ⅲ	杭状材	2,077	135	199	キハダ ?	106	一端二方向から切断
46	3 1	0 7	Ⅲ	杭状材	960	28	28	広葉樹	25	一端斜め切断、炭化
47	3 1	0 7	Ⅲ	杭状材	408	31	30	ヤナギsp. ?	26	一端斜め切断
48	3 1	1 8	Ⅲ	杭状材	742	48	43	ハンノキ ?	24	一端斜め切断
49	3 1	3 8	Ⅲ	杭状材	1,040	110	100	ヤマハンノキ	23	一端二方向から切断
50	3 1	4 7	Ⅲ	杭状材	398	26	32	ハルニレ	27	一端方向から切断、断面三角
51	3 1	7 7	Ⅲ	杭状材	267	47	42	ハルニレ ?	28	一端方向から切断、切口鋭利
52	3 1	7 7	Ⅲ	杭状材	520	33	28	ヤナギsp. ?	29	一端二方向から切断
53	4 1	0 7	Ⅲ	杭状材	668	40	34	ヤナギsp.	90	炭化で加工痕不明瞭
54	4 1	0 7	Ⅲ	杭状材	2,298	135	97	ハンノキ	100	一端二方向から切断
55	4 1	0 7	Ⅲ	杭状材	1,210	85	82	ハルニレ	107	一端二方向から切断
56	4 1	3 9	Ⅲ	杭状材	710	53	50	広葉樹	113	一端斜め切断
57	4 2	6 0	Ⅲ	杭状材	3,280	113	110	ハンノキ ?	93	一端二方向から切断
58	4 2	6 2	Ⅲ	杭状材	710	25	24	ハンノキ	88	一端斜め切断
59	4 2	6 7	Ⅲ	杭状材	1,126	70	62	キハダ	111	一端二方向から切断
60	4 2	7 1	Ⅲ	杭状材	681	106	39	ヤナギsp.	97	一端斜め切断
61	4 2	7 1	Ⅲ	杭状材	1,110	43	40	ヤナギsp.	108	一端二方向から切断
62	4 2	7 6	Ⅲ	杭状材	746	52	51	ヤナギsp. ?	62	一端方向から切断、断面三角
63	3 1	2 6	Ⅳ	杭状材	656	159	121	エヤマザクラ	13	一端二方向から切断
64	3 1	3 6	Ⅳ	杭状材	355	99	72	ミズナラ	14	一端二方向から切断
65	4 2	8 6	Ⅳ	杭状材	800	30	30	ヤマハンノキ ?	116	一端斜め切断
66	4 2	8 6	Ⅳ	杭状材	1,070	36	34	ヤマハンノキ	117	一端方向から切断、断面三角
67	6 1	6 6	Ⅳ	杭状材	410	23	19	ヤチダモ ?	16	一端斜め切断
68	8 1	0 6	Ⅳ	杭状材	215	55	30	ヤチダモ	7	一端斜め切断
69	2 1	3 9	V	杭状材	1,350	44	82		84	一端斜め切断
70	2 1	8 7	V	杭状材	2,090	40	40	シナノキ	32	一端斜め切断
71	2 2	1 6	V	杭状材	658	25	22	ミズナラ	110	両端斜め切断、切口鋭利
72	2 2	3 4	V	杭状材	1,050	61	61	ヤチダモ	114	一端周囲削り出し
73	2 2	4 5	V	杭状材	845	43	41	広葉樹	18	一端二方向から切断
74	2 2	9 6	V	杭状材	850	77	79	ヤナギsp.	82	一端方向から切断、断面三角
75	3 1	0 6	V	杭状材	245	30	30	広葉樹	46	一端斜め切断
76	3 1	0 6	V	杭状材	645	40	40		49	一端斜め切断
77	3 1	トレンヂ	—	杭状材	278	52	33	ヤナギsp.	81	二方向の縦割材が素材、両端削り出し加工
78	3 2	トレンヂ	—	杭状材	430	30	30	オニグルミ	2	一端斜め切断
79	4 1	トレンヂ	—	杭状材	358	96	95	ハンノキ	102	一端二方向から切断
80	—	攪乱	—	木製品	360	56	42		—	舟型木製品



図XI-27 木製品

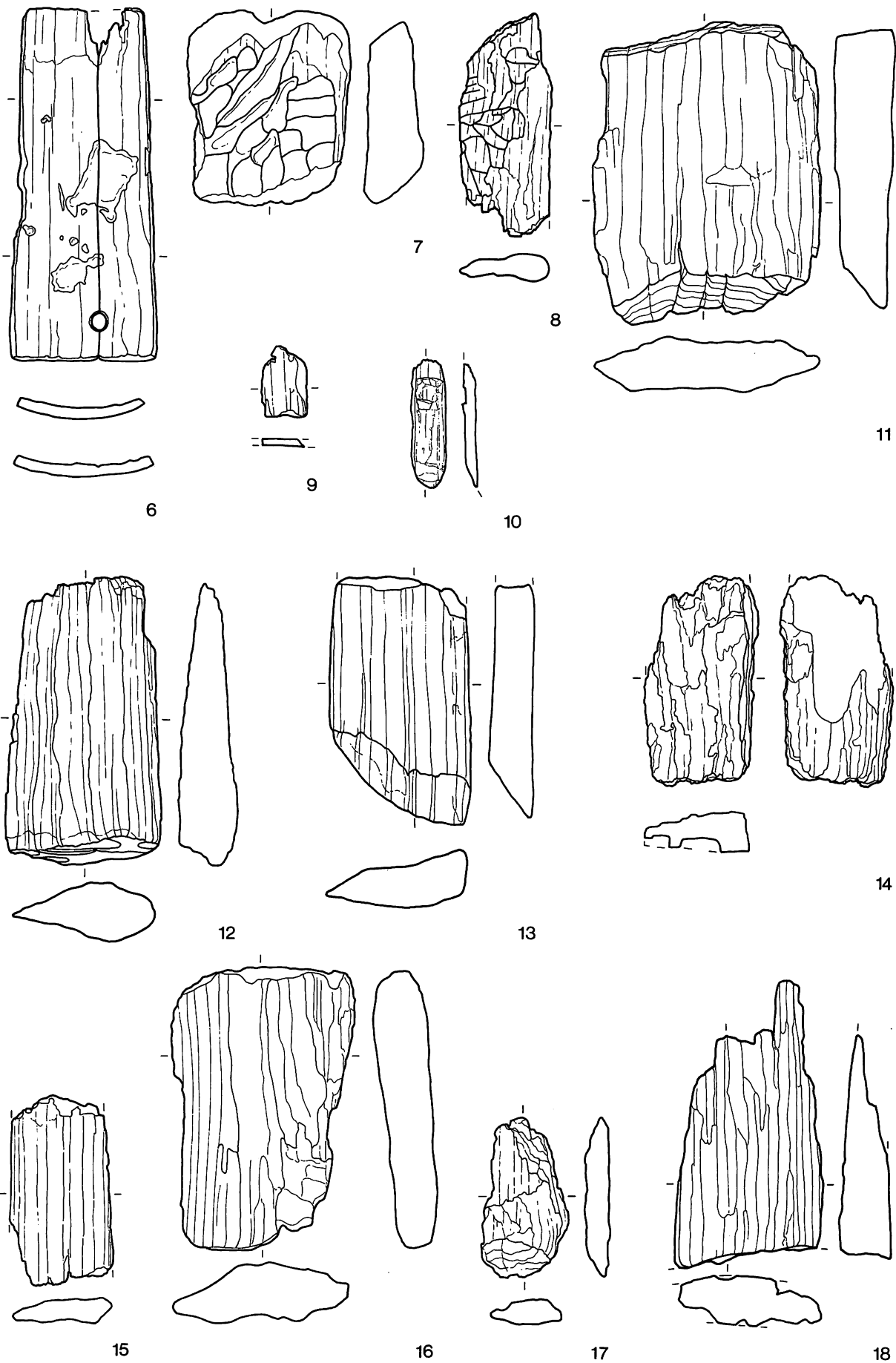
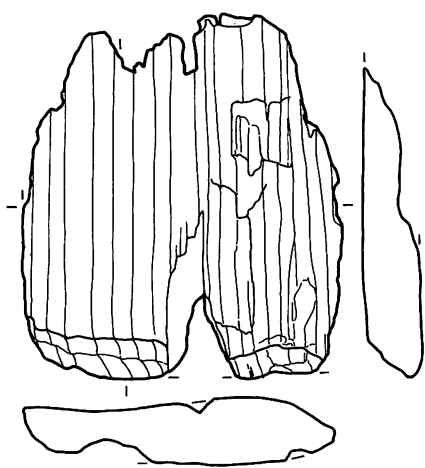
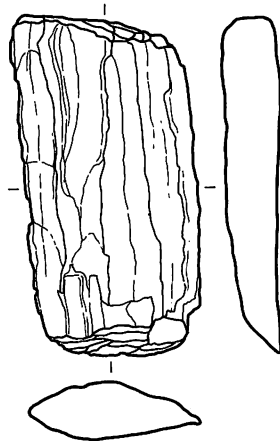


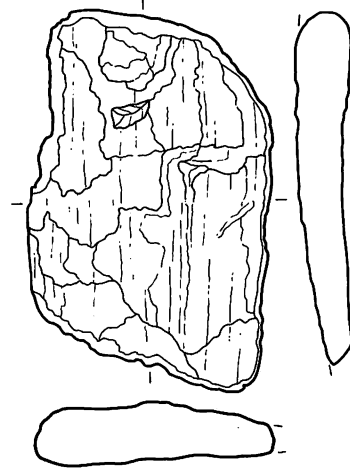
图 XI-28 板材 (1)



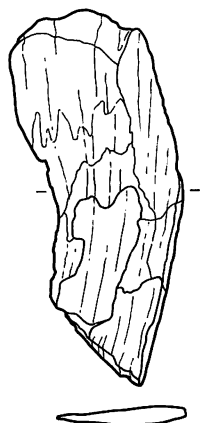
19



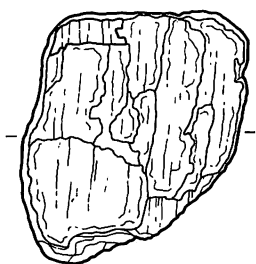
20



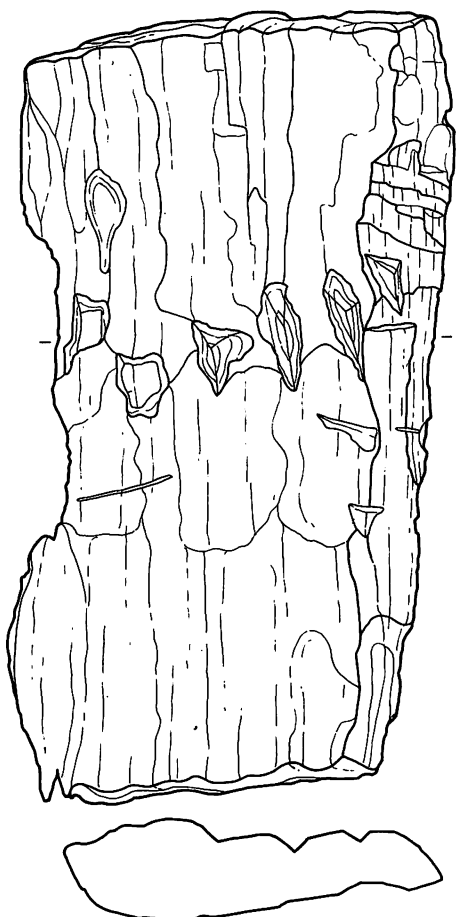
21



22

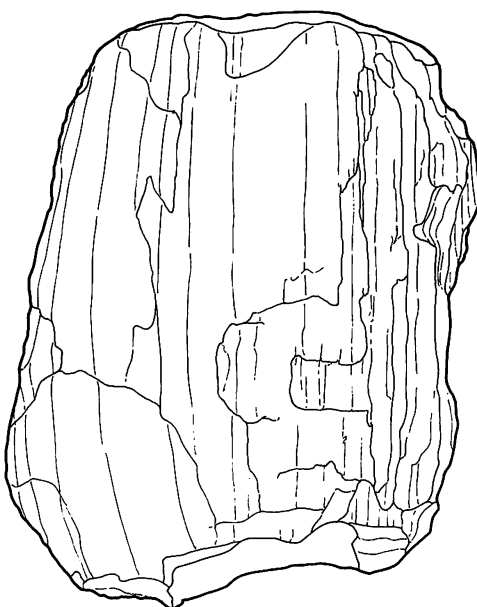
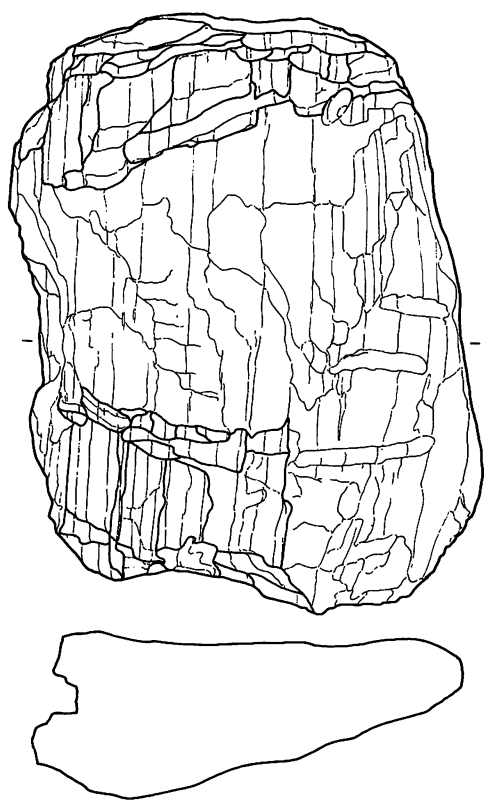


23

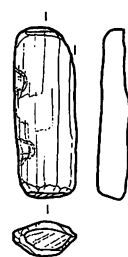


24

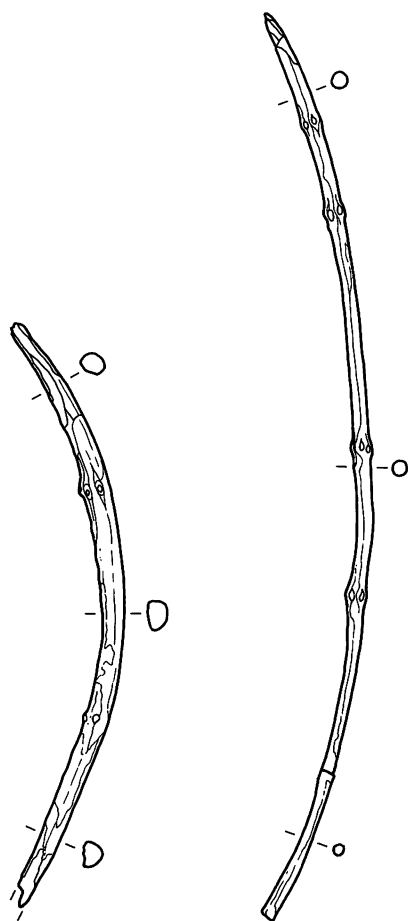
図XI-29 板材 (2)



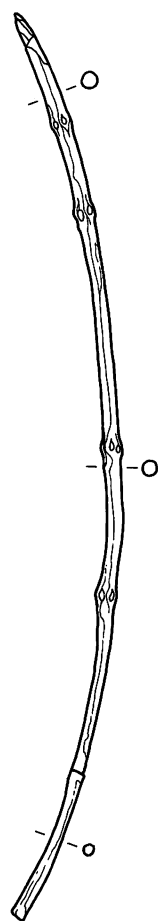
25



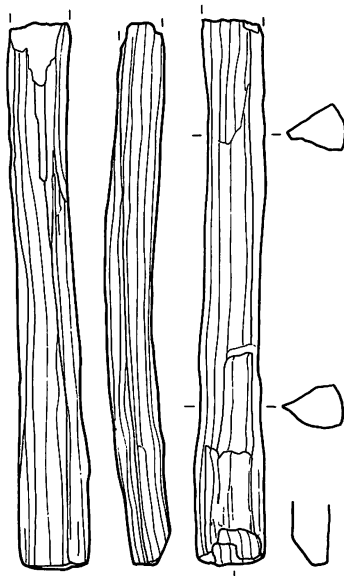
26



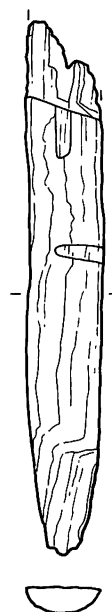
27



28

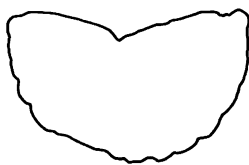
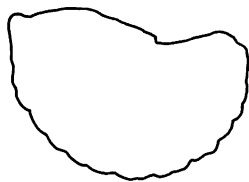


29

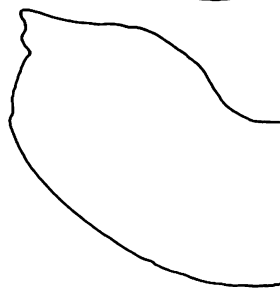
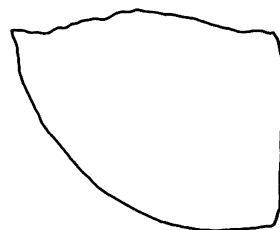


30

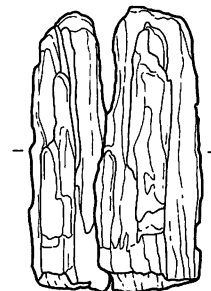
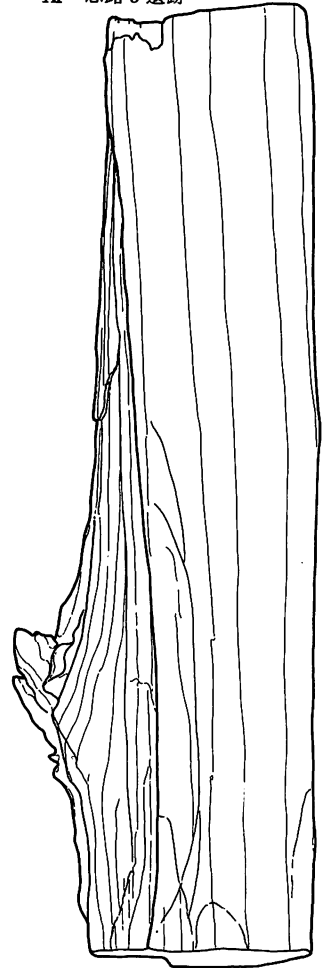
图XI-30 板材 (3), 弓状材, 縦割材 (1)



31



32

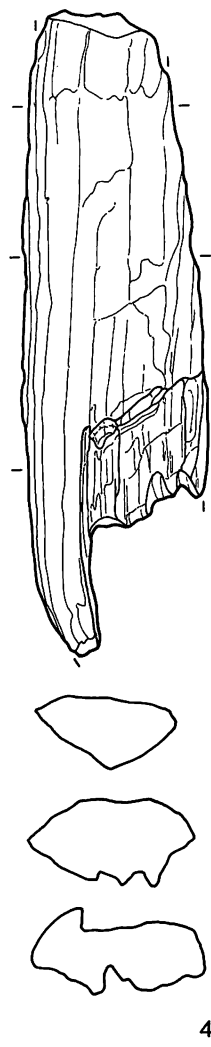
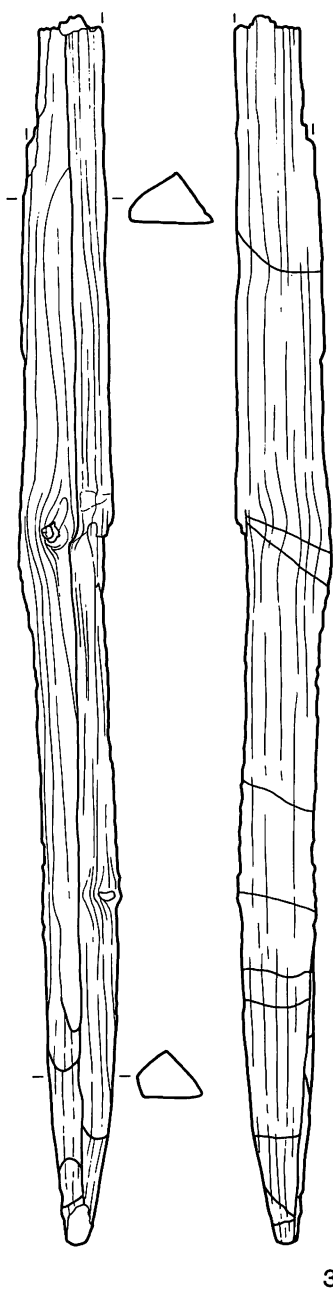
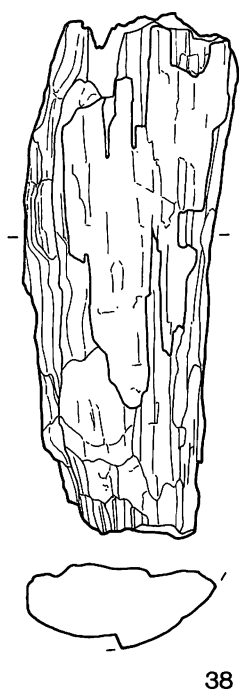
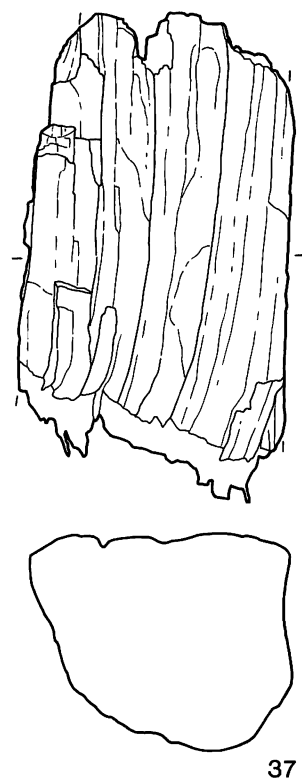
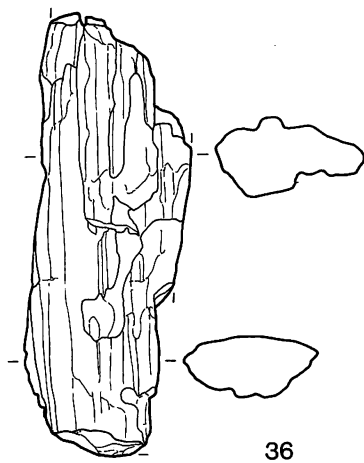
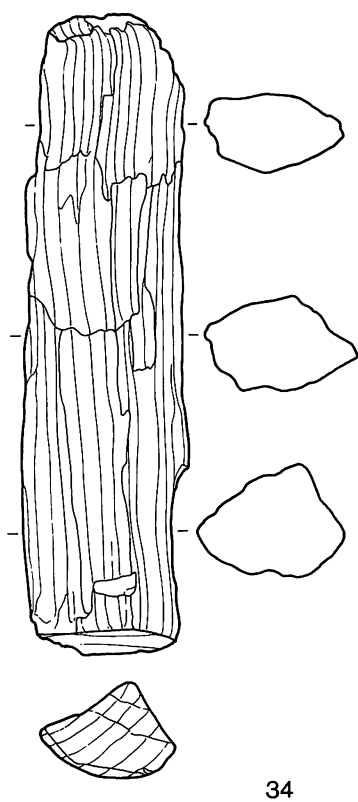


35

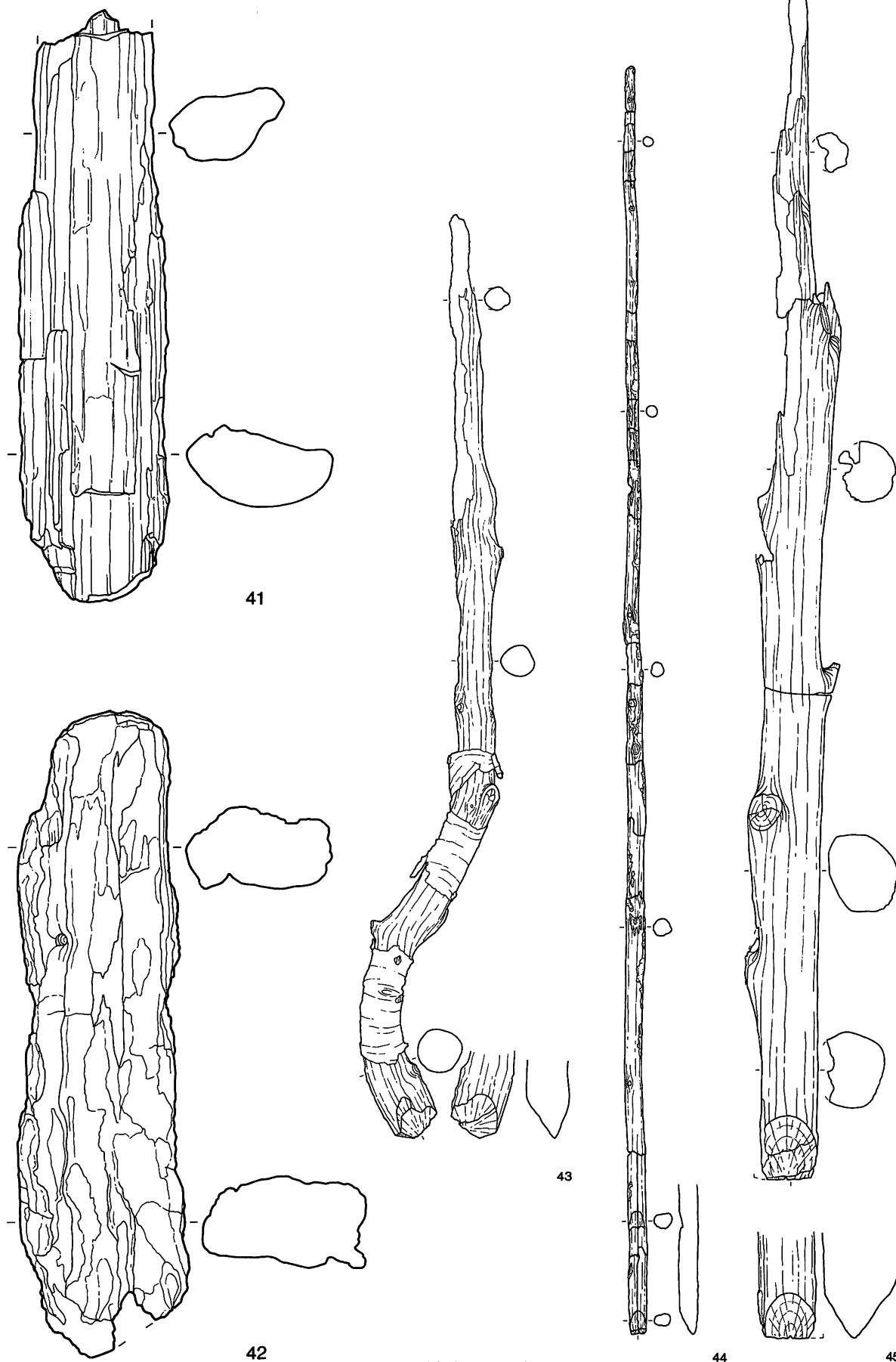


33

図XI-31 縦割材 (2)



図XI-32 縦割材 (3)

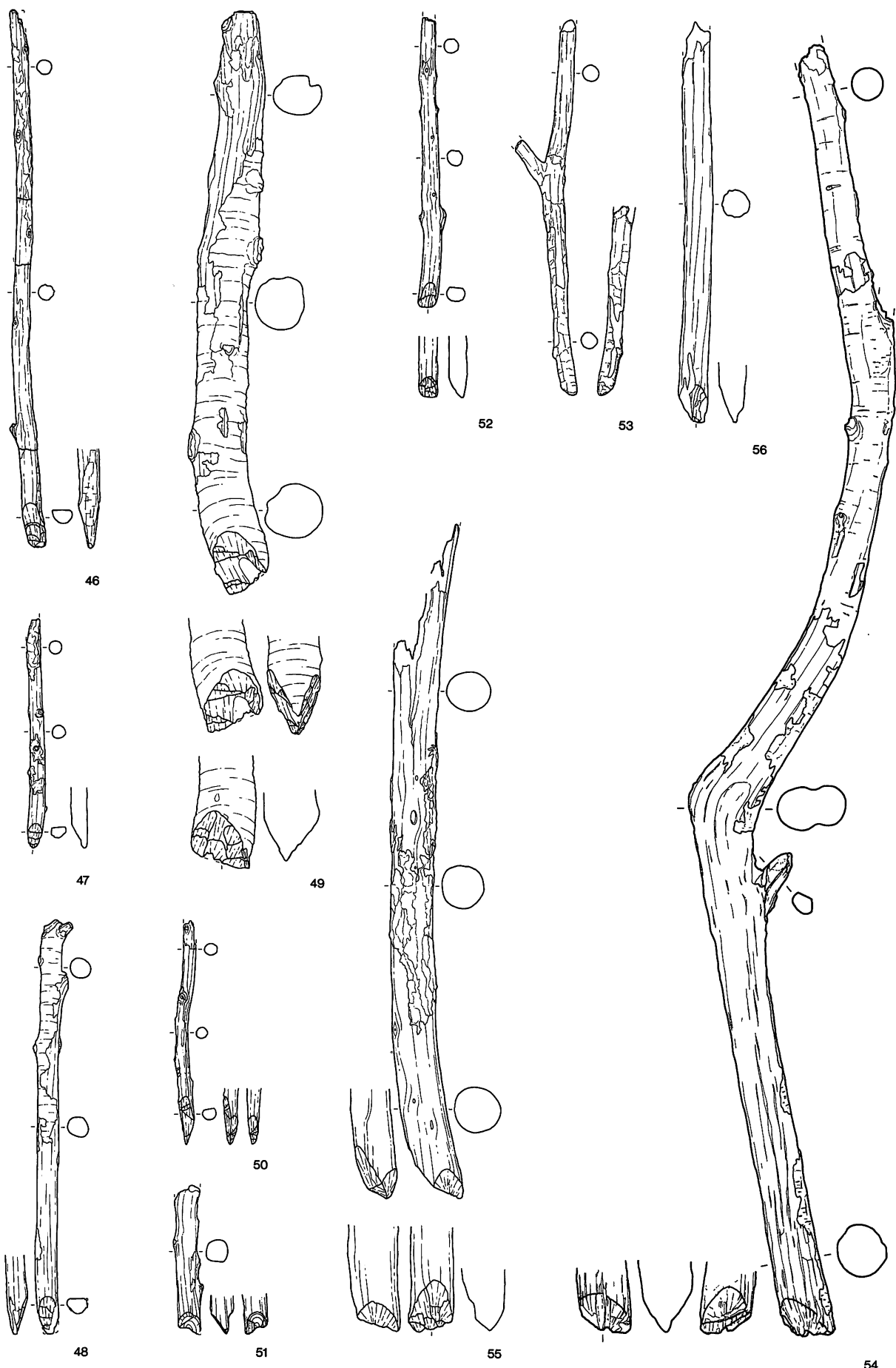


42

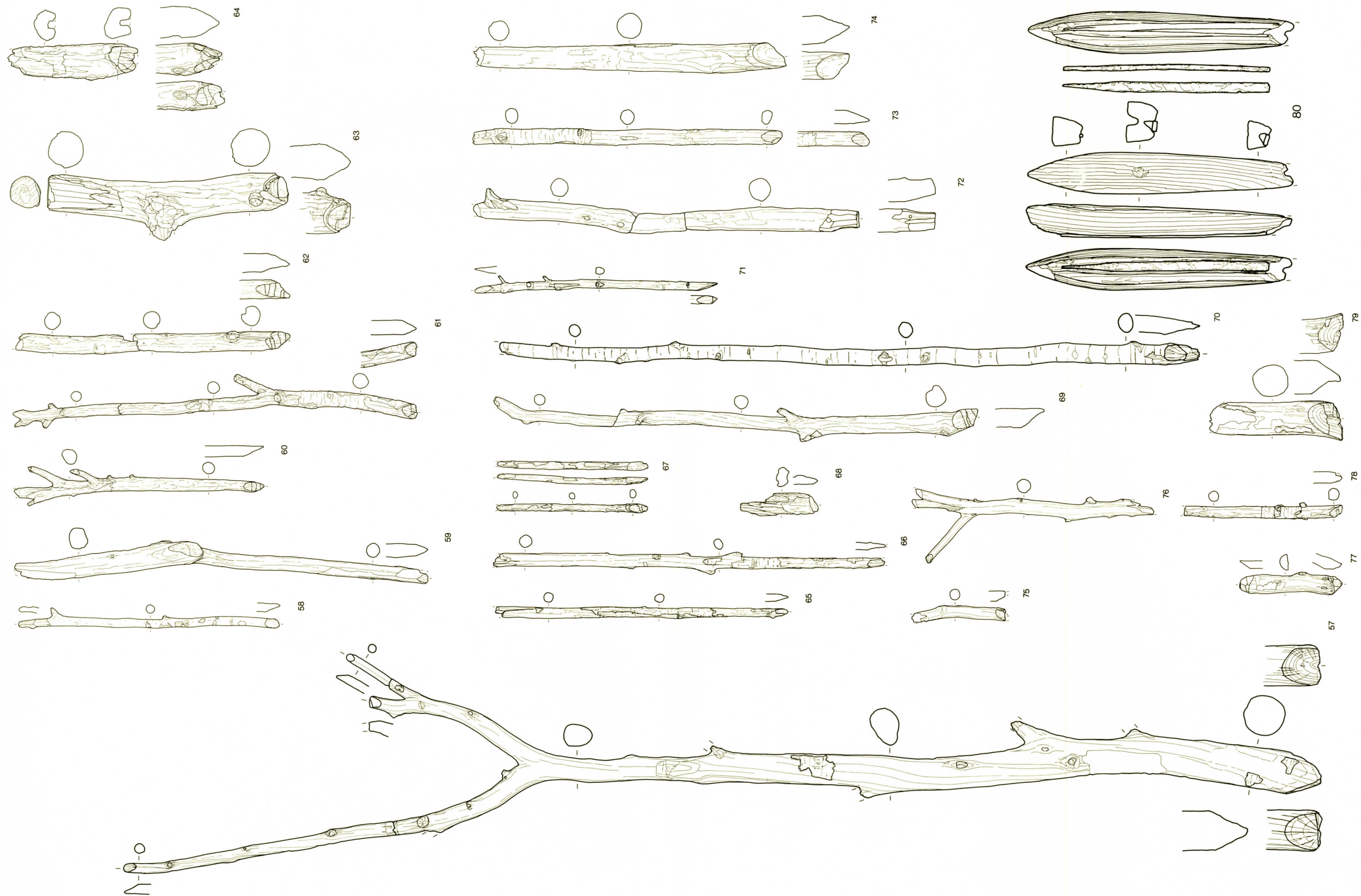
図XI-33 縦割板(4), 杭状材(1)

44

45

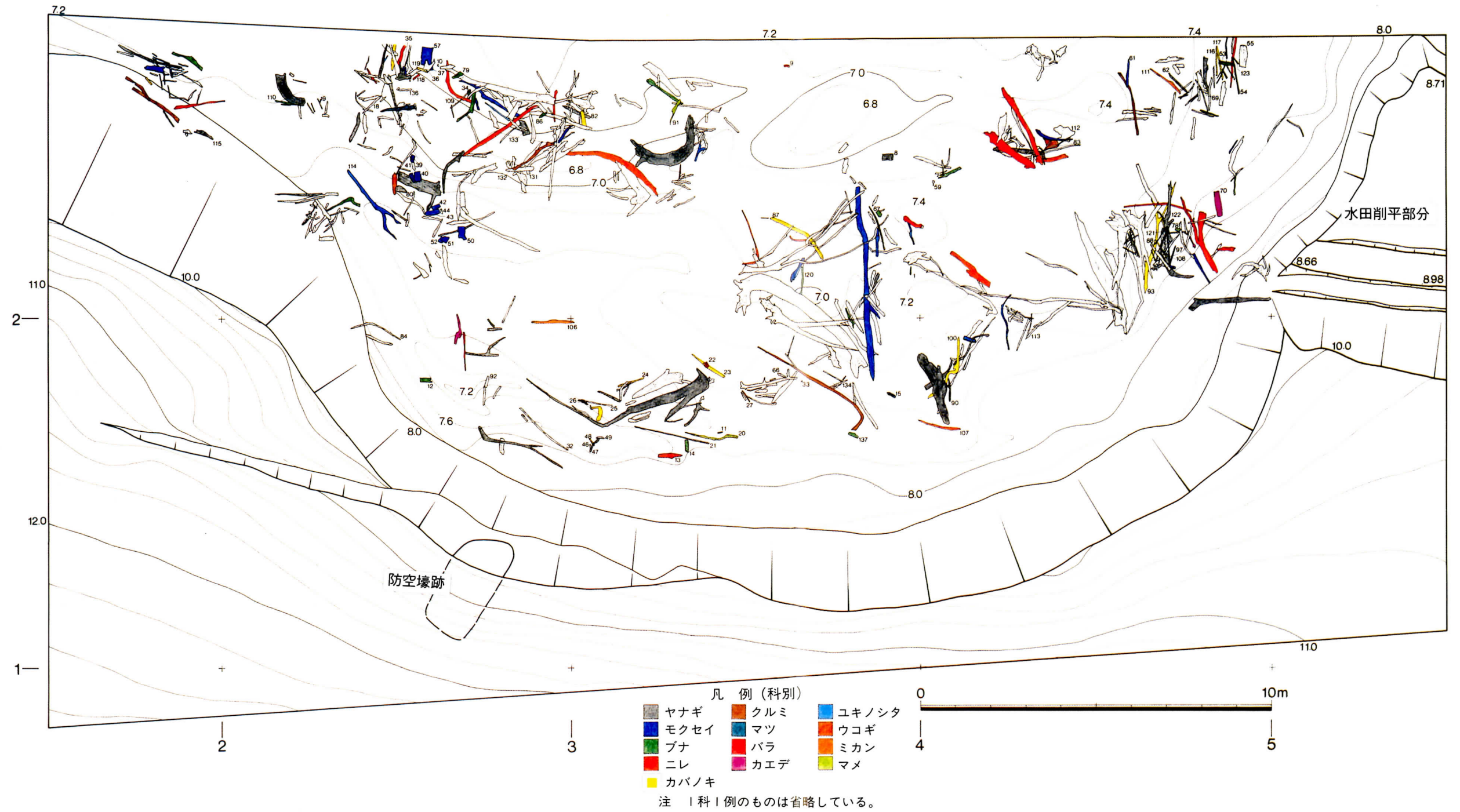


图Ⅺ-34 杭状材 (2)



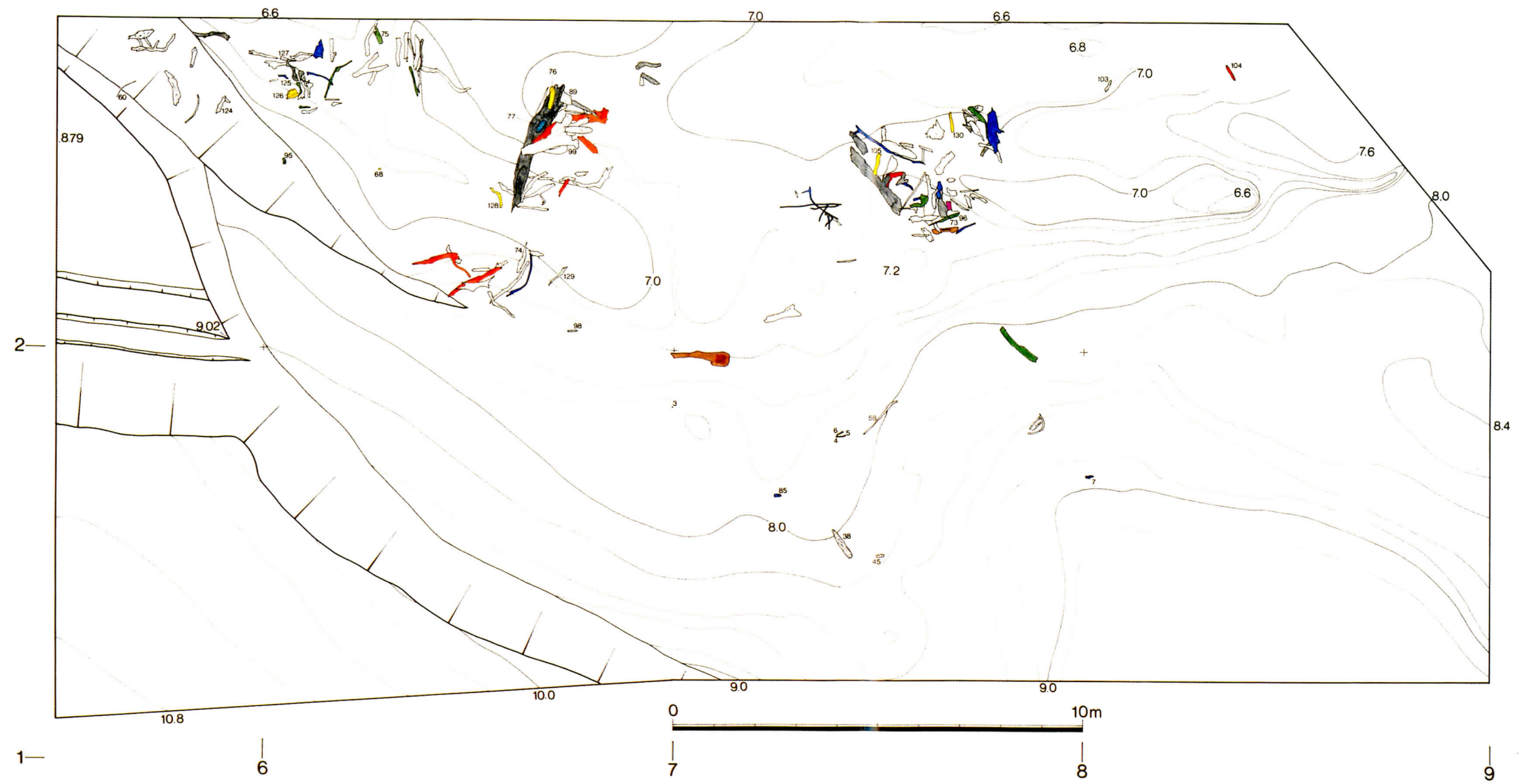
图XI—35 杭状材 (3), 舟型木製品

3—



図XI-36 出土木製品類, 樹木分布 (1)

3—



图XI-37 出土木製品類，樹木分布 (2)

表XI-30 出土木製品類、樹木一覧(1)

グリッド	層	レベル	長さ(m)	くさね	分岐	断	断	断	樹種	部位	備考	番号
12-76	V	7.54	90	○					オニグルミ		やや堅い、緩い曲がり	1
76	V	7.54	27				○		カバノキsp.			2
76	V	7.57	76	○	○	○			オニグルミ	幹の二分之一	キツツキの穴、フカフカ状	18
77	V	7.60	185		○				ドロノキ			3
77	V	7.62	69	○	○				ヤチダモ	幹の一部	年輪細かく揃っている、堅いところ無し	4
77	V	7.56	84	○	○		△		ヤチダモ	幹・枝		19
77	V	7.54	51							枝		20
77	V	7.55	87		○	○			ミズナラ	枝または根	芯のみ堅い	21
77	V	7.50	23							枝		23
85	V	7.58	24									17
85	V	7.51	18		○					根基部		26
85	V	7.44	68	△		○			エノマツ	枝の二分之一	堅い	27
86	V	7.52	48									5
86	V	7.64	41							枝		7
86	V	7.68	23							枝		8
86	V	7.56	140	○	○				ハルニレ		柔らか	14
86	V	7.58	84							枝		15
86	V	7.56	15		○						フカフカ状	24
86	V	7.54	39		○					根		25
87	V	7.68	58		○							9
87	V	7.66	14							枝		10
87	V	7.60	99	○					ミズナラ		堅い	11
87	V	7.57	24							枝		22
95	V	7.53	55			○			ヤナギsp.	枝	穴あり、キツツキ類の穿った穴か	加115
96	V	7.56	42							枝		12
96	V	7.52	24			○				枝		13
—	V	7.52	100									6
21-39	V	7.78	135							枝、分岐あり	板状材、一端斜め切断	加 84
49	V	7.75	93							枝		136
58	III	8.24	32						トドマツ?		板材、桶の側板状に湾曲、板目	加 12
68	III	8.02	119	○	△				アズキナツ	枝	やや堅い	32
69	III	7.99	134	○			△		ヤナギsp.	枝		30
69	III	8.00	27	△					イタヤカエデ	幹の二分之一、根曲がり部	やや堅い	33
76	III	7.84	195		○		○		ヤナギ	根に近い部分から幹		101
77	III	8.04	36								板材、板目	加 92
77	III	7.97	39									36
79	III	7.94	41	△	△				ヤナギsp.			31
79	III	7.96	47			○	△		ヤナギsp.			34
86	V	7.68	40		○					根基部		102
87	V	7.61	209				○		シナノキ		板状材、一端斜め切断	加 32
87	V	7.69	42							枝		103
88	III	7.95	140	○			△		ヤナギsp.	幹の二分之一	柔らか	37
89	III	8.03	208		○				キハダ?	真直な幹	板状材、一端二方向から切断、フカフカ状	加106
22-13	V	7.58	134				△		ヤナギsp.?	枝の一部		93
13	V	7.51	165		○					枝?	材に小穴多し、フカフカ状	94
16	V	7.71	66				○		ミズナラ	枝	板状材、両端斜め切断、切口鋭利	加110
16	V	7.84	105	○					ヤナギsp	根曲がり部	柔らか	38
16	V	7.95	18	○	○	○			不明	幹の一部	フカフカ状	39
16	V	7.72	33				○			枝		64
22	V	7.97	44		○					幹		61
22	V	7.52	105				○		エノニワトコ			97
23	V	7.52	90		○							95
25	V	7.85	16				○					40
25	V	7.90	48							根		41
25	V	7.95	44							幹		43

表 XI-31 出土木製品類, 樹木一覧 (2)

グリッド	層	レベル	長さ(m)	くさね	分節	磨耗	曲	樹種	部位	備考	番号
22-26	V	7.83	11				○	トドマツ		板材, 剥落片か	加 19
26	V	7.81	27				○		枝		42
33	V	7.53	147	○				ミズナラ	根基部と立上り	堅い	96
34	V	7.82	105		○			ヤチダモ	枝分かれた幹, 立ち枯れた葉子あり	板状材, 一端隅削り出し	加114
34	V	7.43	53						根		106
35	V	7.42	90		○			ヤナギsp.	二股部		104
36	V	7.85	57								45
36	V	7.85	38						枝		46
36	V	7.41	120		○				枝		109
37	V	7.86	30								44
43	V	7.80	38				○				62
43	V	7.75	65	○				ハリギリ	太い幹の二分之一	堅い	142
44	V	7.83	41		○				根基部		60
44	V	7.58	22						枝		152
45	V	7.89	85				○	広葉樹	枝分かれた幹	板状材, 一端二方向から切断	加 18
45	V	7.89	30				○		枝		47
45	V	7.96	46						枝		50
45	V	7.91	25		○				枝		51
45	V	7.97	100					トドマツ	枝出しの残る幹	半分	52
45	V	7.38	85	△	○		○			皮は剥けてカラマツ様の肌になっている	105
45	V	7.63	78		△			ヤナギsp.	枝	緻密, 年輪細くあり, 直状	107
46	V	7.92	52						根基部		48
46	V	7.97	28						根		49
46	V	7.88	120				○	ヤナギsp.	根基部から四本立上り	調査範囲外に伸びるため全長不明	54
46	V	7.86	33						根		55
46	V	7.85	85				△	ヤナギsp.	枝		56
46	V	7.47	63	○	○			ハルニレ	枝		110
47	V	7.83	67			○		ハリウツギ	枝	緻密, 堅い	57
47	V	7.38	38	△		△			枝	堅い	111
47	V	7.58	42					ハンノキ	枝の一部	柔らか	112
47	V	7.59	57	△	△	○		ハルニレ	根幹曲がり部		113
47	V	7.59	60								114
52	V	7.75	42					ヤチダモ		板状材	加 43
52	V	7.89	31		○				枝		63
52	V	8.02	86								140
52	V	7.94	49		△				枝の一部	少し堅い	141
52	V	7.70	19						枝		150
52	V	7.55	21						枝		154
53	V	7.75	26					ヤチダモ		板材, 板目	加 40
53	V	7.75	26					ヤチダモ		板材, 板目	加 41
53	V	7.75	25		○		△	ヤナギsp.	幹	棒状, 両端に切口あり	加 80
53	V	7.75	110				○	ヤナギsp. ?	根基部から幹	太い	139
54	V	7.70	22					ヤチダモ		板材, 板目	加 39
54	V	7.75	124					広葉樹	やや折れ曲がった枝	緻密, 堅い, 穴少ない	137
54	V	7.60	27		○				枝		151
54	V	7.58	22						枝		153
55	V	7.84	26		○				枝		53
56	V	7.72	19			○		ヤチダモ		板材, 板目, 磨耗のため加工痕不明瞭	加 35
56	V	7.86	46				○	広葉樹			加136
56	V	7.69	49			○		広葉樹	枝	堅い	116
56	V	7.82	43	△		○	△	広葉樹	ひねた幹の一部	堅い	117
56	V	7.75	39	△	△	○	○	オヒョウ	幹の二分之一		加118
57	V	7.75	17						枝		加 36
57	V	7.96	25		○			ヤチダモ		板材, 剥落片か	加 37
57	VI	7.92	31	△	○	○	△	○	ハンノキ	板材, 板目, 加工痕不明瞭	加119

表XI-32 出土木製品類、樹木一覧(3)

グリッド	層	レベル	長さ(m)	くさね	分	離	断	断	断	樹種	部位	備考	番号
22-57	V	7.57	52							ヤチダモ		板材、板目、一面に刺突痕あり	加 57
62	V	7.74	14									板材、剥落片か	加 44
62	V	7.99	16					○			枝		144
62	V	7.76	250								根部分	堅い	147
62	V	7.68	110		○					ヤナギsp.?	枝	フカフカ状	148
62	V	7.82	43							ヤチダモ		板材、板目	加 50
62	V	7.85	19							ヤチダモ		板割材	加 51
62	V	7.88	25			○				ヤチダモ		板材、板目	加 52
62	V	7.69	139					△					149
63	V	7.73	23			○				ヤチダモ		板材、板目	加 42
63	V	7.71	144	○						ヤナギsp.?	根曲がり部		138
64	V	7.67	140								枝の一部?		146
64	V	7.40	41	○	○	○				広葉樹	幹	キツツキ穴	212
64	V	7.21	249							ハルニレ	幹	堅い、真直	213
64	V	7.40	115										214
65	V	7.62	115							ミズナラ?	枝の一部	二股、一方なし	124
65	V	7.56	36		○		○				枝		125
66	V	7.64	29			○				ミズナラ		扁平材、一端に加工痕	加 79
66	V	7.74	76							ヤマウルシ?	幹	枝払いをしている	加109
66	V	7.22	197							ハルニレかヤチダモ?	枝	やや堅い	218
66	V	7.10	158	○						ハルニレ	枝の一部	やや堅い	222
67	V	7.86	7							広葉樹		板材、剥落片か、一端斜め切断	加 10
67	V	7.49	330										126
73	V	7.79	73								幹の半分		145
74	V		108		○	○				広葉樹	枝	フカフカ状	221
75	V	7.58	122		○						枝の部分		129
75	V		53			○				針葉樹	幹の一部	板状、堅い	216
75	V		78		△	○				ツルアジサイ?	枝	側面に根の様な繊維の出ている部分あり	217
75	V		37		△	○				ハルニレかヤチダモ?	枝	堅い	220
76	V	7.65	14		○					ミズナラ		板材、板目	加 34
76	V	7.55	83		△					針葉樹?	幹の二分之一	年輪細かく揃う、やや柔らか	127
76	V		56									やや堅い	219
83	V	7.19	87	○	△	○				広葉樹			209
83	V	7.16	24	△	○	○				広葉樹	幹		210
84	V	7.22	114			○		○		広葉樹	幹の一部	やや堅い	加131
84	V	7.51	268							オニグルミ?	枝	やや堅い	207
84	V	7.38	54	○	○	○				広葉樹	幹	フカフカ状、キツツキ穴	211
84	V	7.32	60	○	○	○		○		広葉樹	幹		加132
85	V	7.63	110	○									128
85	V		221	○									131
85	V	7.47	77									やや堅い、病コブ付	160
85	V	7.47	49	○	○	○		○		ヤナギsp.	根曲がり部の幹		加133
87	V	7.73	71		○		○						130
94	V		88					△			枝の部分	やや堅い	158
94	V	7.53	235			○				ハルニレ?	弓なりに曲がった幹	やや堅い、両端丸く減る	203
94	V	7.12	121	○	△					広葉樹		二股あり	204
94	V	7.58	95	△	△	○				広葉樹	幹	しっかりしている	205
95	V	7.50	25							ミズナラ		板材、剥落片か、板目、湾曲している	加 86
95	V	7.61	41		○								132
95	V	7.61	40										133
95	V	7.56	48								枝の一部	やや堅い	157
95	V	7.70	107	△						ハルニレ?		年輪細かい、穴多し	162
95	V		70	△	○	△				ヤチダモ	枝		224
95	V		37	○	○					広葉樹	枝		225
95	V		34			△					枝の二分之一	堅い	226

表 XI-33 出土木製品類, 樹木一覧 (4)

グリッド	層	レベル	長さ(m)	くさね	分節	磨耗	破断	樹種	部 位	備 考	番号
22-96	V	7.59	85				△	ヤナギsp.	根基部のついた幹	杭状材、一端二方向から切断、断面三角	加 82
96	V	7.78	41	○	○		○		根基部		134
96	V	7.04	41		○					フカフカ状	163
96	V	7.26	136								223
31-06	V	7.45	25					広葉樹	枝	杭状材、一端斜め切断、基層に刺さっている	加 46
06	V	7.61	63				○	ヤナギsp.		46と48・49に掛かって横たわっている	加 47
06	V	7.53	15					ケヤマハンノキ		基層に斜めに刺さっている	加 48
06	V	7.52	65						三つ又の枝	杭状材、一端斜め切断、基層に刺さっている	加 49
07	III	7.94	96				○	広葉樹		杭状材、一端斜め切断、柔らか	加 25
07	III	7.92	41					ヤナギsp. ?	枝	杭状材、一端斜め切断	加 26
07	III	8.02	84		○				枝		67
07	III	8.10	70		○		△	ヤナギsp.		柔らか	68
07	III	8.07	53					カバノキsp.		ひね曲がった根の一部	69
17	III	8.10	92								70
17	III		33						根	堅い	71
17	III	8.07	30						根		72
17	III	8.04	140					?	幹、根基部	根の方に焼けた炭な黒化した部分あり	73
17	III	8.04	64		○						76
18	III	8.15	74			○		ハンノキ ?		杭状材、一端斜め切断	加 24
26	IV	8.09	66			○		エノヤマザクラ		杭状材、一端二方向から切断	加 13
27	III		54								75
36	II	8.49	162					イヌエンジュ		杭状材、一端二方向から切断	加 20
36	II	8.46	228		○			ヤナギsp.	枝	杭状材、一端二方向から切断	加 21
36	III	7.94	85					ヤナギsp. ?	根曲がり部		74
36	IV	8.09	36			○		ミズナラ		杭状材、一端二方向から切断、断面三角	加 14
38	III	7.98	17		○			ハリギリ		板材、板目、斜めに木取り、破片か	加 22
38	III	7.85	104					ケヤマハンノキ		杭状材、一端二方向から切断	加 23
46	IV	8.10	19					トドマツ		杭状材、堅い	加 11
47	III	7.99	40					ハルニレ	枝	杭状材、一端二方向から切断、断面三角	加 27
48	III	7.99	164								88
57	III	7.84	116								87
57	III	7.97	60								90
57	III	7.86	30								91
58	III		32							板材	加 66
58	III	7.91	16								89
59	III	7.75	374					オニグルミ ?	根から幹	根曲がり大きい、幹比較的真直、堅い	92
59	V	7.65	323						根から二股の枝	緻密、堅い	77
68	V	7.66	103								185
68	V	7.64	7	△	○	△		ヤチダモ	枝 ?	板材、剥落片、フカフカ状	加 33
76	III	7.97	28				○	ミズナラ			加137
77	III		27					ハルニレ ?		杭状材、一端二方向から切断、切口鋭利	加 28
77	III		52					ヤナギsp. ?	枝	杭状材、一端二方向から切断	加 29
77	III		37					ハルニレ		扇状、芯持材、一端斜め切断	加 30
77	III		39					針葉樹		弓状枝(28-31まで図なし)	加 31
78	III	7.94	71	△	○		△	広葉樹			加134
78	III	7.85	47						枝		85
78	V	7.66	86	○	○			広葉樹	幹の一部、枝出しあり	緻密	186
87	III	7.93	135	○	○		△		根に近い部分の幹	柔らか	82
87	III	8.00	84	○	○		△				83
88	V	7.63	336		△			ヤチダモ		やや堅い	79
89	V	7.65	84								80
89	V	7.55	87			○		カシワ ?	枝	堅い	187
97	IV	7.88	35					エノマツ ?		建築材か、芯持材	加 15
トレンチ	—		28				○	ヤナギsp.		杭状材、両端削り出し(図なし)	加 81
32-05	V	7.58	80		○			カバノキsp.			156

表XI-34 出土木製品類、樹木一覧(5)

グリッド	層	レベル	長さ(m)	くさね	分	解	断	破	断	樹種	部 位	備 考	番号
32-13	V	7.50	138								根基部から幹	根元で直角に曲がり立ち上がる。緻密、堅い	233
13	V	7.45	48	○	○	○				広葉樹	枝		234
13	V	7.34	66										235
14	V	7.38	182							ヤナギsp.	大きく曲がった幹	柔らか	237
16	V	7.22	36										238
16	V	7.18	71		△	△					枝		239
23	V	7.32	72	○	○	○					幹		236
23	V	7.28	32		○		○						247
23	V		69										248
23	V	7.38	47								枝		249
23	V		53										250
25	V	7.00	91				○			イヌエンジュ	枝	切痕あり、堅い	加 91
26	V	7.27	119	○						ミズナラ		堅い	98
26	V	7.20	39		○						枝		99
26	V	7.32	143		△	○				広葉樹	幹の二分之一	やや堅い	241
33	V	7.33	65	○	○		△			広葉樹	枝		251
33	V		52				○			オニグルミ?	枝	堅い	253
34	V	7.44	72	△						ヤチダモ?	枝	二股、やや堅い、一端折れ	244
34	V	7.40	52										245
34	V	7.36	115		○	○	○			広葉樹		緻密	252
35	V	7.28	53										246
35	V		23										254
36	V	7.12	65										242
36	V	7.11	34										243
40	V	7.74	550								根基部から幹	やや柔らか、最大の木	78
41	V	7.63	370								根基部から二股枝先	緻密、やや堅い	165
41	V	7.35	116							ハルニレ?	枝の部分		169
45	V	7.19	68				○				根		100
51	V	7.63	142								枝の部分	堅い	168
51	V	7.69	145							広葉樹	幹の二分之一	緻密、やや堅い	170
52	V	7.50	194	○	○	○	○			ハンノキ	幹	桁状材、一端斜め切断	加 87
52	V	7.50	32										66
60	V	7.31	80	△	△			○		ミズナラ?	枝	芯のみ黒色	加120
61	V	7.28	91				○			ヤチダモ?		堅い	164
61	V	7.33	254							広葉樹	枝	緻密、堅い	171
62	V	7.74	77							広葉樹	根の一部	やや堅い、曲がっている	167
62	V	7.49	57		△	○	△				曲がった枝	対生、年輪がはっきりしている	172
67	V	7.69	16		○					エノヤマザクラ		扁平割材、フカフカ状	加 9
70	V	7.66	97				○			広葉樹	幹の一部	緻密、堅い	81
70	V	7.49	218								枝	緻密、やや堅い、両端折れ	184
80	V	7.68	131	○	○						幹	ほとんど節をなしていない	179
80	V		75	○	△					ヤナギsp.	幹と枝		180
80	V	7.48	110							広葉樹	幹?	緻密、やや堅い、途中で急に細くなる	181
80	V	7.64	73									やや堅い	182
80	V	7.68	71	○	△	○				ヤチダモ?	幹の一部		183
81	V	7.56	82	○	△	△				ヤチダモ?	幹の二分之一		175
81	V	7.42	140							ヤナギsp.?			176
81	V	7.60	86								枝		177
81	V	7.48	50										178
82	V	7.56	18		○					ミズナラ		板材、板目、剥離片か	加 67
91	V	7.41	310								根基部から幹	緻密、堅い、根曲がりが多い	291
91	V	7.42	67	△	△					広葉樹			295
91	VI	7.31	26							ミズナラ		小刀状	加 1
92	V	7.66	65	△	○	○				ヤチダモ			296
92	V	7.56	57	○	△	○				カエデかサクラ?		緻密、曲がり、虫穴多し	297

表 XI-35 出土木製品類、樹木一覧 (6)

グリッド	層	レベル	長さ(m)	くさね	分岐	断	樹皮	燃	樹種	部 位	備 考	番号
32-94	V	7.71	32						ヤナギsp.		四分の一材	加 8
94	V	7.72	109	○	○	○	△				フカフカ状	300
トレンチ	—		43		○				オニグルミ		杭状材、緩割材? フカフカ状(固なし)	加 2
41-06	III	7.80	224	○					ヤナギsp.?	太い幹		275
07	III	7.53	67		○			○	ヤナギsp.		杭状材、加工痕不明瞭	加 90
07	III	8.07	230						ハンノキ		杭状材、一端方向から切断	加100
07	III	7.94	121						ハルニレ		杭状材、一端方向から切断	加107
08	III	7.80	75	△	○				ヤナギsp.?	枝が幹?		277
08	III	7.91	253		△		○		広葉樹	幹	やや柔らか	279
18	III		77	○	○				広葉樹	枝		280
18	III	7.90	64	△	△		○		広葉樹	枝		281
18	III	7.87	125		○		△		ヤナギsp.	枝		282
19	III	7.80	35	○	○	△			ヤチダモ	幹	フカフカ状	283
19	V	7.57	69	○	○	○			広葉樹	幹		284
29	V	7.61	153						ハルニレかヤチダモ?	枝	やや堅い、両端折れ	285
29	III	7.85	106			△			広葉樹	枝		286
29	III	7.97	46	△	△	○			広葉樹	ぬじ曲がった枝が根?	堅い	290
39	III	7.82	71						広葉樹	枝	杭状材、一端斜め切断	加113
39	III		61		△	○			広葉樹	枝		288
39	V	7.48	171			○			広葉樹		緻密、やや堅い	289
59	III	8.16	168	○	△				広葉樹	コブ付の幹	緻密、全体に木理が捻じれている	322
59	III	8.20	73			△			広葉樹	枝	堅い、折れ曲がり	337
トレンチ	—		36						ハンノキ		杭状材、一端方向から切断	加102
42-01	V	7.58	143		○	△			ハルニレ		柔らか	292
03	V	7.83	18						針葉樹		堅い	加 59
03	V	7.80	72			△			ミズナラ	幹	堅い	298
04	V	7.72	77		△				広葉樹	幹		299
10	V	7.71	406							根上から幹・枝	緻密、やや堅い、真直伸びていた	293
15	V	7.73	170				△		ナナカマド?	広がる様に幹・枝	緻密、堅い、直線状、両端丸い	301
24	V	7.74	143		○	△			ヤナギsp.?	幹の二分之一		305
24	V	7.75	68		△	△			広葉樹	枝	緻密	306
24	V	7.71	94	○	△				広葉樹	幹の三分の一	外側のみ	307
25	V	7.72	259	○	△	○			ハルニレ	幹・枝		302
25	V	7.72	144			○			広葉樹	枝	緻密	311
31	V	7.68	254			○			広葉樹	枝	緻密、やや堅い	294
34	V	7.75	35		○			○	ハリギリ?		偏平割材、フカフカ状	加 83
34	V	7.75	74	○	△				ハルニレ?	幹	成長が良い	303
34	V	7.76	164	△	○		○		広葉樹	枝		304
35	V	7.74	52		○	○			ヤマグワ?	幹	半円形の挟り、フカフカ状	加112
35	V	7.76	113		○		○		ヤチダモ?	枝	スカスカ状	310
37	V	7.72	105									313
37	V	7.72	62						広葉樹	枝	堅い	314
37	V	7.74	40									315
41	V	7.60	350							太い幹	やや堅い	316
50	III	8.02	250							幹	緻密、表面の木理が右回りに捻じれている	321
51	V		120	○					広葉樹	幹の三分の二	やや堅い	317
53	III	7.75	192	△					ハルニレ?	枝		335
55	V	7.45	92		△	△			広葉樹	枝	緻密	346
55	V	7.37	97	○	○					枝?		347
56	V	7.50	81						ヤチダモ		偏割材、一端五方向から削り出し	加 61
56	V	7.45	222		△				オニグルミ	枝		273
60	III	8.04	328						ハンノキ?	二股の枝	杭状材、一端方向から切断	加 93
61	III	8.47	11								杭状材、先端片か(固なし)	加 71
61	III	7.91	188	○	△					根から幹	緻密、堅い	324
61	III	8.02	143	○	△		○		広葉樹	幹の二分之一	緻密	325

表 XI-36 出土木製品類, 樹木一覧 (7)

列	層	レベル	長さ(m)	くさね	分	彫	彫	彫	樹 種	部 位	備 考	番号
42-61	III	7.88	68	△	△	△			広葉樹	枝		326
61	III	7.69	133		△		○		広葉樹	枝		340
61	III	7.81	39	△	○				ヤチダモかハルニレ ?	枝の二分の一		416
61	III	7.69	48	△	○			○	広葉樹	枝		加121
62	III		71						ハンノキ	枝	杭状材, 一端斜め切断	加 88
62	III	8.04	50	△	○	△			広葉樹 ?	幹		327
63	V	7.64	148		△		○		広葉樹	枝	縦密	333
67	III	7.75	113		○				キハダ	枝	杭状材, 一端二方向から切断	加111
70	III	7.69	223				○		ヤナギsp.	幹		334
71	III	7.84	68						ヤナギsp.	枝	杭状材, 一端斜め切断	加 97
71	III	8.03	111						ヤナギsp.	枝	杭状材, 一端二方向から切断	加108
71	III		120									188
71	III		81	△	△	○			広葉樹	枝		190
71	III		94	○	△	△			ヤチダモ	枝		196
71	III	7.78	42		△	△	○		ハンノキ	枝	表面炭化	加122
72	III		57						イタヤ ?	枝	縦密, 堅い, 対生	414
72	III	7.70	20					△	ミズナラ		板材, 板目, 剥落片か	加 78
72	III		54		○		○			枝の一部	フカフカ状	189
72	III		190						ハルニレ ?	枝	両端折れ	191
72	III	7.65	82	△		△	△		広葉樹	枝	縦密, やや堅い	342
72	III	7.76	69		△	△			広葉樹	枝	年輪はっきりしている	413
75	III	8.01	56			○			ミズナラ	枝	堅い	263
75	III	7.87	67	○	○	○			広葉樹	枝		264
75	III	7.89	69		○		○					265
75	V	7.45	90	△	○	△			広葉樹	枝		262
76	III	7.79	75						ヤナギsp. ?		杭状材, 一端二方向から切断, 断面三角	加 62
76	III	7.69	36						ホウノキ		扁平割材	加 69
76	III	7.79	35	○	○	○			広葉樹	幹, 根曲がり部		261
76	III	8.08	106				○			枝		266
76	III	7.78	58							枝		267
76	III	7.77	27		○					枝		268
76	III	7.79	28		○					枝		269
76	III	7.75	36							枝		270
76	III		24							枝		271
76	III	7.85	39									272
76	III	7.76	66	○		○			広葉樹	根基部	堅い	386
81	III		50		△	○			サクラ ?	根曲がり部の二分の一		192
81	III		78	△	△	△	△		広葉樹	枝		193
81	III	8.24	130									341
82	III	7.91	76				○		イタヤカエデ		平割材	加 70
82	III		52									194
82	III		40		△		○		広葉樹	枝	堅い	195
83	III	8.09	54	△		○			ミズナラ	枝	堅い	344
83	V	7.89	59	△	△		△		広葉樹	枝		395
84	III	7.97	91	○	△				広葉樹	枝の一部	曲がり, やや堅い	345
84	III	8.07	47	△	△	○			ヤチダモ	枝		396
85	III	7.84	73	△	△		△		広葉樹	枝		349
86	IV		80				○		ケヤマハンノキ ?	枝	杭状材, 一端斜め切断	加116
86	IV	7.84	107				○		ケヤマハンノキ	枝	杭状材, 一端二方向から切断, 断面三角	加117
86	IV	8.05	71			△			ハルニレ ?			197
86	IV	8.01	48	△	○		△		広葉樹	枝		199
86	IV	8.03	26						ノリウツギ ?	枝	対生	200
86	IV	7.96	41		△	△	△		広葉樹	枝		加123
86	IV	7.96	39		○				ヤナギsp. ?	枝の一部	フカフカ状	228
86	IV	7.96	46	△	○				広葉樹	枝		229

表 XI-37 出土木製品類、樹木一覧 (8)

グリッド	層	レベル	長さ(m)	くさね	分岐	断	断	断	断	樹種	部位	備考	番号
42-86	IV	7.90	38	○	○					広葉樹	幹の二分之一		392
86	IV	7.84	70		○	○				ヤナギsp.	幹の二分之一		393
86	V	7.35	60				○				枝	柔らか	230
87	IV	8.03	71		△					ヤチダモ	枝		198
87	IV	7.97	50							クリ		鋸状、板材	加 53
87	IV	8.07	103							ヤナギsp.		鋸状、芯材 }一括出土	加 54
97	IV	7.94	64							ミズキ	幹の枝分かれ部	四分の一割材	加 55
52-04	V	7.97	121								枝	堅い、ツル状に見える、ヤチダモ状の年輪	348
05	V	7.75	68							イチイ ?	枝		394
26	V	7.96	52								根		255
26	V	8.05	44								根		256
27	V	7.88	35								根	} 立ち木の根の部分	257
27	V	7.90	34								根		258
27	V	7.98	54								根		259
66	IV	8.16	63							針葉樹		弓状枝	加 60
67	V	7.86	100				○			広葉樹	根の分岐	やや堅い、くねくね曲がっている	355
75	V	7.81	55	○		△				広葉樹 ?	根曲がりの幹部二分之一	穴(導管 ?)が大きい	353
85	V	7.44	33			○		○		広葉樹	幹		加124
85	V	7.39	66		○	○	○			広葉樹	枝		379
86	V	7.93	46	○	○	△				広葉樹	幹	フカフカ状	354
87	V	8.04	110		△		○			ヤナギsp. ?	幹に接ぐ枝の一部		380
97	V	8.05	46		△		△			広葉樹	枝		360
61-66	IV	8.85	41							ヤチダモ ?	枝	枯状材、一端斜め切断(圓なし)	加 16
98	IV	8.53	65		○					ヤチダモ		棒状、切り込みあり	加 3
99	V	7.46	132		○					クルミ ?	根から幹	柔らか、曲がっている	444
62-04	V		22		○					ミズナラ		ひしゃく状、自然の造形か	加 95
05	V	7.76	28			△				カシワ ?	幹の八分の一	堅い	368
05	V	7.75	37		△					広葉樹	枝		369
06	V		35			○		○		クリ	幹の芯の部分	堅い	加125
06	V	7.75	21	○		△		○		ケヤマハンノキ	幹の一部		加126
06	V	7.34	100		○					ヤナギsp. ?	根基部	柔らか	359
06	V	7.75	37		○	○				ヤチダモ ?	枝		361
06	V		28	△	○					広葉樹	枝		362
06	V	7.59	104			○	○			広葉樹			381
06	V	7.32	48		△		○			広葉樹	枝		382
06	V	7.10	40							広葉樹			390
06	V	7.22	35	○	○			○		広葉樹	幹		加127
07	V	7.48	58		△	△				広葉樹		緻密、一部コブあり、やや柔らか	387
15	V	7.75	30	○	○					広葉樹			370
16	V	7.53	133			△				ミズナラ	根の可能性大	二股、堅い	364
16	V		81		○	△				ヤチダモ ?	枝		365
16	V	7.52	44	○		○				広葉樹	枝		367
16	V	7.74	41				△			広葉樹	枝		371
17	V	7.83	53	○	△	○				ヤチダモ	幹の枝分かれ部	腐れ部分が摩耗してなくなっている	366
24	V		22				○			カバノキsp.	樹皮		加 68
26	V	7.52	103		△					広葉樹	二股の枝	やや堅い	363
26	V	7.45	35	△	○		△			広葉樹	幹		372
27	V	7.60	43							ミズナラ ?		偏平割材、加工痕不明瞭	加 75
27	V	7.40	96		○						枝	柔らか	389
32	V	7.35	103	○	○	△				ハルニレ ?	幹		397
36	V	7.46	52	△	△	○				広葉樹 ?	幹の二分之一	芯が抜けている	373
36	V	7.65	50	△						広葉樹 ?	幹	両端折れ	374
36	V	7.72	59		△	○				広葉樹	枝		375
36	V	7.70	80			○				ミズナラ			376
36	V	7.68	113		○	○	○			広葉樹		やや柔らか	378

表 XI-39 出土木製品類, 樹木一覧 (9)

列	層	レベル	長(α)	くさ	分	彫	彫	樹 種	部 位	備 考	番号
72-45	V	7.45	187		△		△	ハルニレかヤチダモ?	枝	先が二股	451
52	V	7.77	45		△	○		広葉樹	枝	緻密、やや堅い	461
53	V	7.69	60	△	○	○	△	広葉樹?	根基部		448
53	V		15		△	○		ヤチダモ?	枝の一部		464
53	V	7.60	47		△	○		ミズナラ	幹	堅い	466
53	V		52	○	○			広葉樹	幹の四分之		467
53	V	7.41	139								485
53	V	7.71	40	△				ヤチダモ	枝	フカフカ状	489
54	V	7.54	50	○	○			広葉樹	幹の一部	フカフカ状	452
54	V	7.54	60	△	○	○		広葉樹	根?	やや扁平	465
54	V	7.43	39	○	○			広葉樹	幹?	フカフカ状	481
54	V	7.59	34	○	○		△	広葉樹		フカフカ状	483
54	V	7.70	44	△	○	△	△	ヤナギsp.?	二股になった根の一部		484
54	V	7.62	38	○	○	○		広葉樹	幹の二分の	やや年輪がはっきりしている。フカフカ状	487
54	V	7.81	72		○		○	サクラ?	根基部		488
55	V	7.46	120	○	○			広葉樹	幹		468
62	V	7.40	48	△		○		針葉樹?	枝		457
62	V	7.39	68	○	○	○		ヤチダモ			491
62	V	7.36	68	○	○	○		オニグルミ?	幹の二分の	四つに折れ	492
62	V	7.37	35	△	○	○		広葉樹	幹、二股部分		493
63	V	7.76	11							板材	加 73
63	V	7.65	37		△	○		ミズナラ	枝	板材、年輪に沿って剥けたよう	加 96
63	V	7.74	61	○	○			ヤナギsp.?	幹(根?)	柔らか、濡っている	456
63	V	7.57	47			○	△	広葉樹	根?	緻密	458
63	V	7.57	21	△	○	○		広葉樹			460
63	V	7.80	36	○	○	○		イタヤ?	幹		478
63	V	7.52	27				○		根の一部	分岐している	480
63	V	7.50	106	○	○			広葉樹	幹?	フカフカ状	486
63	V	7.51	46	△	○	○		広葉樹	枝		490
63	V	7.40	45	○	○	○		ヤチダモ?	幹の一部	分岐深く、崩れてしまう	494
63	V	7.41	55	○	○	△		広葉樹	枝		495
64	V	7.61	60	○	○						462
64	V	7.70	26	○	○	○		広葉樹			463
64	V	7.69	37	○	○			広葉樹?	枝	フカフカ状	482
65	V	7.50	40	△			△	○	ハンノキ	土丘で扁平	加130
65	V	7.50	43		○	○		広葉樹?	根基部	柔らか	459
65	V	7.54	96	△	○	○		広葉樹	幹		474
65	V	7.53	40	△	○			ヤナギsp.	枝分かれ付きの枝		477
70	V	7.36	112		○	△		ミズナラ	幹		499
73	V	7.48	43		○		△	広葉樹			496
73	V	7.46	41	△	○	○	△	広葉樹	枝	扁平化	497
74	V	7.60	112	○				ヤチダモ	幹の一片	やや堅い	469
74	V	7.69	78		○	○	○	広葉樹		緻密、キツツキ穴でスカスカ	470
74	V	7.70	64		○	○	△	ヤナギsp.?	枝		471
75	V	7.52	36			○	△	クリ?	枝		472
75	V	7.57	36			○		広葉樹	枝?	やや緻密	473
75	V	7.55	30	○	○			広葉樹	枝	フカフカ状	475
75	V	7.57	41	△	○			ヤナギsp.?	枝	三つに折れ	476
トレンチ	—		11					広葉樹		板材、板目	加101
81-06	IV	8.77	22					ヤチダモ		板状材、一端斜め切断	加 7
82-06	VII	7.30	32					広葉樹		板材、剥落片か	加103
36	VII	7.36	30		○			ハルニレ	枝	フカフカ状	加104
地点不明			140	○	○			ヤナギsp.?	二股の枝	柔らか	319
地点不明			180				○	ミズナラ	枝		419
地点不明			76		○	○		ハンノキ?	枝	柔らか、スカスカ状	421
地点不明	掘削		36							舟型木製品	—

表 XI-38 出土木製品類、樹木一覧 (10)

列	層	レベル	長さ(m)	くさね	分岐	腐朽	節	樹種	部	位	備考	番号
62-36	V	7.25	80	○	○			ヤナギsp.?			曲がり	383
37	V	7.69	24	△	○	△			幹			377
41	V	8.21	169	△			△	ハルニレ	幹		やや堅い	398
41	V	7.86	75		○	○		広葉樹	根曲がり部?			429
51	V	7.76	100		○			広葉樹			両端分岐してから折れている	399
51	V	8.16	114				○	ヤチダモ?	枝			400
51	V	7.87	126	△	○	○		広葉樹	幹			428
53	V		51	○	○	○		広葉樹	根曲がり部			426
53	V		52			○	○	△	ハンノキ?	根に近い幹の二分之一		加128
61	V	7.87	52		○			広葉樹			偏割材、一端に加工痕、フカフカ状	加 74
61	V	8.20	59	△			△	△	広葉樹	枝	緻密、堅い	加129
62	V		48	○	○	△		広葉樹	幹の二分之一			432
63	V	7.51	270		○			ヤナギsp.?	太い幹		柔らか	384
63	V		35	○	○	△		広葉樹	幹		フカフカ状	425
63	V		114	△	○	○		広葉樹?	幹		柔らか、曲がり	430
63	V		74		○	○		針葉樹?	幹			433
64	V	7.39	146	△				カツラ	根基部、幹の二分之一			402
64	V		63	○	○	○		広葉樹	枝		緻密	438
64	V	7.55	52		○	○		広葉樹	根株の一部			443
65	V		57		○			ハンノキ			偏割材、加工痕不明瞭、フカフカ状	加 76
65	V		41		○			トドマツ?			偏割材、フカフカ状	加 77
65	V		90			○		ハルニレ				410
65	V		87	△		○		広葉樹	枝		緻密	439
70	IV		24					針葉樹			両側縁に挟り込み(人形状)	加 98
73	V		92						曲がった枝		緻密、堅い	422
73	V	7.85	57	○	○	○		ハルニレ			フカフカ状	423
74	V	7.24	84	○	○			ハルニレ			フカフカ状、両端丸く減っている	404
74	V	7.88	44	○	○	○		広葉樹	幹			424
74	V	7.86	42									431
75	V	7.63	42	○	○			広葉樹			板材、板目、加工痕不明瞭	加 99
75	V	7.68	67		○			ヤナギsp.	枝の一部			403
75	V	7.28	98		△			針葉樹	幹の二分之一		両端丸い	405
75	V	7.64	103		○	△		広葉樹	枝?			406
75	V	7.80	52	△	○		△	広葉樹	枝			407
75	V	7.84	82					クルミかハルニレ?	根基部		やや堅い	408
75	V		50	○	○		△	広葉樹	根基部		緻密	437
75	V		47	○	○	○		ハルニレ	幹			442
75	VI	7.60	40					広葉樹			板材、まな板状、板目	加 89
96	V	7.25	37		○			ヤナギsp.			柔らか	411
96	V	7.14	61	○	○			ヤナギsp.?			フカフカ状	412
71-26	IV		17		○			ヤチダモ			棒状	加 85
35	IV	8.26	85				○				炭化材	加 38
47	IV	8.50	21					トドマツ			板材、一面滑らか	加 4
47	IV	8.50	6					針葉樹			板材、剥落片か?	加 5
47	IV	8.50	18					ミズナラ			扇状偏割材、一面に原材面を残す	加 6
48	V	7.94	135						枝		一端近くに鋭利な切り込み	加 58
55	IV	8.20	26					広葉樹	枝		板状材? 一端斜め切断	加 45
88	III	8.82	60	△		○		針葉樹?	根曲がり部 幹		大きく湾曲、材の芯部	498
72-20	III	8.18	103			○	?	広葉樹	幹の一部?		割けたように凹凸になっている	445
23	III	8.30	78		○		○	ヤチダモ	細い枝束			446
33	III		51	○	△	○			枝		年輪がはっきりしている	447
44	V	7.76	68	○	○	○		ハンノキ?	枝		穴があいている、キツツキ類の穿った穴か	加105
44	V	7.58	230	○	○			ヤナギsp.?	幹の二分之一		フカフカ状、ぼろぼろになっている	449
44	V	7.54	250	○	○			ヤナギsp.?	幹		フカフカ状、ぼろぼろになっている	450
44	V	7.62	67	△	○	○			幹		フカフカ状	455

7 ま と め

今回の調査は道路工事に伴うものであるため、調査区自体が段丘の縁に沿った線状で、しかも大半が攪乱を受けていた。従って、確認し得たのは忍路5遺跡のごく一部分に過ぎない。しかし、この地点において少なくとも縄文時代中期から現代まで、綿々と人類の営みが続けられていることは確かである。殊に縄文時代晩期と続縄文時代恵山期の資料を確認したことは、種吉沢川の上手にあたる忍路土場遺跡（縄文時代後期の縄濶式が主体）と、下手にあたるチブタシナイ遺跡（続縄文時代の後北C₂・D期から擦文時代前期が主体）などをつなぐ遺跡の立地という観点からも、意義深いものがあるといえよう。

今回の調査区は大きく三つの地点に分かれている。一つは00区から51, 52区にかけての標高10mを超える段丘面である。この地点は土器の項でも触れたとおり、水田造成および畑の耕作により全体が攪乱されているが、出土した土器は全て縄文時代晩期のもので、本来は該期の包含層が存在していたことを示している。

二地点目は、81区から11・1区にみられる標高9～10mにあたる低位の段丘面である。81区の部分は残念ながら耕作のために包含層が失われていたが、10・1区、11・1区にかけては良好に残されており、遺構を確認することができた。3基の小ピットは、いずれも遺物を伴っていないため時期の特定は困難であるが、周辺の遺物出土状況からして縄文時代晩期から続縄文時代恵山期の間に帰属するものと考えられる。また、剥片集中地点についても同様時期の資料と思われる。

三地点目が標高9 m未満の低地部分である。この部分は更に西湾（21区～42区）と東湾（61区～11・2区）とに分かれている。西湾は、蘭島川の河川堆積物と思われるⅢ層とⅤ層とによって攪乱されており、その間に流れ込みの黒色土がみられる。遺物は縄文時代後期を中心に縄文時代中期から近・現代までのものがほとんど混在して出土している。東湾では、72区、82区を中心にⅤ層の下位に種吉沢川の運搬堆積物と思われるⅦ層がみられる。本層は前述した崩落事故のために全容を捉えきれないが、後代のⅢ層とⅤ層による攪乱を受けておらず、比較的安定した状態で発掘区の北側に広がっているものと思われる。なお、層序の項でも述べたようにⅦa層は忍路土場遺跡C地区のⅣ層に相当するものと考えている。

低地部分の遺物分布状態をみると、Ⅶ層では出土範囲は62区から82区に限られ、時期的には縄文時代中期の円筒上層式d併行のものと天神山式、同後期の縄濶式が出土している。Ⅵ・Ⅴ層では、62区から82区に集中する傾向があり、縄文時代中期から近・現代までのものが混在してみられる。これに対しⅣ・Ⅱ層では、61区、62区に集中する傾向がある。すなわち、本来低位の段丘上に存在した包含層が、河川の氾濫などの影響によって押し流され、62区から82区にかけて溜ったものと思われる。

木製品類および自然木は総計で551点が出土している。木製品の項で記したように、C¹⁴年代を測定した2点は、いずれも明治、大正期のものではないかとの中間報告が出されている。したがって、他の木製品類および自然木も、開拓期の遺物である可能性が強い。

樹種別の用途を表40に示した。図番3の鋤状木製品はクリ材であるが、「日本の遺跡出土木製品総覧」（島地・伊東1988）によれば、えぶり、鋤、鋤などに用いられている樹種は、大半がブナ科のもので、中でもコナラ属アカガシ亜属が88.1%を占めている。北海道の場合アカガシ亜属のイチイガシ、アカガシなどは自生していないため、材の特徴（重く極めて堅い）が似通っているブナ科のクリ材が選ばれたものであろう。図番4の柄は、ヤナギ科の材を用いている。前出書によれば、柄の材は極めて雑多であるが、人々の身近にあって、軽軟で、折れやすくても柔軟なものが選ばれており、本地点でもっとも普通にみられるヤナギ科の材が柄として用いられているのも自然な選択といえよう。ただ、道

内の開拓期の資料にはこうした形態の農具は知られておらず、現時点では鋤と即断することはできない。

板材は、木製品の項で述べたようにヤチダモ、ミズナラを主に利用している。これらの板材の多くは建築材の一部と考えられるが、図番24・25のように作業台的に使用したと思われる例もある。なお、板材としたものの中には、より古い時期の資料が含まれている可能性がある。

弓状枝は、猟具としての弓とは考えられないが、こうした湾曲をもつものは2例だけである。

縦割材は16点出土しているが、ヤチダモとミズナラが各3点あるほかは、いずれも樹種が異なっており、特に樹種を選択しているとは思われない。図番32は鋤状木製品と一括で出土した資料であるが、樹種はミズキであり、この樹種は他には出土していない。

杭状材は41点で、縦割材同様に樹種を選択している様子はない。切断方法の差異は、対象の太さによるものであろう。これらの大半は利用材と考えるより、枝払いをされて低地部分に投げ込まれたものと思われる。

表Ⅺ-40 出土木製品類、樹木樹種別用途一覧

種 名	木製品	板材	弓状枝	縦割材	杭状材	炭化材	その他加工材	自然木	計
エゾニワトコ								1	1
ヤチダモ		10		3	3		2	29	47
ハリギリ		1		1				1	3
ミズキ				1					1
シナノキ					1				1
イタヤカエデ				1				3	4
ヤマウルシ							1		1
キハダ					2				2
イヌエンジュ					1		1		2
エゾヤマザクラ				1	1			3	5
ナナカマド								1	1
アズキナシ								1	1
ノリウツギ								2	2
ツルアジサイ								1	1
カツラ								1	1
ホウノキ				1					1
ヤマグワ							1		1
ハルニレ				1	3		1	21	26
オヒョウ						1			1
カシワ								2	2
ミズナラ	1	5		3	2	2	1	13	27
クリ	1					1		1	3
カバノキ sp.							1	3	4
ハンノキ				1	6	4	1	2	14
ケヤマハンノキ					3	1	1		5
ヤナギ sp.	1			1	9	1	3	42	57
オニグルミ					1			8	9
エゾマツ	1							1	2
トドマツ		3		1	1			1	6
イチイ								1	1
広葉樹		5		1	5	9		120	140
針葉樹	1	1	2				1	6	11
不明	1	5			3	1	1	157	168
計	6	30	2	16	41	20	15	421	551

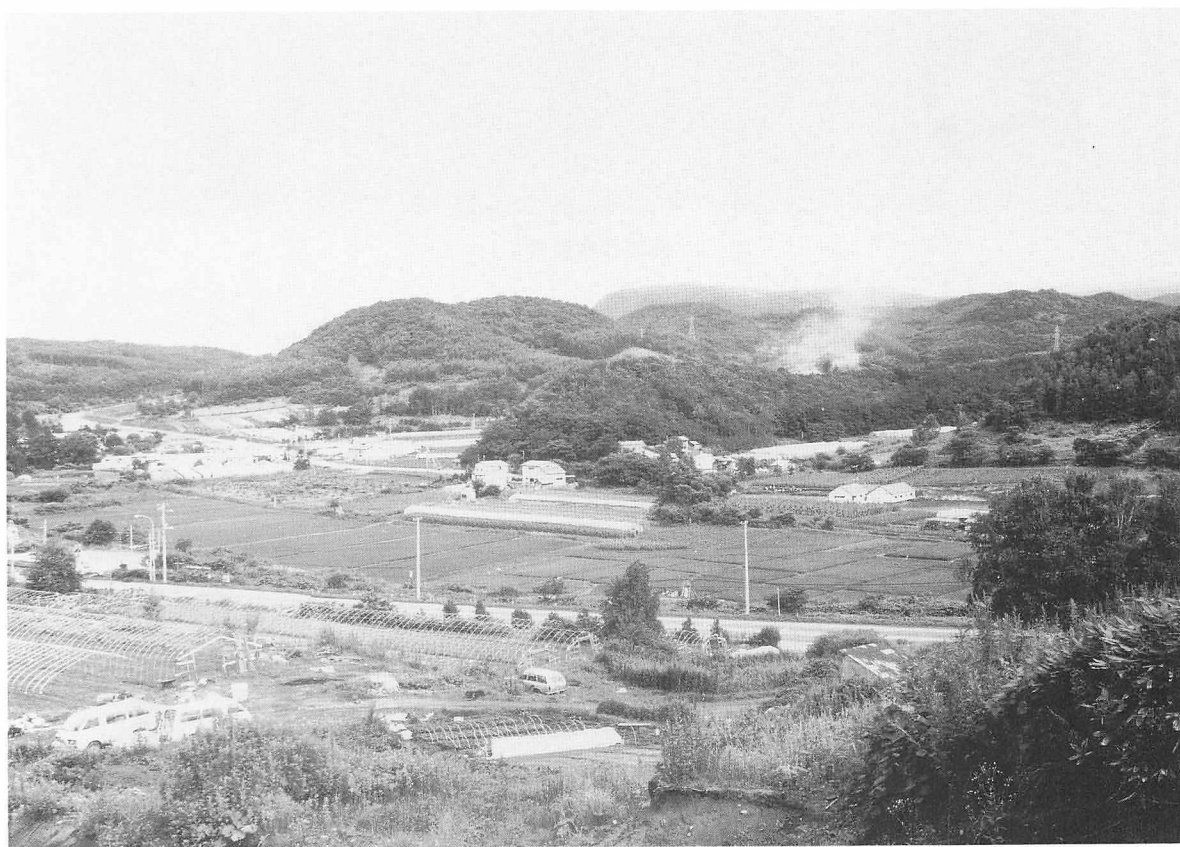
引用参考文献

- 石狩町教育委員会 1975 『Wakkaoi』
- 岡村道雄 1976 「ピエス・エスキューについて」『東北考古学の諸問題』
- 小樽市博物館 編 1986 『蘭島餅屋沢遺跡 蘭島遺跡発掘調査概報』
- 小樽市博物館 編 1987 『チブタシナイ遺跡発掘調査概報』
- 小樽市博物館 編 1988 『蘭島遺跡 チブタシナイ遺跡発掘調査概報』
- 兼康保明 1983 「機能よりみた木器研究における二・三の研究ノート」『『滋賀県埋蔵文化財センター』
- 北村四郎、村田源 1984 a 『原色日本植物図鑑 木本編 I』
- 北村四郎、村田源 1984 b 『原色日本植物図鑑 木本編 II』
- 木下忠 1982 「弥生時代の農耕具と民俗資料」『どるめん10』
- 後藤秀一 1985 「縄文時代における剥片生産について—接合資料を中心として—」『太平史窓第四号』
- 佐原真 1977 「石斧論 —横斧から縦斧へ—」『考古論集 —松崎寿和先生六十三歳論文集』
- 1982 「石斧再論」『森貞次郎博士古稀記念 古文化論集 上巻』
- 島地謙、伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』
- 米原町教育委員会 1987 『入江内湖遺跡発掘調査報告書』
- 米原町教育委員会 1988 『入江内湖遺跡(行司地区)発掘調査報告書』
- 宮部金吾、工藤祐舜、須崎忠助 1986 『北海道主要樹木図譜』
- 北海道開発庁 1954 『5万分の1地質図幅説明書 小樽西部』
- 山田昌久 1983 「木製品」『縄文文化の研究 7 道具と技術』
- 渡辺誠 1980 「飛騨白川村のトチムキ石」『藤井祐介君追悼記念考古学論叢』
- 1981 「編み物用錘具としての自然石の研究」『名古屋大学文学部研究論集 LXXX』
- 1987 「ドングリ食について」『長野市立博物館考古学講座講演録』

第Ⅺ章 写 真 图 版



地鎮山ストーンサークルから見た遺跡



北側丘陵から見た遺跡群



72区東西方向土層断面



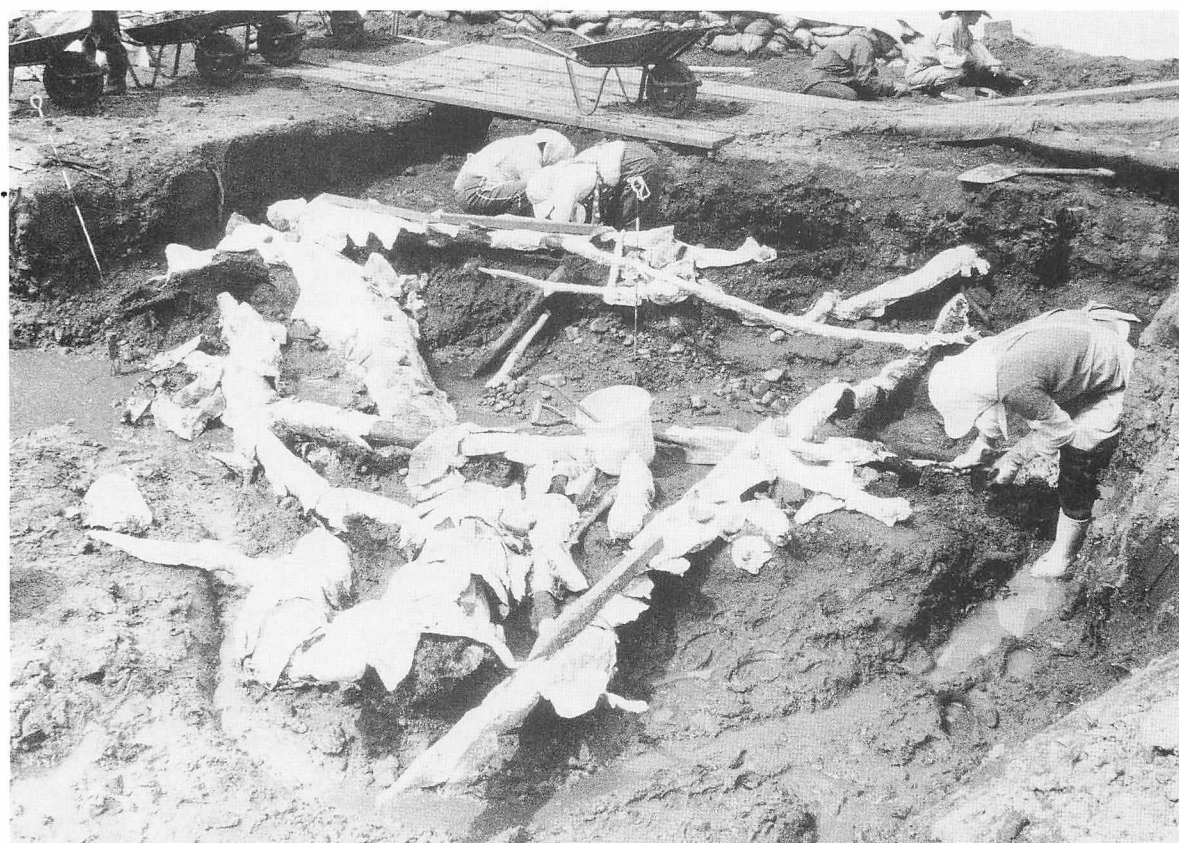
西湾作業風景



排水溝掘開作業



西湾木製品等出土状況



木の乾燥を防ぐ作業（アルミホイルを巻きつける）

木製品(No.15)
出土状況



木製品(No.53～55)
出土状況

板材(No.39～41)
出土状況





土嚢積作業



台風による
冠水状況



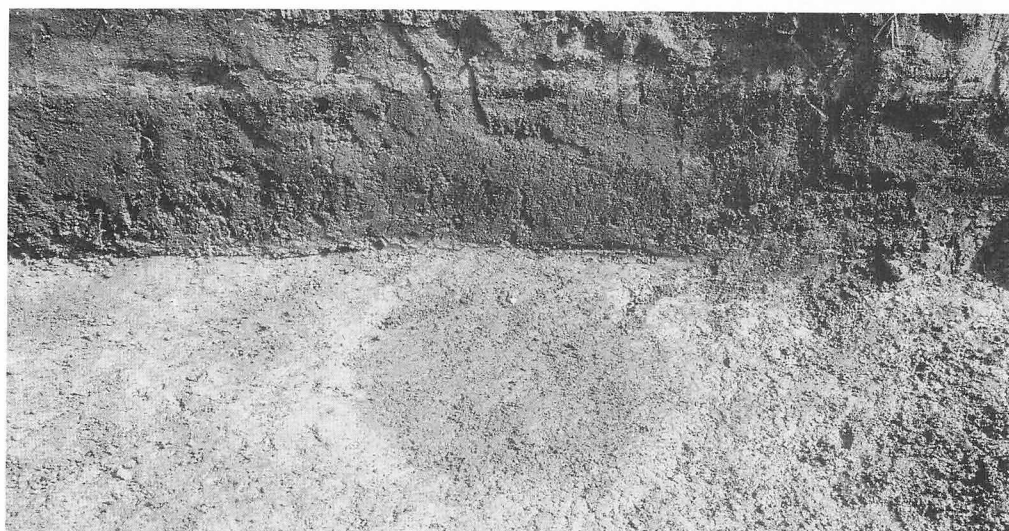
西湾完掘状況



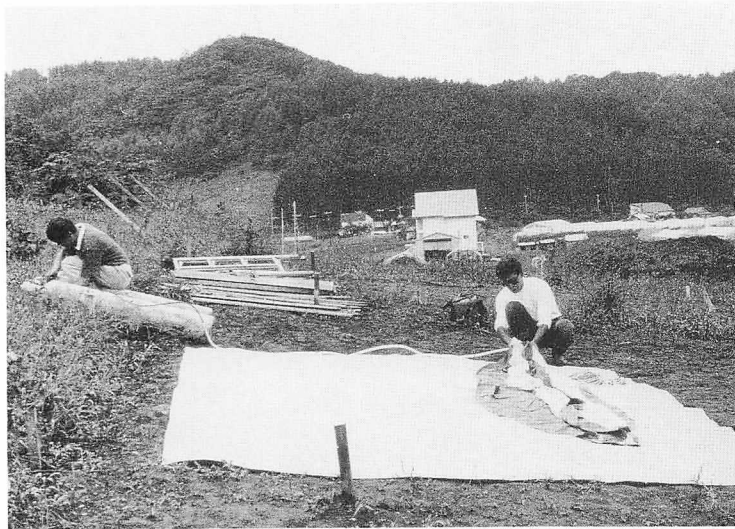
東湾作業風景



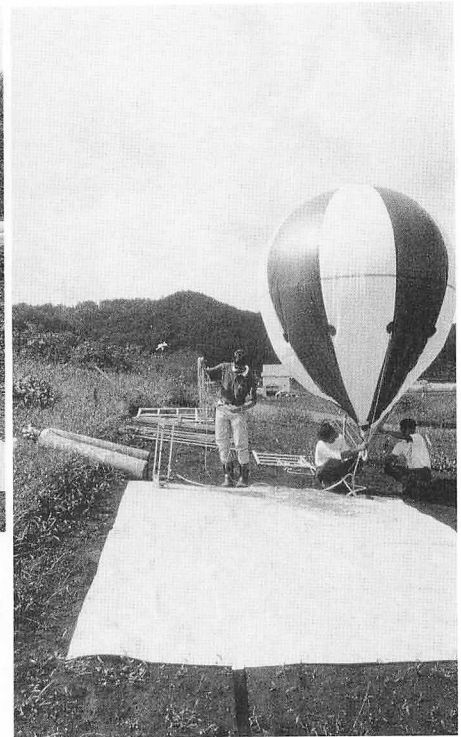
剥片集中地点
調査風景



Pit 検出状況



ヘリウムガスの注入

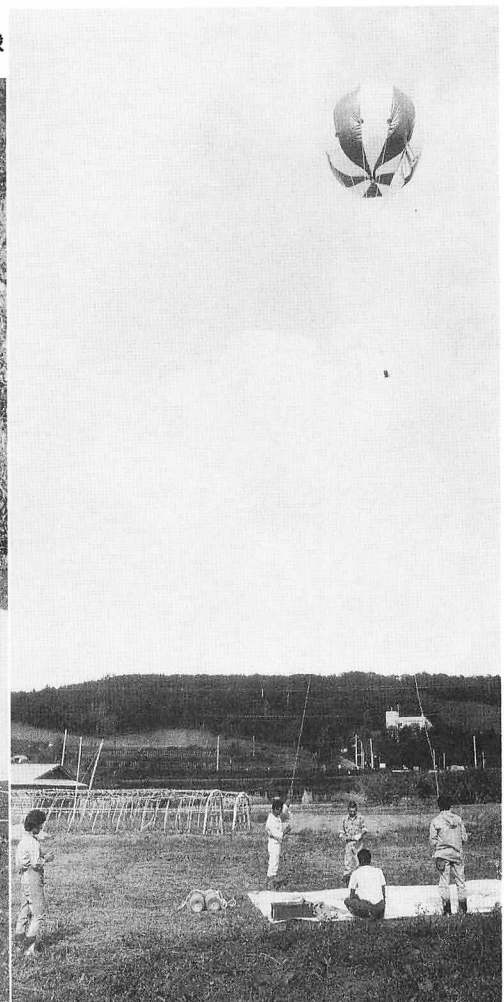


立上り

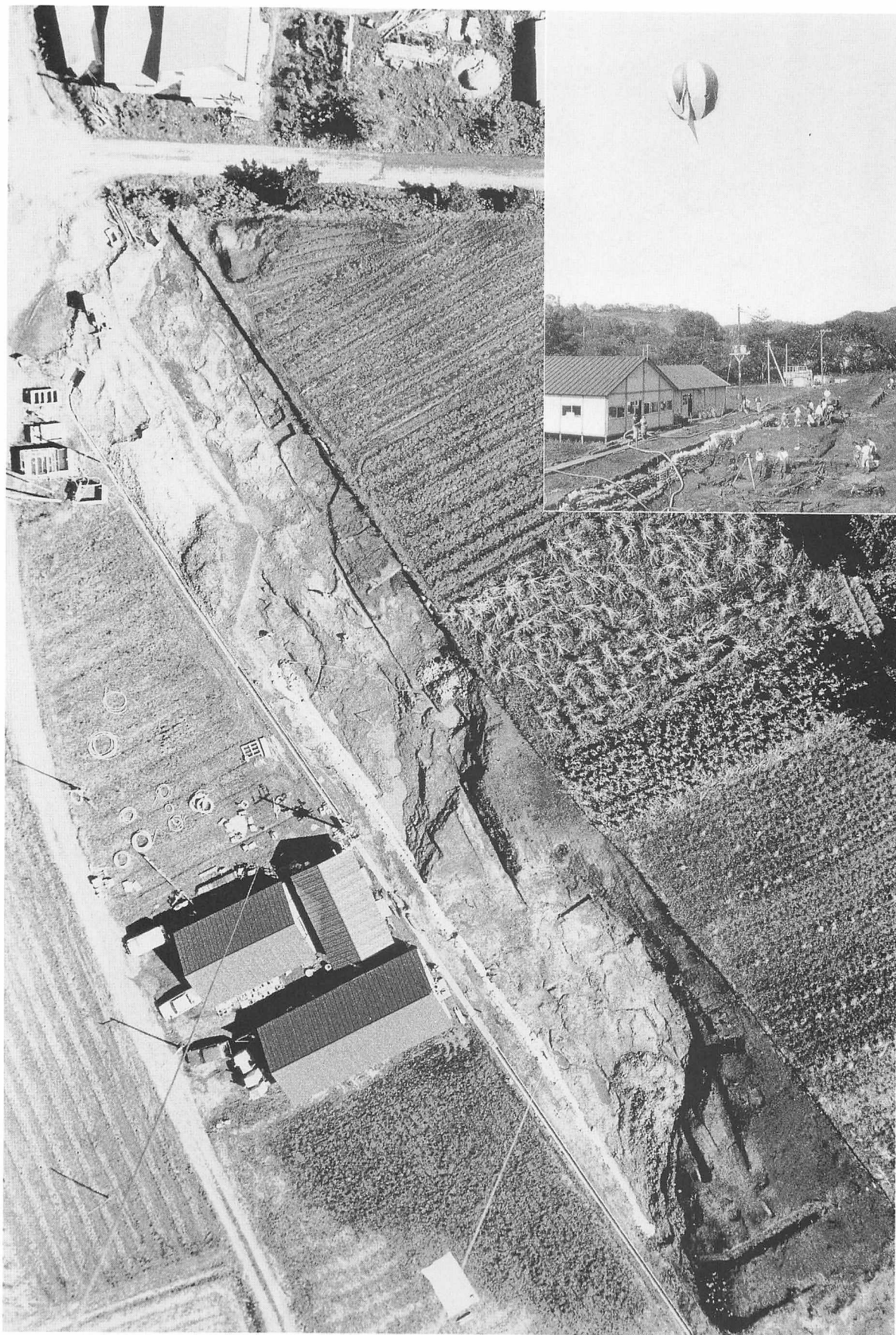
カメラのセット



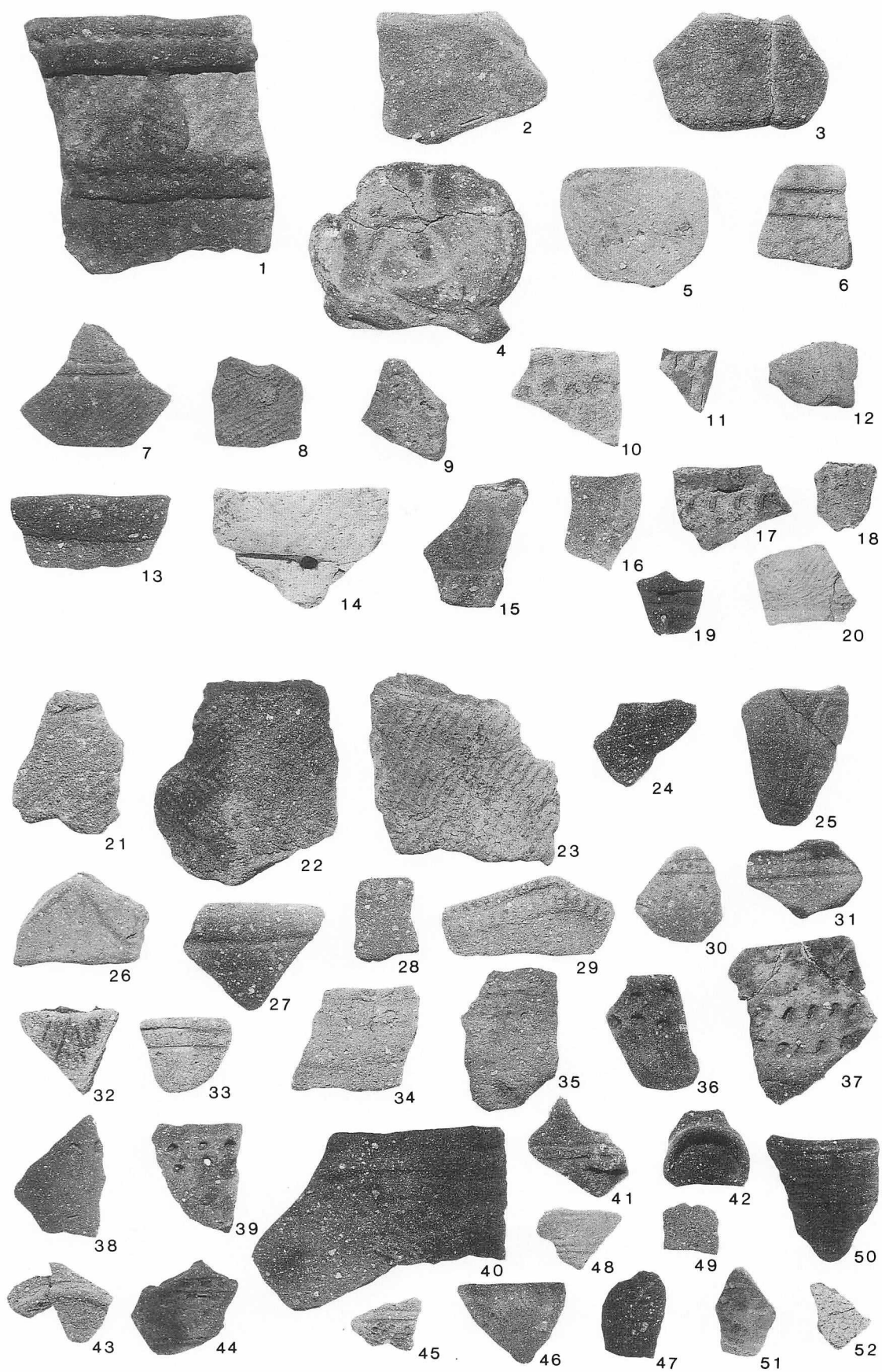
上昇中の気球



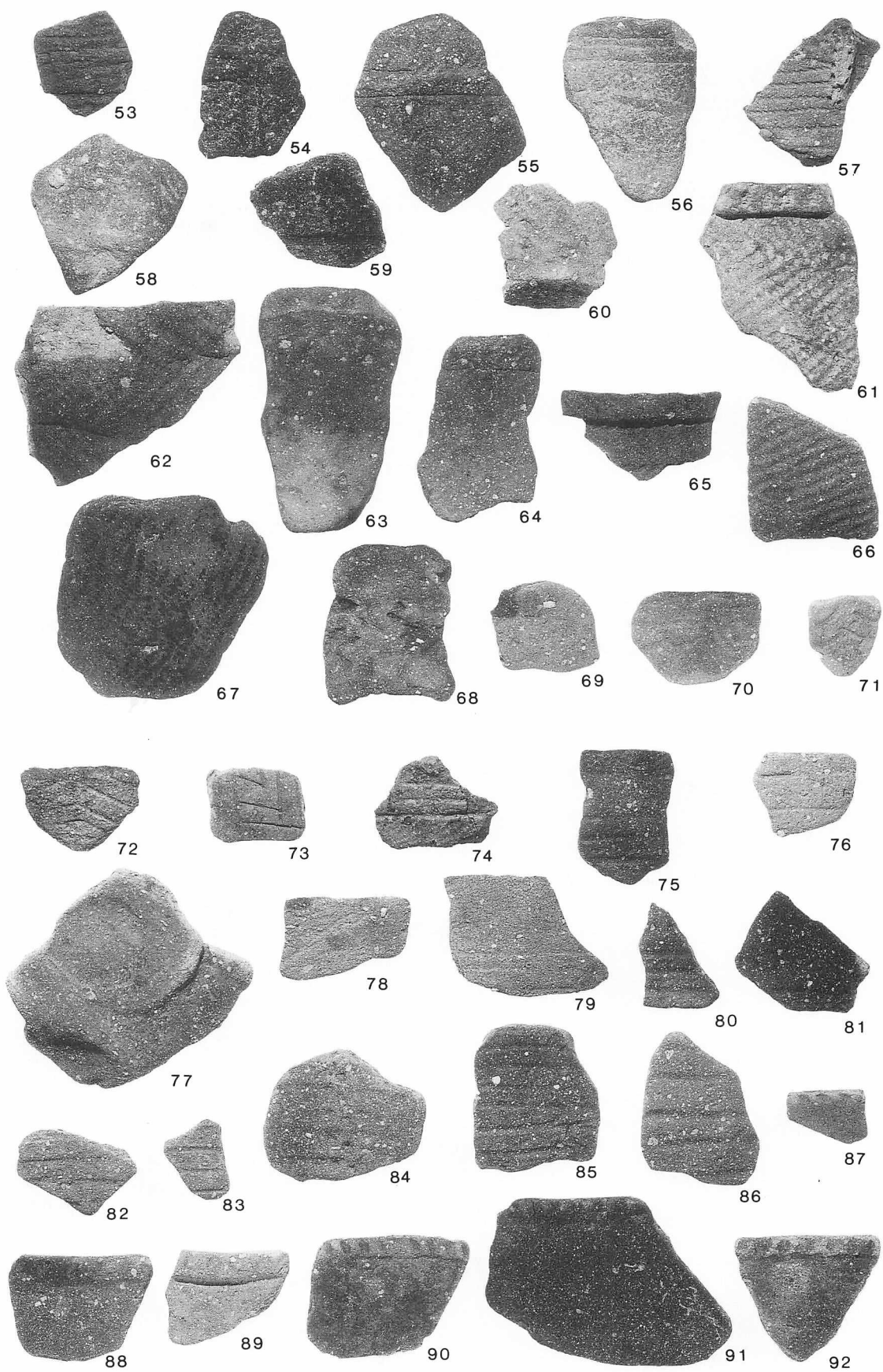
気球写真撮影作業



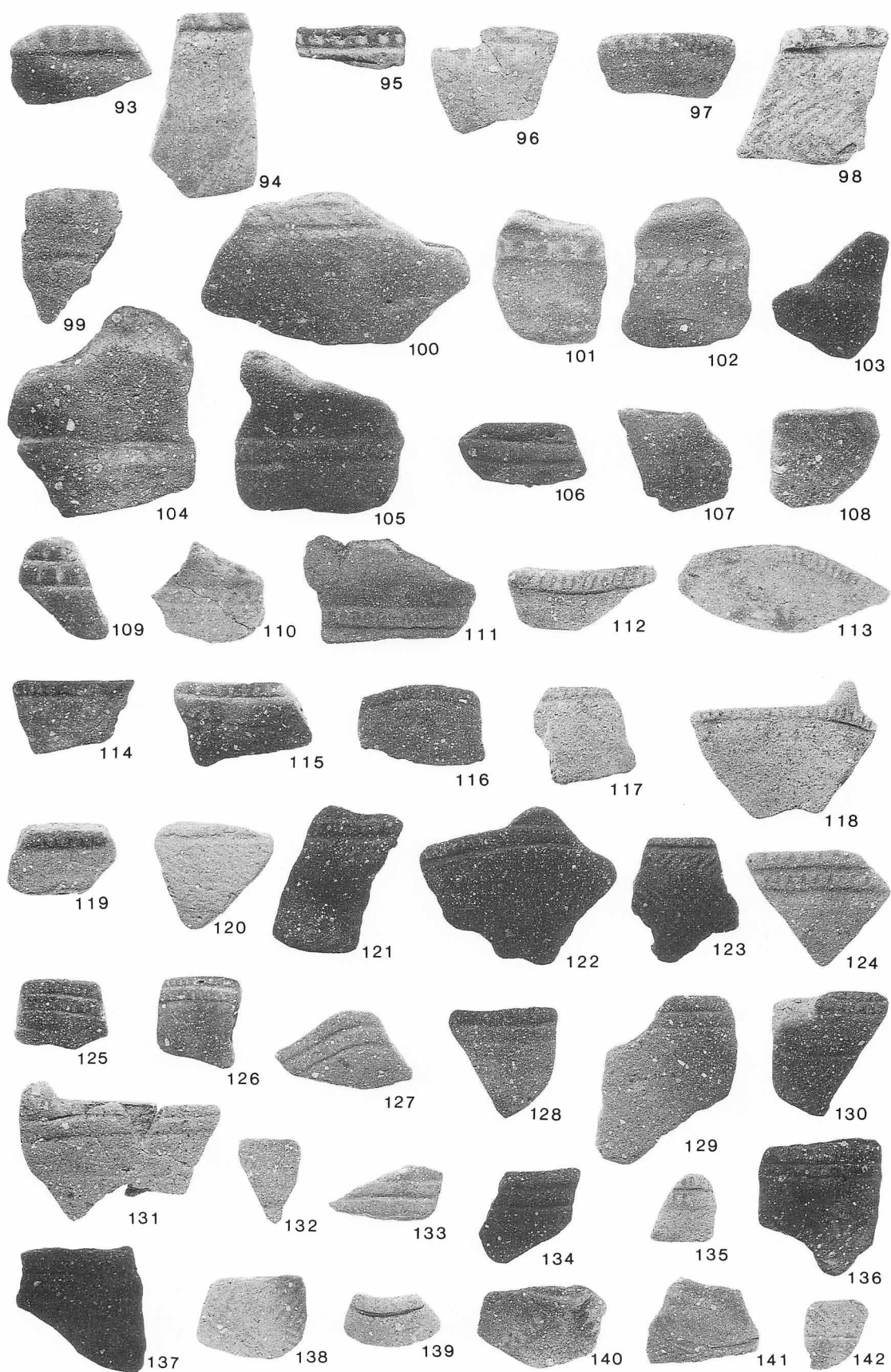
完掘状況（気球写真）



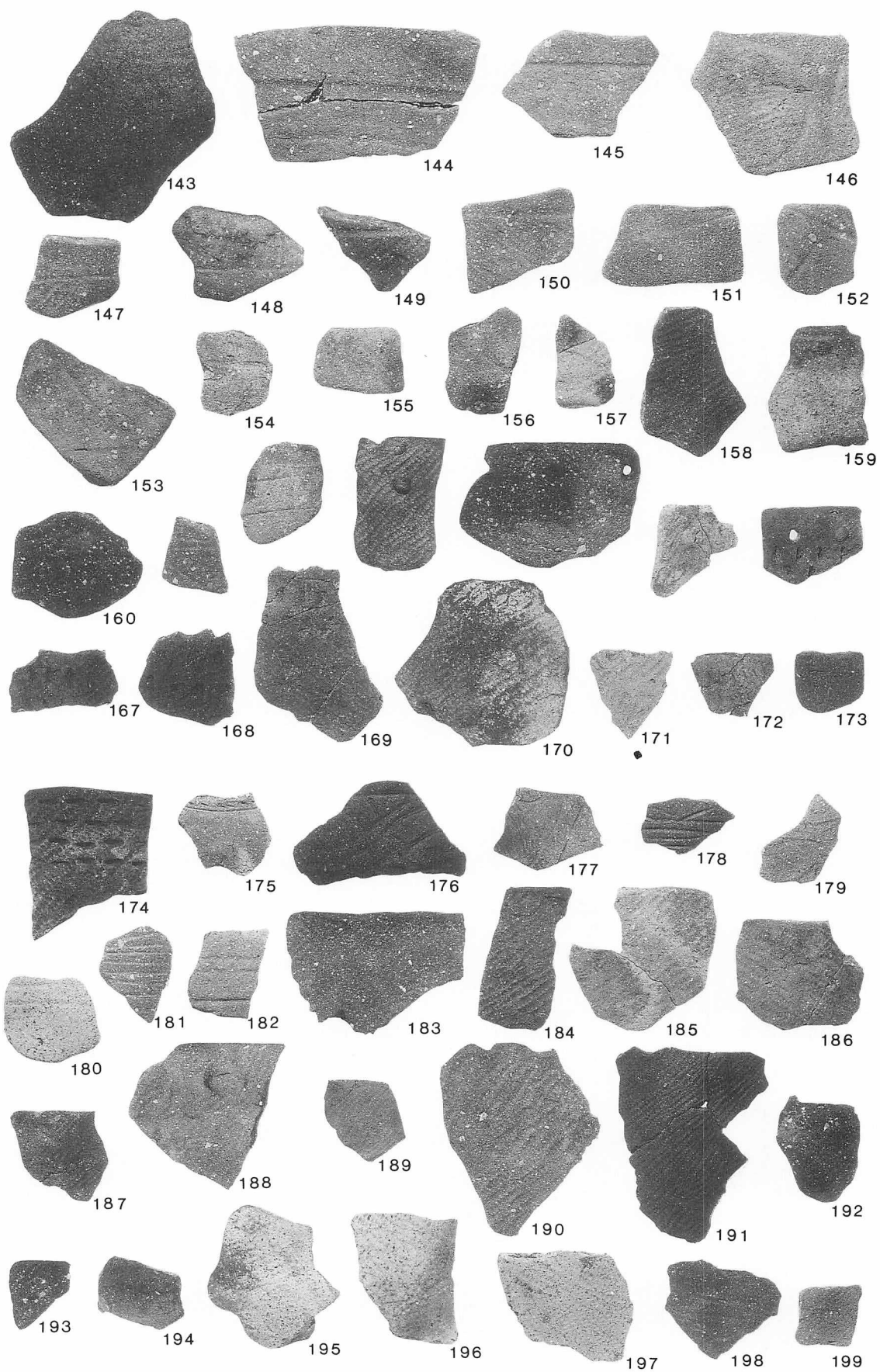
出土土器 (1)



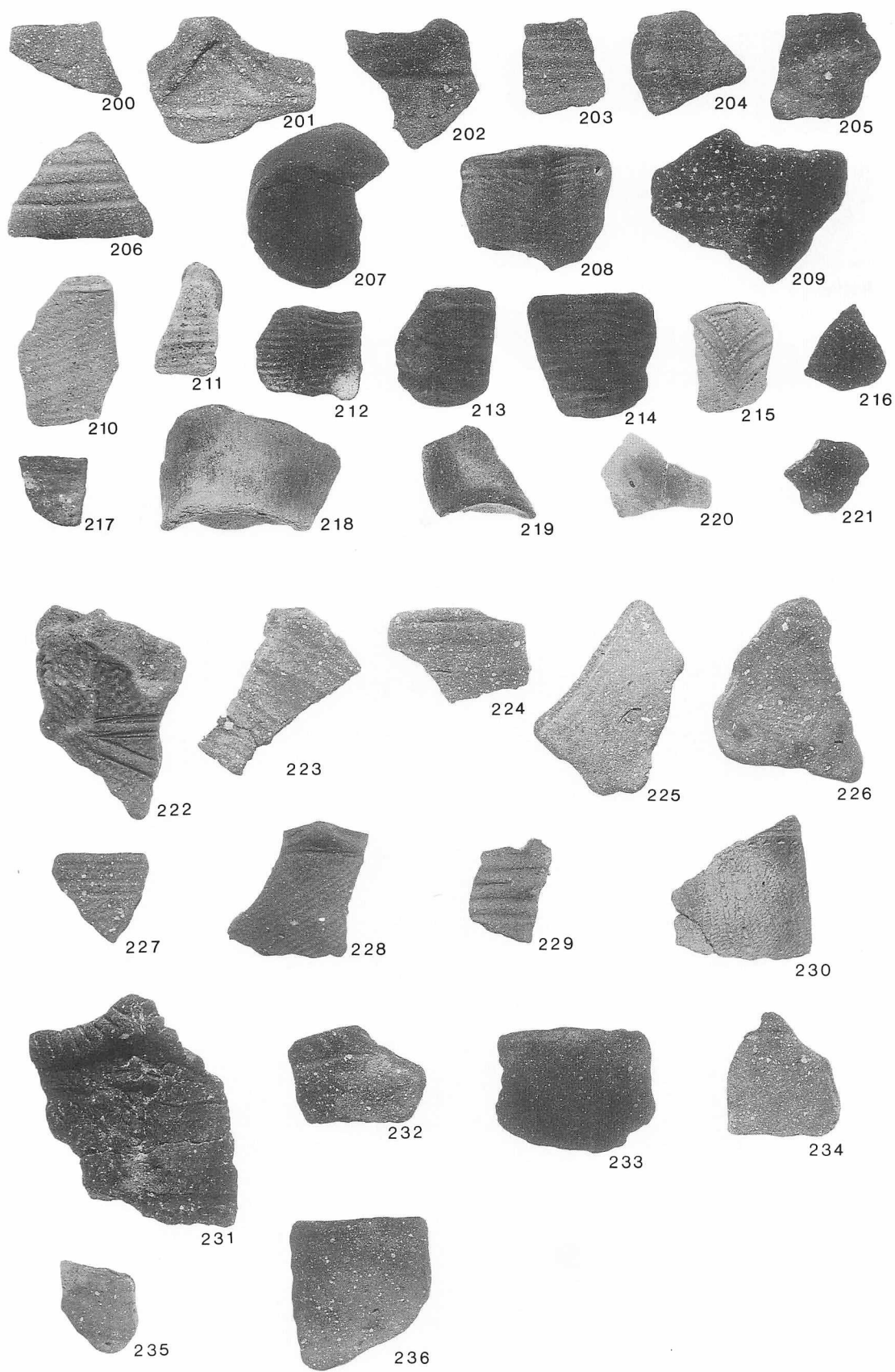
出土土器 (2)



出土土器 (3)



出土土器 (4)



出土土器 (5)

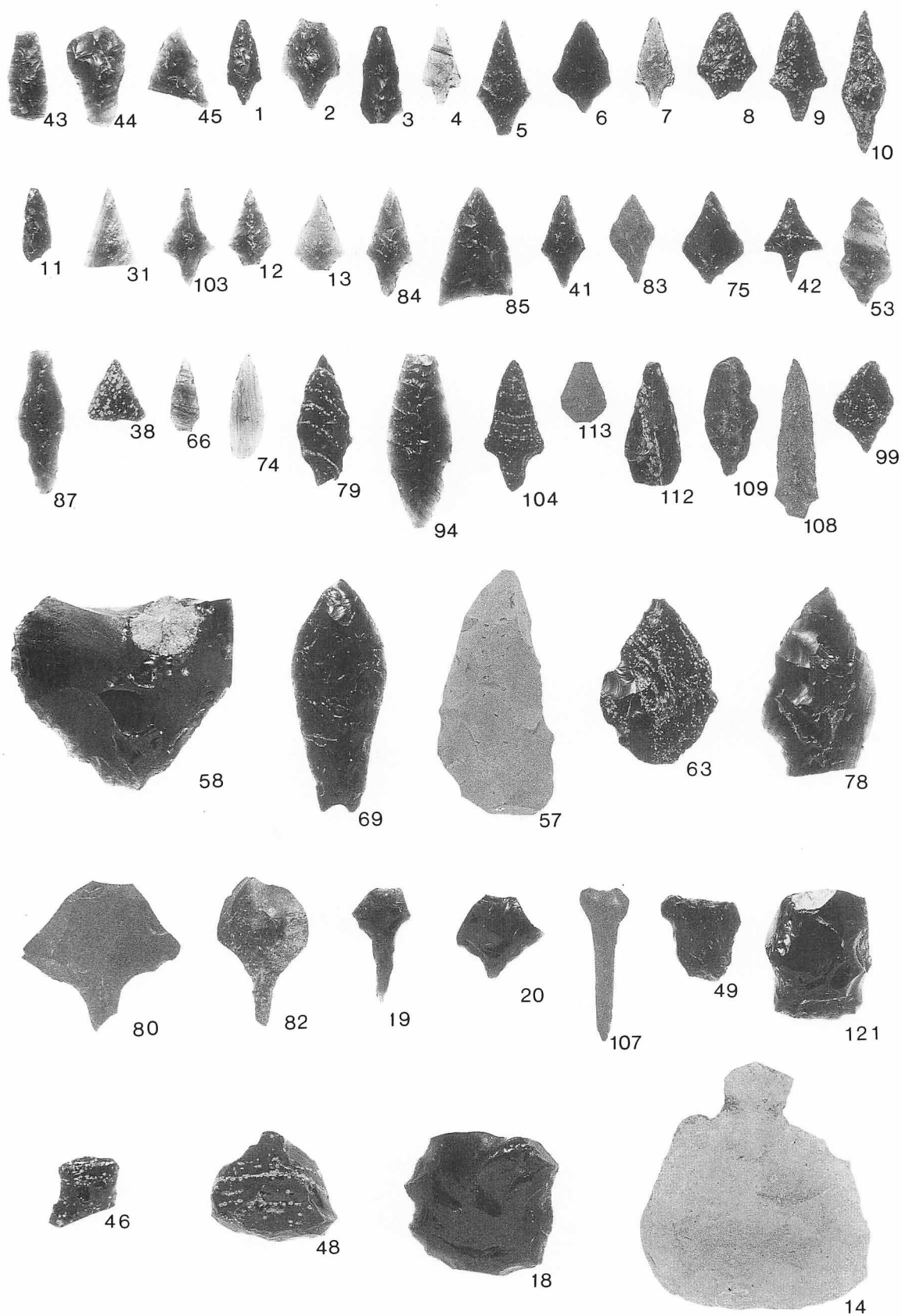


1

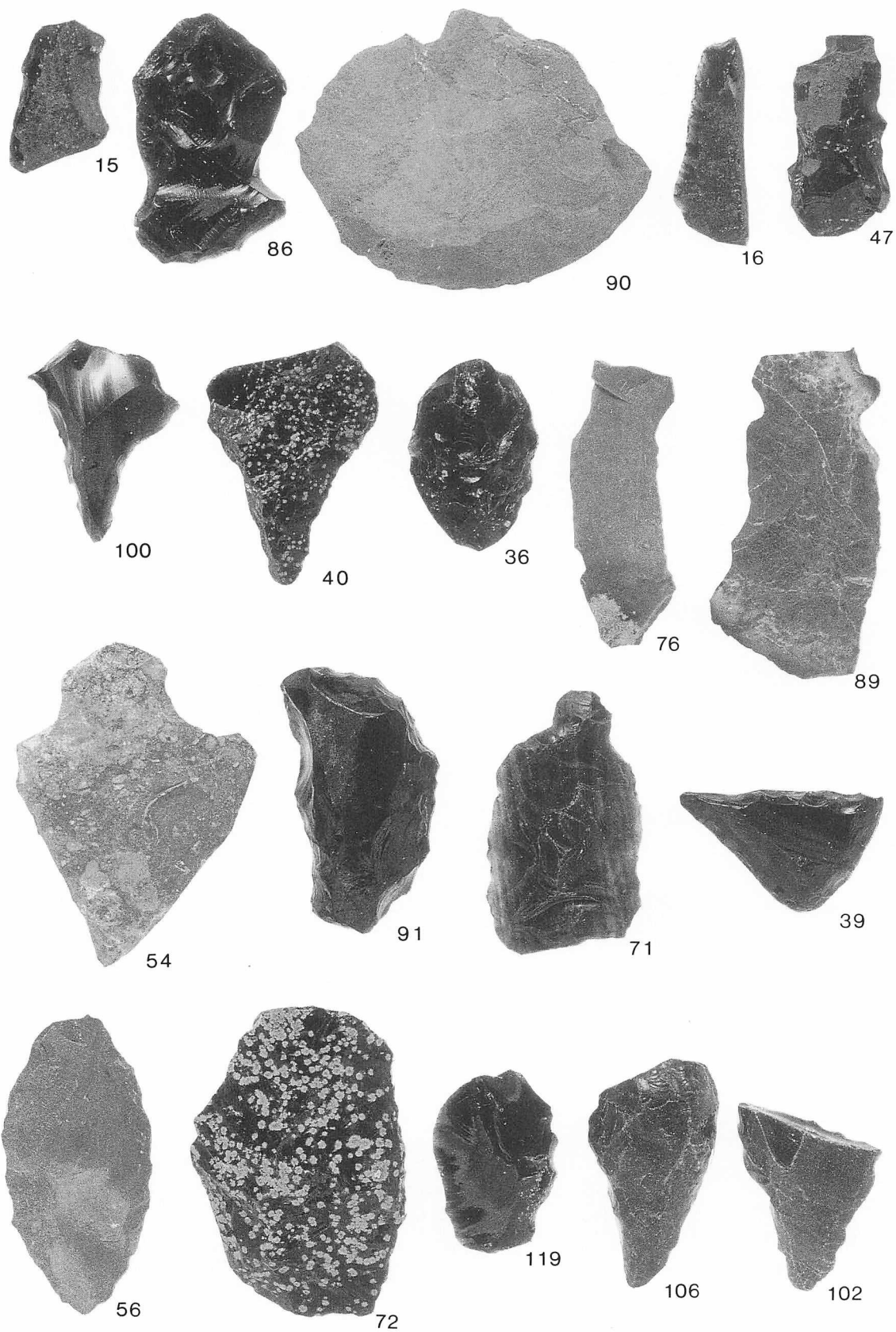


2

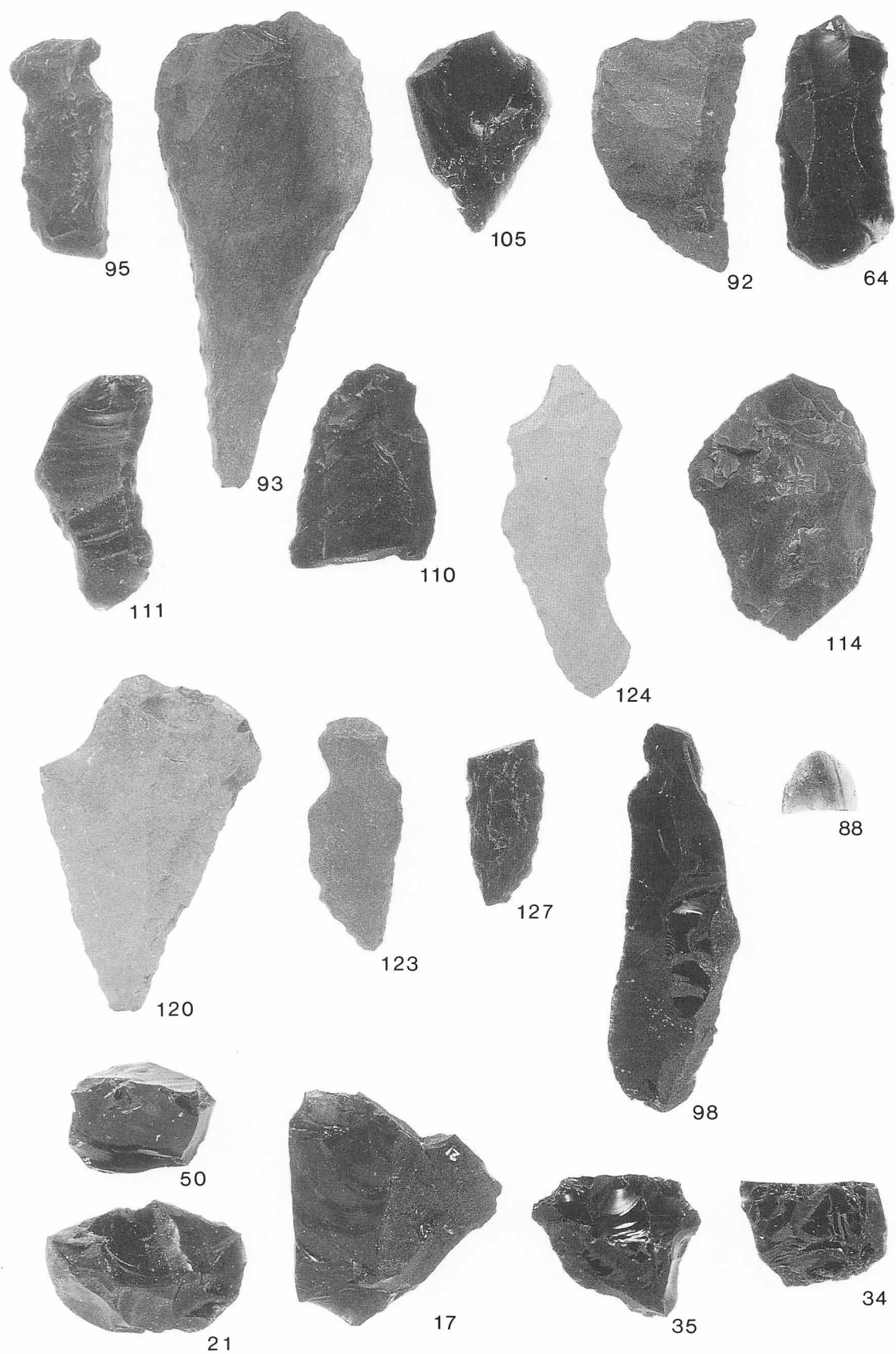
出土土器 (6)



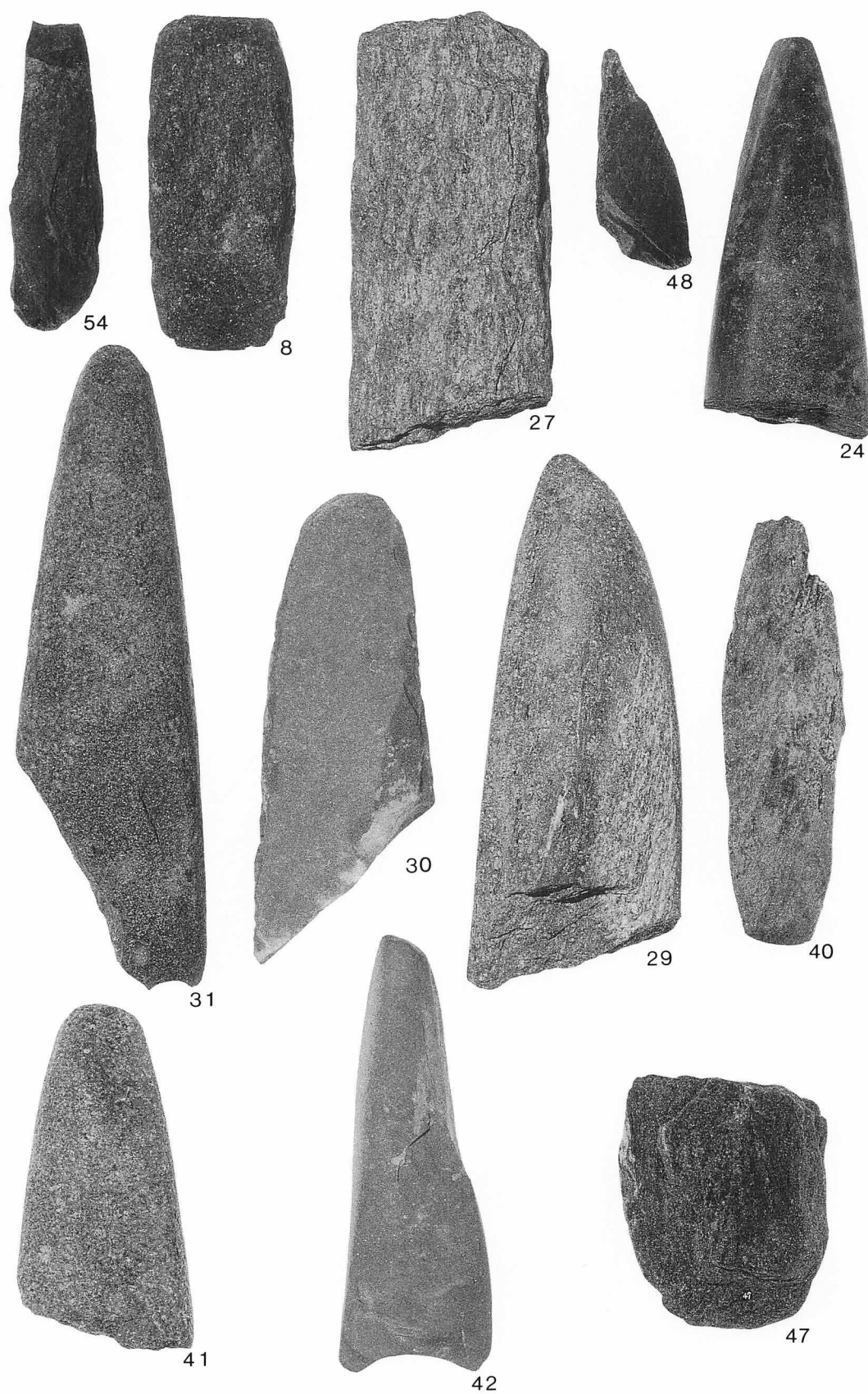
出土石器 (1)



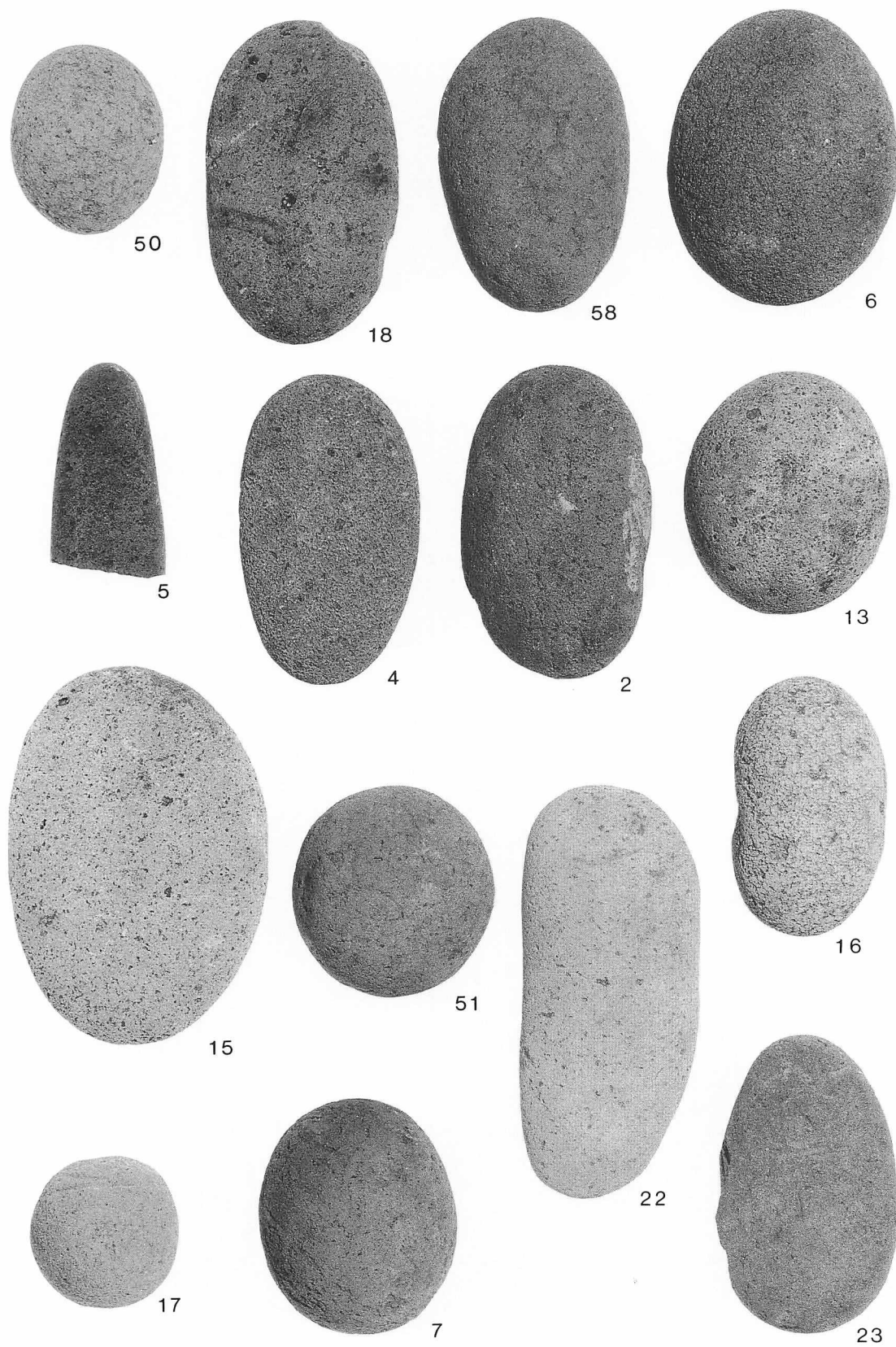
出土石器(2)



出土石器 (3)



出土石器 (4)



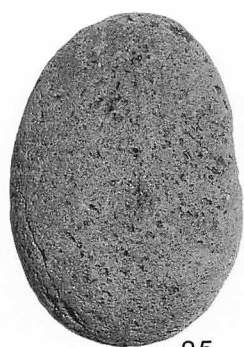
出土石器 (5)



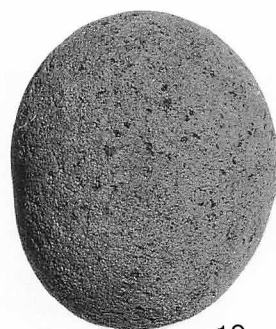
11



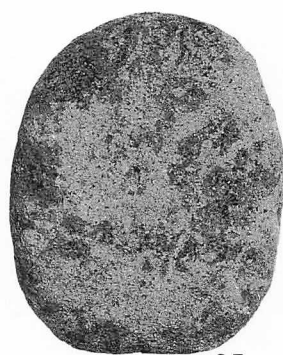
45



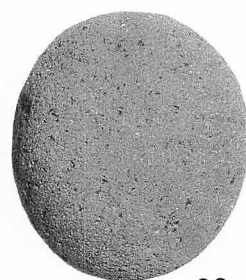
25



19



35



32



28

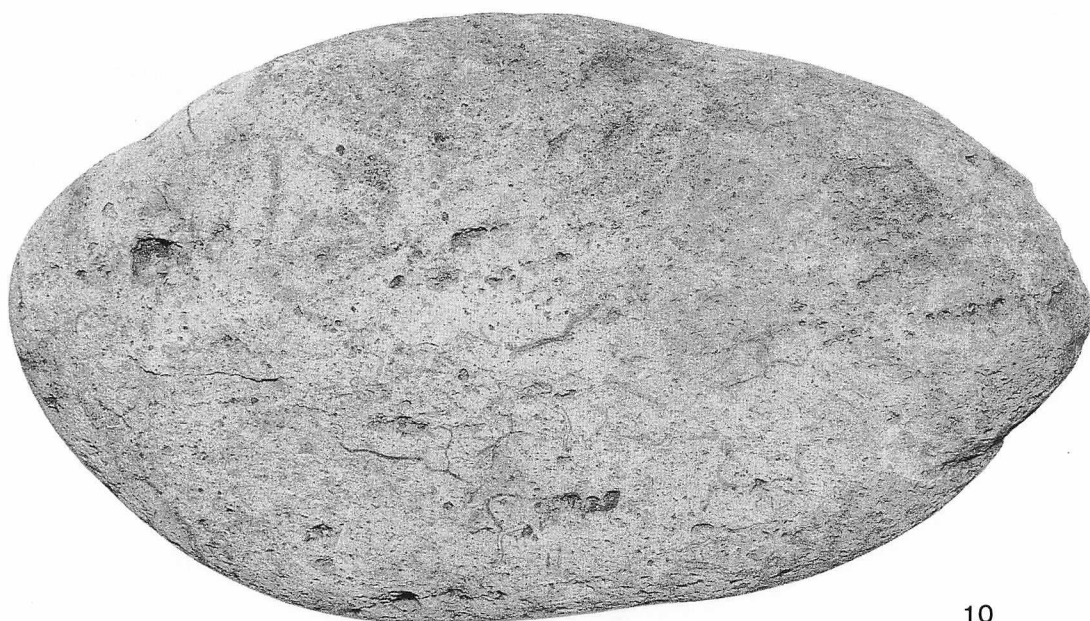
出土石器 (6)



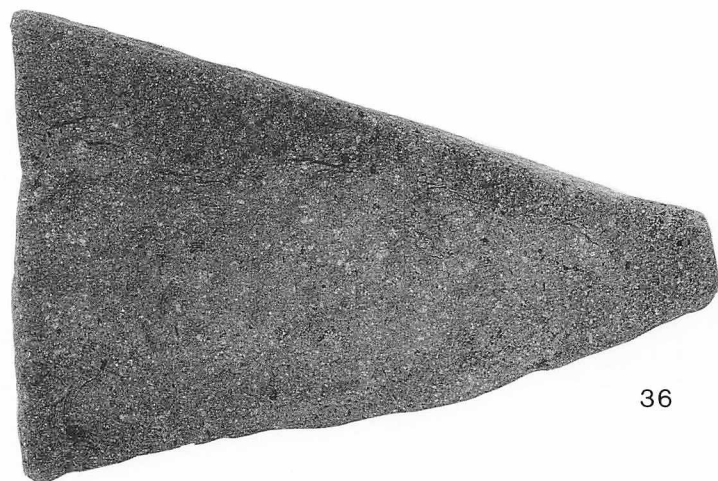
62



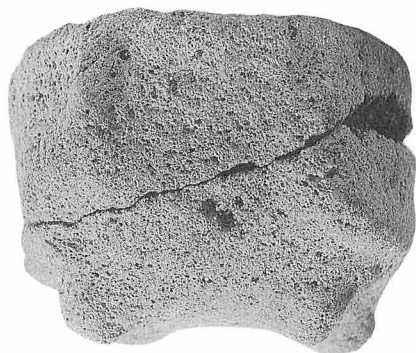
21



10



36



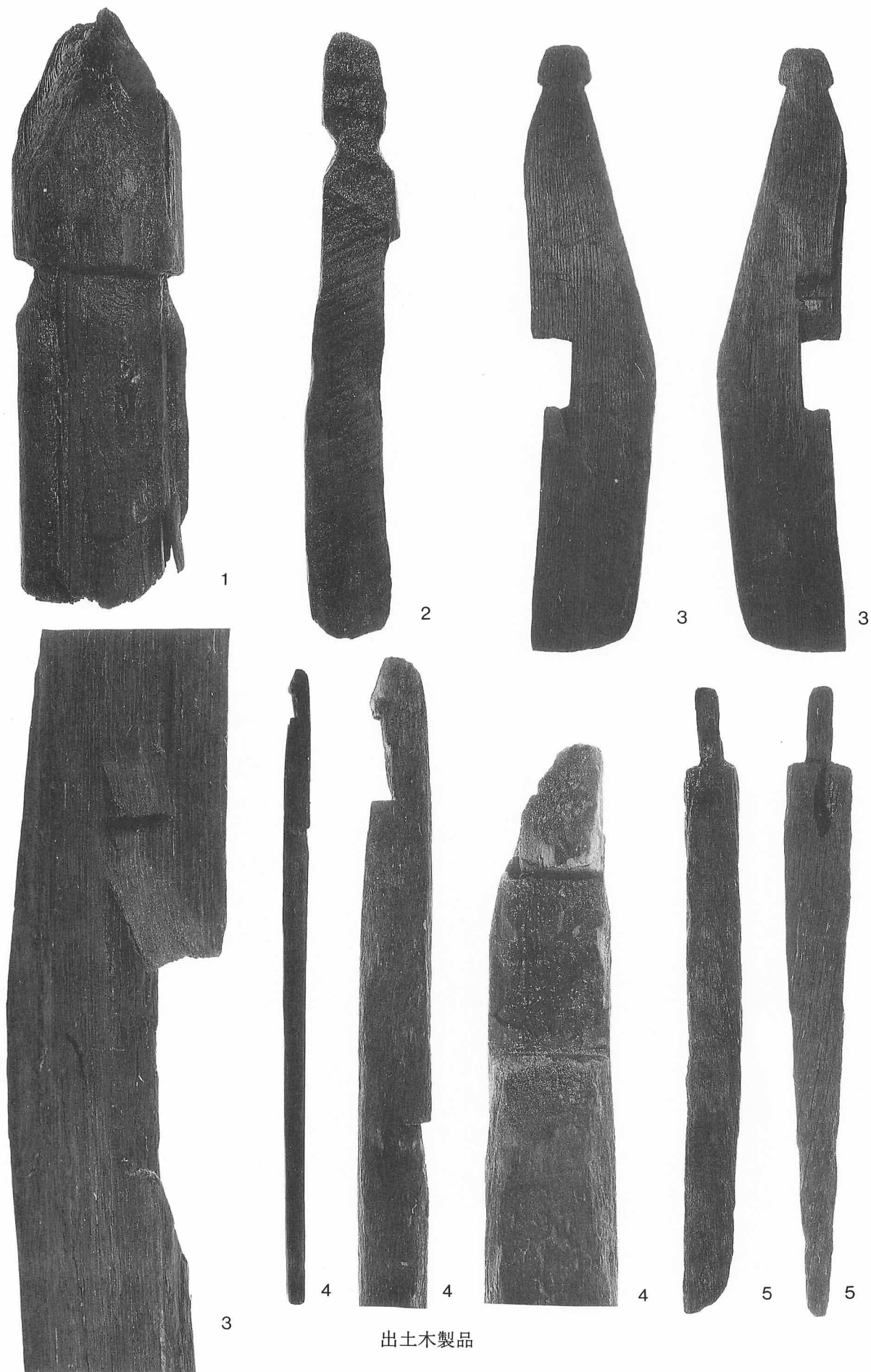
12

出土石器 (8)



33

出土石器 (9)

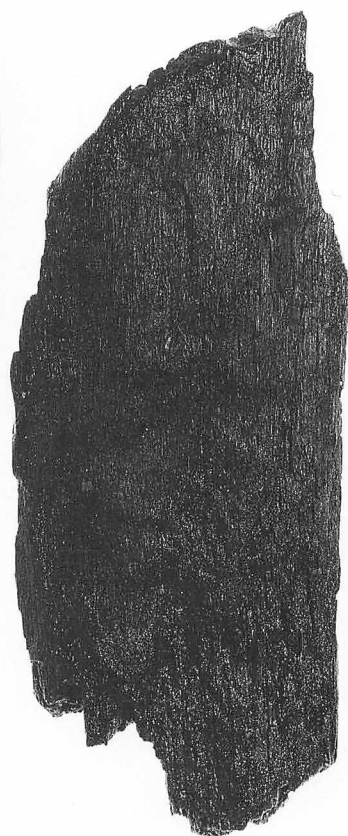




6



7



8

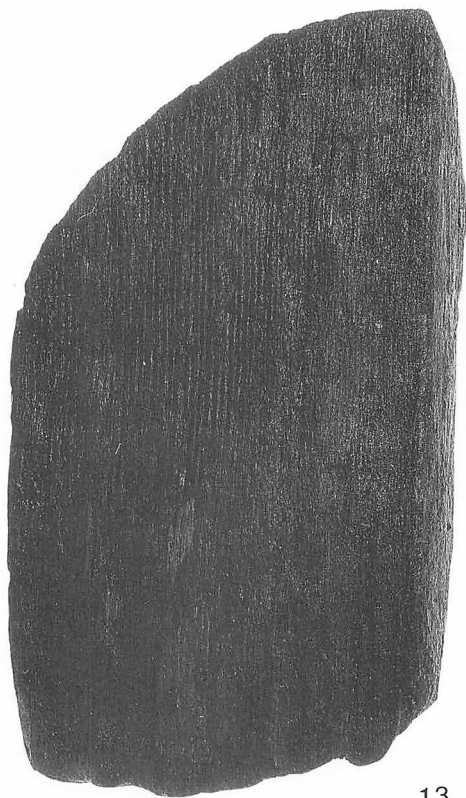


11

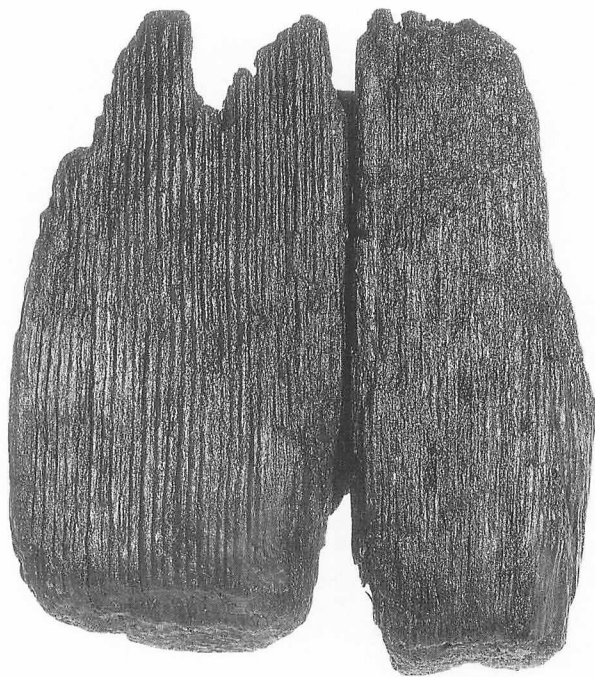
出土板材 (1)



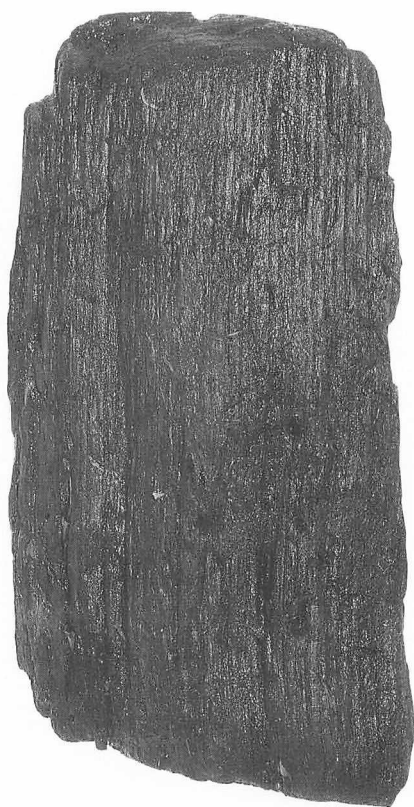
12



13



19



20

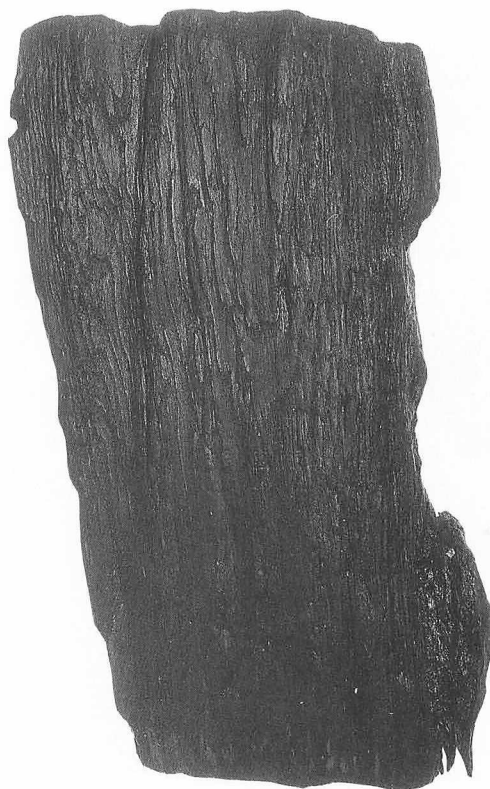


21

出土板材 (2)



24



24



24

出土板材 (3)



25



27

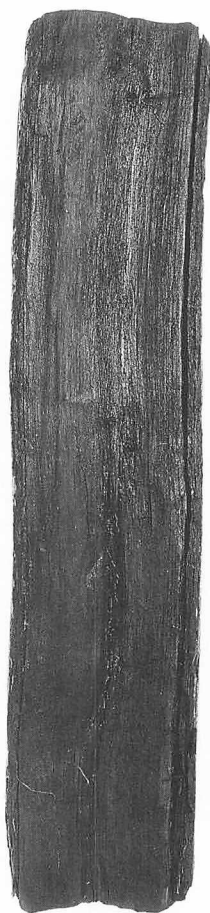
28



29



30

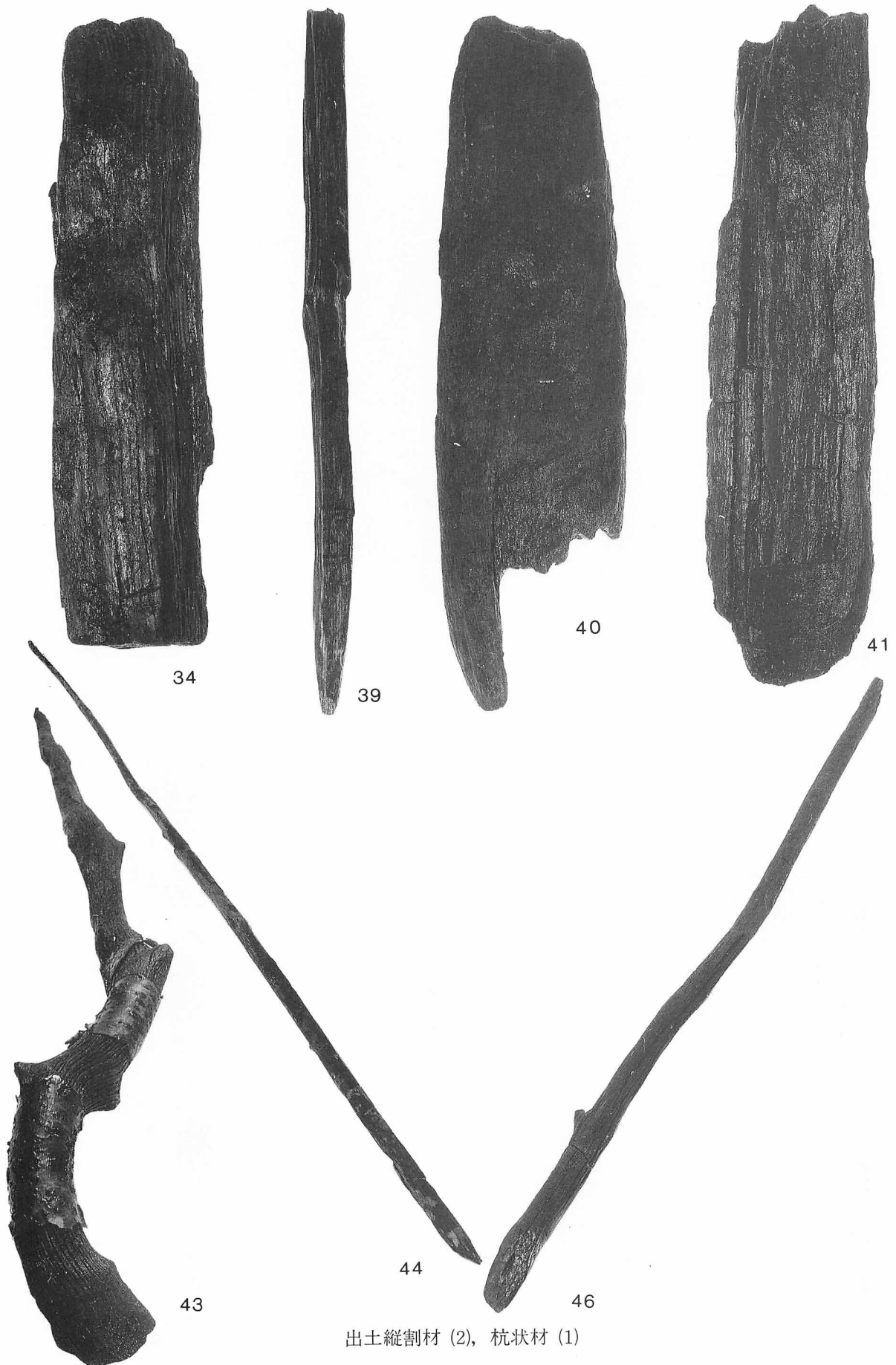


31



32

出土板材 (4), 弓状材, 縦割材 (1)

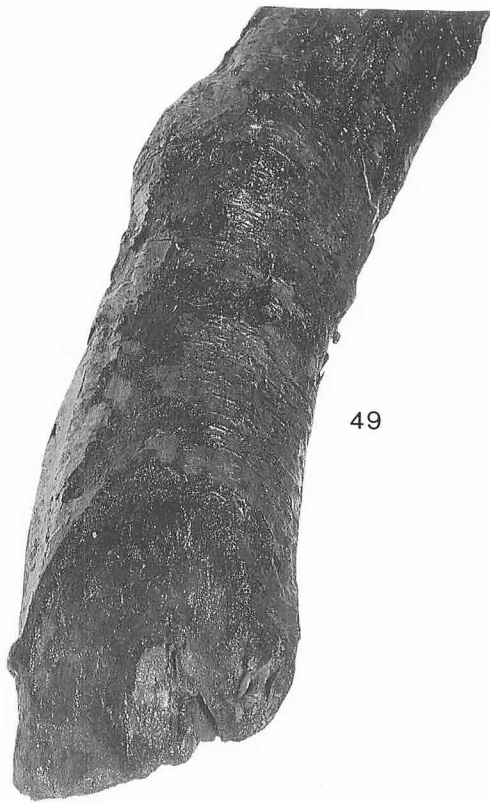




48



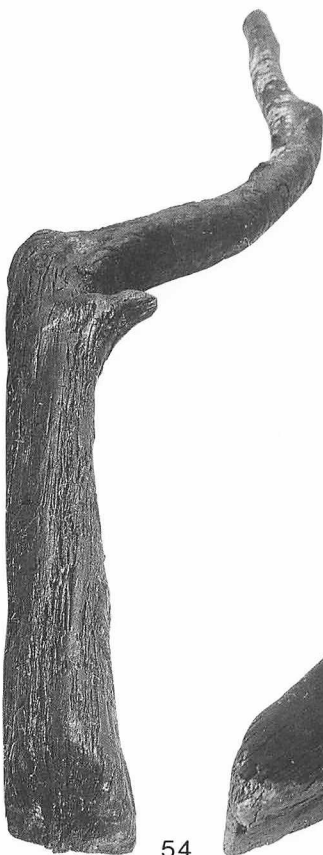
49



49



53

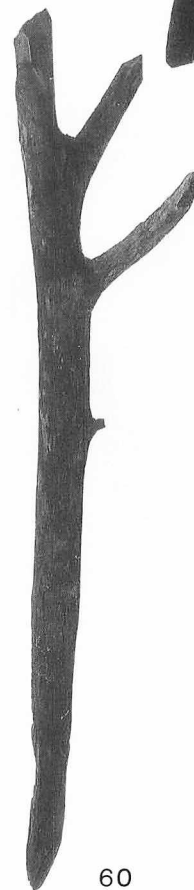


54

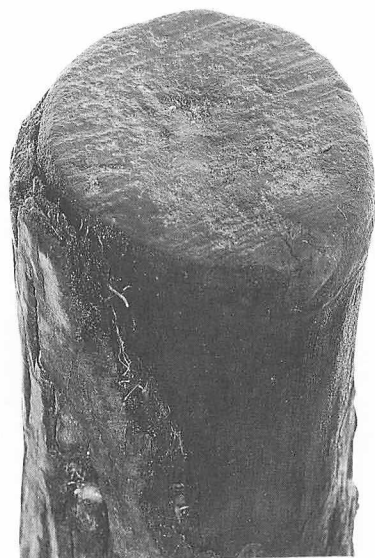


57

出土杭状材 (2)



60



出土杭状材 (3)

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第53集

小樽市

忍路土場遺跡・忍路5遺跡

—北後志東部地区広域営農団地農道整備
事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

第5分冊 XI 忍路5遺跡

平成1年3月25日発行

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎011(561)3131

印刷 (株) 総 北 海 札幌支社
〒001 札幌市北区北30条西5丁目菊地ビル4F

